

令和7年度

幼児教育実態把握に関する調査の結果

令和8年3月

山 梨 県

山梨県教育委員会

調査概要

- I 幼児の教育・保育に関する実態調査・・・・・・・・・・ 1
 - 1. 調査の趣旨
 - 2. 調査期間
 - 3. 調査方法
 - 4. 調査対象・回答数
 - 5. 調査の構成

- II 幼保小の連携・接続に関する実態調査・・・・・・・・・・ 3
 - 1. 調査の趣旨
 - 2. 調査期間
 - 3. 調査方法
 - 4. 調査対象・回答数
 - 5. 調査の構成

調査結果の概要

- I 幼児の教育・保育に関する実態調査・・・・・・・・・・ 5
 - 1. 幼児の育ち
 - 2. 子育て・家庭教育
 - 3. 園・所における教育・保育
 - 4. 保育者の資質向上
 - 5. 特別な配慮を必要とする乳幼児への教育・保育
 - 6. 保育の振り返り
 - 7. 情報機器の活用
 - 8. 人権・安全管理
 - 9. 子育て支援

- II 幼保小の連携・接続に関する実態調査・・・・・・・・・・ 12
 - 1. 幼児教育施設等・小学校
 - 2. 市町村教育委員会・子育て支援関係課

調査結果

I 幼児の教育・保育に関する実態調査 15

1. 幼児教育施設等
 - 園長・所長
 - 年長児担任
2. 園・所保護者
 - 年長児保護者
 - 3歳未満児の保護者
3. 子育て支援施設

II 幼保小の連携・接続に関する実態調査 38

1. 幼児教育施設等
2. 小学校
3. 市町村教育委員会
4. 市町村子育て支援関係課

調査概要

I 幼児の教育・保育に関する実態調査

1. 調査の趣旨

県内の乳幼児の育ちの状況、幼稚園・認定こども園・保育所等（以下、幼児教育施設等）と保護者及び小学校との連携・接続や子育て支援等の実態を把握し、本県の幼児教育の方向性を示す「山梨県幼児教育振興プログラム」（令和8年度予定）の策定と今後の施策の具体化に活用する。

なお、本調査は令和2年度に実施した「幼児教育実態把握調査」を基にしている。

2. 調査期間

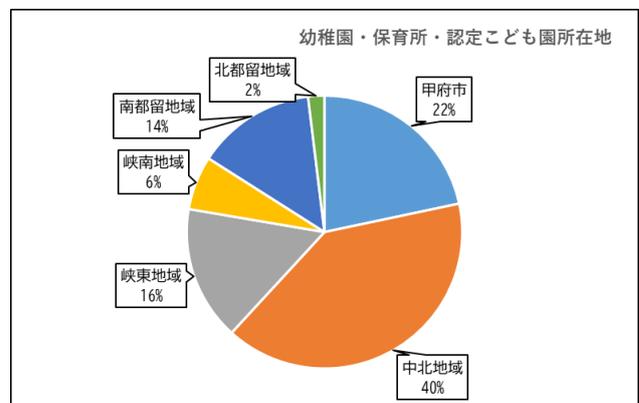
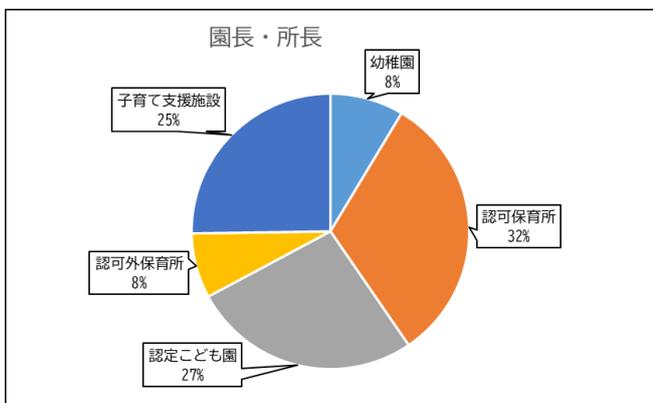
令和7年11月4日（火）～11月21日（金）

3. 調査方法

Web アンケート調査

4. 調査対象・回答者数・回答率

	対象施設数	回答率	回答者数			
			園長・所長	年長児担任	年長児保護者	3歳未満児保護者
幼稚園	21	86%	18	186	1309	1478
認可保育所	132	51%	67			
認定こども園	115	49%	56			
認可外保育所	98	16%	16			
子育て支援施設	93	57%	53			
合計	459	46%	210			



5. 調査の構成

(1) 幼児教育施設等調査

対 象	幼児教育施設等の園長・所長	幼児教育施設等の年長児担任
内 容	1 園・所における教育・保育 2 保育者の資質向上 3 特別な配慮を必要とする乳幼児への保育・教育 4 子育て支援 5 *情報機器の活用 6 *保育における人権・安全管理	1 幼児の育ち 2 保育者の資質向上 3 *保育の振り返り

*R7に新たに加えた項目

(2) 園・所保護者調査

対 象	年長児保護者 (各園・所で1クラス以上抽出)	3歳未満児クラスがある園・所の3歳未満児 の保護者(各園・所で1クラス以上抽出)
内 容	1 幼児の育ち 2 子育て・家庭教育 3 園所における教育・保育 4 子育て支援	1 子育て・家庭教育 2 園所における教育・保育 3 子育て支援

(3) 子育て支援施設調査

対 象	地域子育て支援拠点代表者(地域子育て支援センター・つどいの広場)
内 容	1 子育て支援

Ⅱ 幼保小の連携・接続に関する実態調査について

1. 調査の趣旨

文部科学省は令和4年3月31日付けで「幼保小の架け橋プログラムの実施にむけての手引き(初版)」を示した。山梨県教育委員会では、これに基づき、「山梨県教育振興基本計画(令和6年度～令和10年度)」において、「幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けた取り組みの推進」、「スタートカリキュラムの充実を図り、児童が幼児期の学びや育ちを踏まえ、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができる取り組みの推進」等を明記した。その成果指標として幼保小の円滑な接続を図るため、「幼保小の架け橋プログラム」に基づくスタートカリキュラムの編成、実施、評価、改善等について目標値が設定されている。

取組内容や方法を検討するうえで、県内の幼児教育施設、小学校及び各市町村教育委員会等の現状を把握するため幼保小の連携・接続についての実態調査を行う。

調査後、その結果を活かし、幼保小連携事業の現状と課題について考察するとともに、課題解決に向けた新たな取組につなげる。

2. 調査期間

令和7年7月5日(土)～7月31日(木)

3. 調査方法

Web アンケート調査

4. 調査対象・回答数

(1) 幼児教育施設(267) — 幼稚園・保育所・認定こども園

幼児教育施設(267)

	配布数	回答数	回答率
幼稚園	21	19	90%
保育所(分園2園を含む)	132	87	66%
認定こども園	114	87	76%
合計	267	193	72%

(2) 小学校(182) — 国公立小学校・国公立特別支援学校小学部

国公立小学校・国公立特別支援学校(182)

公立小学校	166	166	100%
国立小学校	1	1	100%
私立小学校	4	1	25%
県立特別支援学校	10	10	100%
国立特別支援学校	1	1	100%
合計	182	179	98%

(3) 市町村教育委員会 (27)

市町村教育委員会	27	26	96%
----------	----	----	-----

(4) 市町村子育て支援関係課 (27)

子育て支援関係課	27	27	100%
----------	----	----	------

5. 調査の構成

(1) 幼児教育施設・小学校調査

対 象	幼児教育施設・小学校の管理職または担当者
内 容	1 カリキュラム 2 幼保小の連携・接続担当者 3 幼保小の連携・接続の取組

(2) 市町村教育委員会・市町村子育て支援関係課調査

対 象	市町村教育委員会・市町村子育て支援関係課の担当者
内 容	1 カリキュラム 2 幼保小の連携・接続担当者 3 幼保小の連携・接続の取組

調査結果の概要

※上位3項目、下位3項目の記載について

回答の選択肢が10項目以上ある場合のみ上位・下位の両方を記載することとした。

I 幼児の教育・保育に関する実態調査

1. 幼児の育ち

①幼児の育ちの状況

【回答者：年長児担任 P.26 年長児保護者 P.30】

幼児の育ちの姿について、「あてはまる」と回答した結果は次のとおりであった。

	年長児担任	年長児保護者
上位3項目	セ 自らやりたいことを見つけて、伸び伸び遊ぶ	ア 遊びに集中し、より楽しくなるようなアイデアを出したり工夫したりする
	カ 絵本やお話などに興味・関心をもって、聞いたり自分で読んだりする	オ 文字・数量・記号などに興味・関心を持ち、遊びや生活に生かしたり、使ったりしている
	ア 遊びに集中し、より楽しくなるようなアイデアを出したり工夫したりする	セ 自らやりたいことを見つけて、伸び伸び遊ぶ
下位3項目	ウ 自分なりに予測や判断したことを、試したり確かめたりしようとする	ソ きょうだいげんかや友達とのいざこざの場面などで双方の気持ちを代弁したり、解決への方法を提案したりしている
	キ 自分の感情を爆発させるのではなく、言葉で自分の気持ちを伝えたり相手の思いを聞いたりする	キ 自分の感情を爆発させるのではなく、言葉で自分の気持ちを伝えたり相手の思いを聞いたりする
	コ 公共の場で、その場にふさわしい行動をとったり、みんなで使うものを大切にしたりする	ス 新しいことや苦しいことも物怖じせずやってみようとする

2. 子育て・家庭教育

①子育てで感じていること

【回答者：年長児保護者 P.30 3歳未満児保護者 P.34】

子育てで感じていることについて、次のとおり回答があった。

	年長児保護者	3歳未満児保護者
上位3項目	ア 子どもの成長によるこびを感じる	ア 子どもの成長によるこびを感じる
	エ 子どもがかわいくてたまらないと思う	エ 子どもがかわいくてたまらないと思う
	ウ 子どもとのふれあいや対話を楽しんでいる	ウ 子どもとのふれあいや対話を楽しんでいる

②子育てや家庭教育に関する悩みや気になることの相談方法

【回答者：年長児保護者 P.31 3歳未満児保護者 P.34】

相談方法について、次のとおり回答があった。

	年長児保護者	3歳未満児保護者
上位3項目	ア 配偶者・パートナー	ア 配偶者・パートナー
	エ 子育ての仲間や子育て経験がある友人・知人	エ 子育ての仲間や子育て経験がある友人・知人
	イ あなたや配偶者・パートナーの親	イ あなたや配偶者・パートナーの親
下位3項目	ケ モバイルアプリケーション	サ 県や市町村の広報紙
	サ 県や市町村の広報紙	ケ モバイルアプリケーション
	シ 悩みや気になることがあっても、今は仕方ないとあきらめる	シ 悩みや気になることがあっても、今は仕方ないとあきらめる

③子育てや家庭教育に関する悩みや気になることの相談内容

【回答者：年長児保護者 P.31 3歳未満児保護者 P.35】

相談内容について、次のとおり回答があった。

	年長児保護者	3歳未満児保護者
上位3項目	ウ 子どもの行動や性格に関すること	ア 子どもとの関わり方やしつけなどの子育ての方法に関すること
	ア 子どもとの関わり方やしつけなどの子育ての方法に関すること	ウ 子どもの行動や性格に関すること
	イ 子どもの生活習慣に関する	イ 子どもの生活習慣に関する

④入学に際し、不安や心配になること

【回答者：年長児保護者 P.32】

入学に際し、不安や心配になることについて、次のとおり回答があった。

	年長児保護者
上位3項目	キ 学校生活に慣れることができるか
	イ 小学校の授業についていけるか
	エ 友達をつくることができるか

3. 園・所における教育・保育

**①園・所が保育について重視して取り組んでいること
・保護者が保育について望んでいること**

【回答者：園長・所長 P.15 年長児の保護者 P.32 3歳未満児の保護者 P.35】

園・所が重視している保育と、保護者が望んでいる保育について、次のとおり回答があった。

	園長・所長	年長児保護者	3歳未満児保護者
上位3項目	ウ 基本的な生活習慣を身につけること	カ 人への思いやりをもつこと	ア 自分を発揮して伸び伸び遊ぶこと
	ア 自分を発揮して伸び伸び遊ぶこと	ア 自分を発揮して伸び伸び遊ぶこと	カ 人への思いやりをもつこと
	イ 健康な体をつくることカ 人への思いやりをもつこと	ウ 基本的な生活習慣を身につけること	ウ 基本的な生活習慣を身につけること
下位3項目	サ 文字や数を習得すること	ス 外国語に親しむこと	セ 園外において演奏活動等に参加する機会があること
	ス 外国語に親しむこと	シ 外国などの多様な文化に親しむこと	ス 外国語に親しむこと
	オ 礼儀作法を身につけること シ 外国などの多様な文化に親しむこと	サ 文字や数を習得すること	シ 外国などの多様な文化に親しむこと

②自然体験活動の取組

【回答者：園長・所長 P.15～16】

自然体験活動の取組について、89%の園・所で保育計画に入れ、取り組んでいると回答している。
取組内容は、次のとおりであった。

	園長・所長
上位3項目	ア 身近な自然素材に触れながら遊ぶ
	ウ 園庭で遊ぶ
	エ 近所を散歩する
下位3項目	キ 川や湖で遊ぶ
	サ 日帰りや宿泊でキャンプを行う
	イ 動物に触れる

4. 保育者の資質向上

①教育・保育の実践における課題

【回答者：年長児担任 P.26～27】

教育・保育の実践に課題があると感じている年長児担任は、98%であった。
課題の内容は次のとおりであった。

	年長児担任
上位3項目	キ 保護者への対応
	イ 教育・保育内容
	カ 小学校との連携の内容や方法、小学校入学を見通した年長児の指導計画の作り方

②教員・保育士等に特に必要な研修内容

【回答者：園長・所長 P.16 年長児担任 P.27】

必要な研修内容について、次のとおり回答があった。

	園長・所長	年長児担任
上位3項目	ア 子どもの発達や理解の見取り方	エ 特別な支援を要する子どもの理解や関わり方
	イ 子どもへの関わり方	ア 子どもの発達や理解の見取り方
	エ 特別な支援を要する子どもの理解や関わり方	キ 保護者支援・子育て支援の内容や方法
下位3項目	コ 指導計画の作成	ス 法律・制度
	オ 「運動遊び」の実技演習	コ 指導計画の作成
	ク 食物・アレルギー対応	ケ 保健衛生・安全対策
	ケ 保健衛生・安全対策	

③教育・保育士等の資質向上のために必要な仕組み

【回答者：園長・所長 P.17】

資質向上のために必要な仕組みについて、次のとおり回答があった。

	園長・所長
上位3項目	カ 研修に参加する機会の確保
	ア 他の園・所との合同研修
	ウ 公開保育、研究発表会、事例研究会など教育・保育を学び合う機会

④令和6年度に行った園内研修の回数

【回答者：園長・所長 P.17】

最も選択率が高い回数は、「エ 11回～15回」である。

⑤令和6年度に受講した園外研修の回数

【回答者：年長児担任 P.28】

最も選択率が高い回数は、「イ 1回～3回」である。

⑥職員に身につけさせたいと思う資質・能力、保育者として身につけたいと思う資質・能力

【回答者：園長・所長 P.18 年長児担任 P.28】

保育者の資質・能力について、次のとおり回答があった。

	園長・所長	年長児担任
上位3項目	コ 学び続ける意欲と力	ア 幼児理解と適切な援助力
	キ 人間関係をうまく作る力	エ 保護者との連携と支援
	工 幼稚園教育要領、保育所保指針等の各領域を踏まえた幅広い視野	ク 特別な配慮を必要とする乳幼児への適切な保育
下位3項目	ア 事務処理の能力と知識	オ 学級事務
	ケ 地域や関係機関との連携	コ 地域や関係機関との連携
	イ 教材研究	キ 教材研究

5. 保育の振り返り

①振り返りをする機会の状況

【回答者：年長児担任 P.29】

保育者が集まって保育の振り返りの機会があるのは79%であった。

②振り返りの頻度の状況

【回答者：年長児担任 P.29】

「園・所全体で月に数回行っている」が最も多い選択率で、42%であった。

③子どもの姿や成長の様子の記録方法

【回答者：年長児担任 P.29】

「保育日誌（電子でデータ・文）」が最も多い選択率で、45%であった。

6. 特別な配慮を必要とする乳幼児への教育・保育

①発達障害等の診断を受け特別な支援が必要な乳幼児の在籍状況

【回答者：園長・所長 P.18】

「1人～2人」いるが最も多い選択率で、37%であった。

②発達障害の診断は受けていないが、特別な支援が必要と感じている乳幼児の在籍状況

【回答者：園長・所長 P.19】

「3人～4人」いるが最も多い選択率で、25%であった。

③食物アレルギーにより特別な配慮が必要な乳幼児の在籍状況

【回答者：園長・所長 P.19】

「1人～2人」いるが最も多い選択率で、36%であった。

④海外から帰国または、外国籍で日本語の使用が困難な乳幼児の在籍状況

【回答者：園長・所長 P.20】

「0人」が最も多い選択率で、69%であった。

⑤保護者の養育により特別な配慮が必要な乳幼児の在籍状況

【回答者：園長・所長 P.20】

「0人」が最も多い選択率で、43%であった。

⑥特別な支援が必要な乳幼児に対応するため、現在行っている体制や取組

【回答者：園長・所長 P.21】

特別な支援が必要な乳幼児に対応するための体制や取組について、次のとおり回答があった。

	園長・所長	
上位3項目	コ 市町村の担当者による巡回相談等の活用	
	イ 個別の乳幼児の実態把握	
	エ 個別の指導計画の作成	キ 保育士等の加配
下位3項目	ウ 特別支援コーディネーターの指名	
	カ 特別支援学校のセンター的機能の活用	
	セ 市町村による通級指導教室の活用	

⑦特別な支援が必要な幼児の就学にあたり、園・所で行っている支援

【回答者：園長・所長 P.21】

就学にあたっての支援について、次のとおり回答があった。

	園長・所長	
上位3項目	ア 小学校への申し送り	
	エ 専門機関との連携	
	ウ 市町村担当者による相談等の活用	

7. 情報機器の活用

①無線のインターネット〔Wi-Fi〕を利用できる環境や設備の状況

【回答者：園長・所長 P.24】

Wi-Fi を利用できる環境が整備されているのは、92%であった。

②タブレットやパソコンの利用状況

【回答者：園長・所長 P.24】

「日常的に利用している」が最も多い選択率で、89%であった。

③ICTの活用方法

【回答者：園長・所長 P.24】

ICTの活用方法について、次のとおり回答があった。

	園長・所長
上位3項目	ア 保護者への緊急連絡
	イ 保護者への日常の連絡
	オ 園児の入退出管理システム

④ICTの導入によるメリット

【回答者：園長・所長 P.25】

ICTの導入によるメリットについて、次のとおり回答があった。

	園長・所長
上位3項目	ア 事務作業が楽になった
	イ 作業時間が短縮できた
	ウ 園内での情報共有がしやすくなった

8. 人権・安全管理

①子どもの人権や施設・設備の安全管理の状況

【回答者：園長・所長 P.25】

子供の人権や施設・設備の安全管理の状況について、次のとおり回答があった。

	園長・所長
上位2項目	オ ヒヤリ・ハットや事故防止について保育者間で話したり共有したりしている
	イ 保育の中で、子どもの意見を尊重する場面を意識している

9. 子育て支援

①保護者からの相談内容

【回答者：園長・所長 P.22 子育て支援施設 P.37】

園・所で受ける保護者からの相談内容について、次のとおり回答があった。

	園長・所長	子育て支援施設
上位3項目	ウ 子どもの行動や性格	エ 子どもの育ちや成長
	エ 子どもの育ちや成長	イ 子どもの生活習慣
	イ 子どもの生活習慣	ウ 子どもの行動や性格

②園・所に期待する支援

【回答者：年長児保護者 P.33 3歳未満児保護者 P.36】

園・所に期待する支援について、次のとおり回答があった。

	年長児保護者	3歳未満児保護者
上位3項目	ア 子育てや家庭の教育について気軽に相談できる場や機会の提供	
	イ 園・所だよりやクラスだよりなどを通じた子育て・家庭教育についての日常的な情報提供	
	キ 親子で一緒に参加できる行事などの提供	

③保護者に必要と感じる支援

【回答者：園長・所長 P.22 子育て支援施設 P.37】

保護者に必要と感じる支援について、次のとおり回答があった。

	園長・所長	子育て支援施設
上位3項目	ア 乳幼児の発達や関わり方の理解のための情報提供	ウ 子育てについて気軽に相談できる場や機会の提供
	ウ 子育てについて気軽に相談できる場や機会の提供	ア 乳幼児の発達や関わり方の理解のための情報提供
	カ 地域の専門機関とつながるための支援	カ 地域の専門機関とつながるための支援

④園・所における子育て支援

【回答者：園長・所長 P.23】

「行っている」の回答率が、83%であった。

⑤園・所で行っている子育て支援の内容

【回答者：園長・所長 P.23】

保護者に必要と感じる支援について、次のとおり回答があった。

	園長・所長
上位3項目	ウ 園・所職員による相談
	サ 行事への参加
	ア 園庭開放
下位3項目	カ 園・所職員による講座、講演
	ケ 子育てサロンの開放、子育てサークルの支援
	エ 外部の専門職による園・所での相談

⑥子育て支援を行っている対象年齢

【回答者：園長・所長 P.23】

対象年齢の選択率は、次のとおりであり、3歳未満児の割合が高い。

0歳	77%
1歳	89%
2歳	94%
3歳	69%
4歳	57%
5歳	59%
6歳	45%

Ⅱ 幼保小の連携・接続に関する実態調査

1. 幼児教育施設・小学校

①カリキュラム

【回答者：幼児教育施設 P.38～41 小学校 P.45～47】

〔1〕5歳児カリキュラム・スタートカリキュラムの作成について、次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
① 作成している	75%	100%

*スタートカリキュラムについては、教育課程説明会事前調査結果より

〔2〕5歳児カリキュラム・スタートカリキュラムは「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっている項目について、次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
① 「架け橋プログラム」に基づく内容となっている	26%	46%
② 「架け橋プログラム」に沿うよう作成中 *	16%	18%

〔3〕※の回答者において、作業が完了する時期について、次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
令和7年度中	13%	36%
令和8年度中	28%	39%

〔4〕5歳児カリキュラム・スタートカリキュラムについて実施、評価、改善を行っているかについて、次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
④ 実施、評価、改善を行っている	42%	44%

*〔2〕で「『幼保小の架け橋プログラム』に基づく内容となっている」と回答した幼児教育施設・小学校を基準値とした割合

〔5〕5歳児カリキュラム・スタートカリキュラムの作成において協議した組織について次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
上位2項目	① 小学校区を基本として組織	① 小学校区を基本として組織
	③ 市町村を単位とした組織	③ 市町村を単位とした組織

〔6〕5歳児カリキュラム・スタートカリキュラムの作成において関わった人について次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
上位3項目	③ 園・所管理職	② 小学校教諭
	④ 園・所保育者	① 小学校管理職
	② 小学校教諭	③ 園・所管理職

〔7〕5歳児カリキュラム・スタートカリキュラムが「架け橋プログラム」に基づく内容となっていない理由について次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
上位2項目	② 作成方法がわからない	① 多忙で作成時間がとれない
	① 多忙で作成時間がとれない	② 作成方法がわからない

②幼保小の連携・接続担当者

【回答者：幼児教育施設 P.41 小学校 P.47】

〔1〕幼保小連携・接続のすすめるにあたり窓口となる担当者について、次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
①担当者がある	79%	91%

〔2〕窓口担当者の職名について、次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
上位2項目	教諭（保育士・保育教諭・主任・5歳児担当など）	教諭
	園長・所長・施設長・副園長など	教頭

③幼保小の連携・接続の取組状況

【回答者：幼児教育施設 P.42～44 小学校 P.45～49】

〔1〕幼保小連携・接続の意義について、次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
上位3項目	イ 教育・保育内容や指導方法などについて相互理解を深めるため	ウ 小学校での子どもの様子を把握し、園・所での指導の参考とするため
	ア 子どもの発達や連続性を見通した教育課程を編成するため	ア 子どもの発達や連続性を見通した教育課程を編成するため
	ウ 小学校での子どもの様子を把握し、園・所での指導の参考とするため	イ 教育・保育内容や指導方法などについて相互理解を深めるため

〔2〕幼保小連携・接続の取組について、次のとおり回答があった。

	幼児教育施設	小学校
ア 行っている	90%	97%

〔3〕幼保小の連携・接続の具体的取組について、各設問(3-3, 3-4, 3-5)で最も選択率の高い内容は、次のとおりであった。

	幼児教育施設	小学校
3-3 教職員の関わり	イ 入学時期前後の連絡会や聞き取り	イ 入学時期前後の連絡会や聞き取り
3-4 児童と幼児の関わり	ア 行事を通じた交流	イ 1、2年生の生活科を通じた交流
3-5 保護者対象の取組	ウ 実施していない	イ 園所の保護者向けの入学前小学校の授業公開、懇談会、意見交換会などの実施

2. 市町村教育委員会・市町村子育て支援関係課

①カリキュラム

【回答者：市町村教育委員会 P.50 市町村子育て支援関係課 P.52】

〔1〕「幼保小の架け橋プログラム」について、次のとおり回答があった。

	教育委員会	子育て支援関係課
知っている	96%	85%

〔2〕 幼保小の連携・接続に基づいたカリキュラムの作成・実施状況の把握について、次のとおり回答があった。

	教育委員会	子育て支援関係課
① スタートカリキュラムのみ把握	35%	4%
② 5歳児カリキュラムのみ把握	0%	7%
③ どちらも把握している	38%	37%
④ どちらも把握していない	27%	52%

②幼保小の連携・接続担当者

【回答者：市町村教育委員会 P.50 市町村子育て支援関係課 P.52】

〔1〕 幼保小の架け橋プログラムをすすめるにあたり窓口となる担当者について、次のとおり回答があった。

	教育委員会	子育て支援関係課
① 担当者がある	77%	37%

③幼保小連携・接続の取組状況

【回答者：市町村教育委員会 P.51 市町村子育て支援関係課 P.53】

〔1〕 教育委員会や子育て支援関係課等の行政担当者と幼保小の関係者が参集する会議の開催について、次のとおり回答があった。

	教育委員会	子育て支援関係課
① 開催している	62%	56%

〔2〕 教育委員会や子育て支援関係課等の行政担当者と幼保小の関係者が参集する会議の開催回数について、次のとおり回答があった。

	教育委員会		子育て支援関係課
上位2項目	2回		2回
	1回	3回	3回

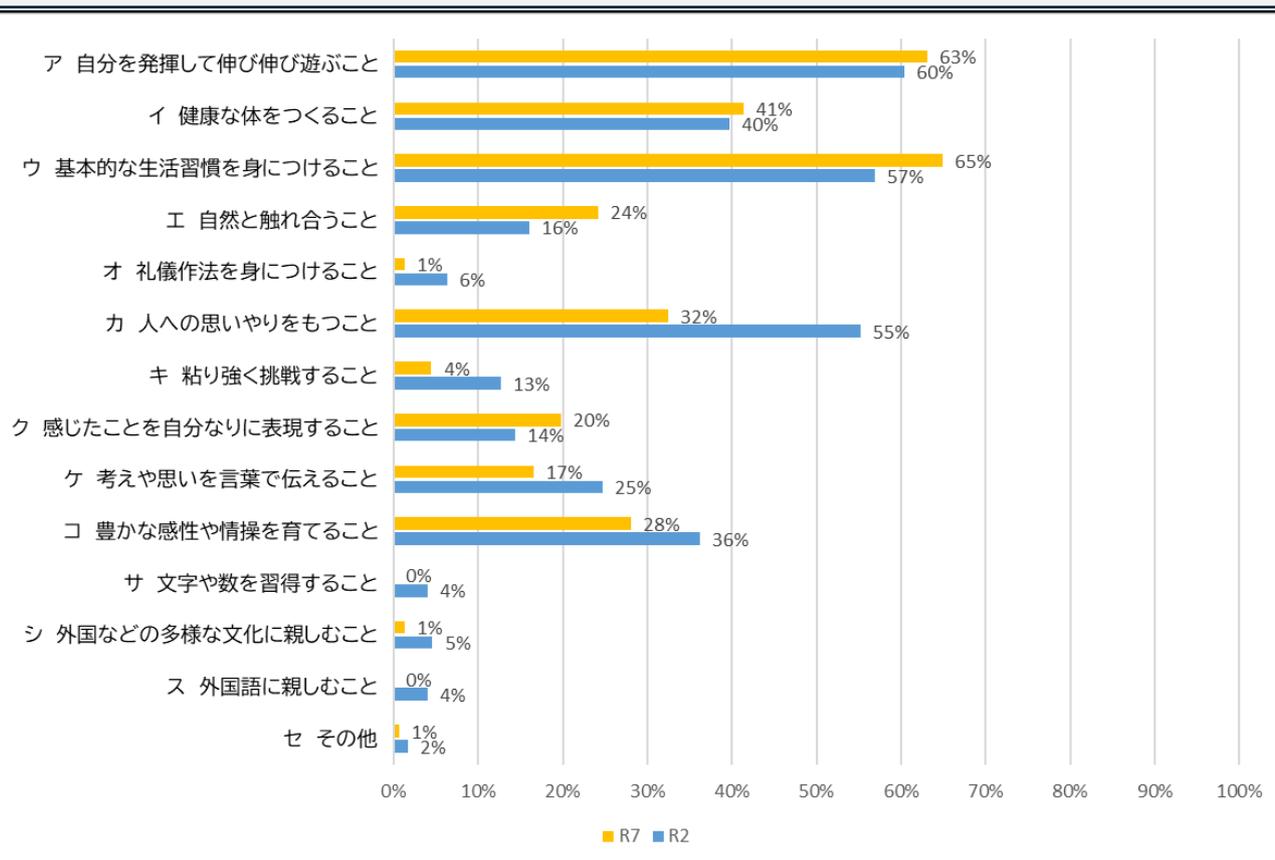
*〔1〕で「開催している」と回答した教育委員会、子育て支援関係課を基準値とした割合

調査結果

I 幼児の教育・保育に関する実態調査

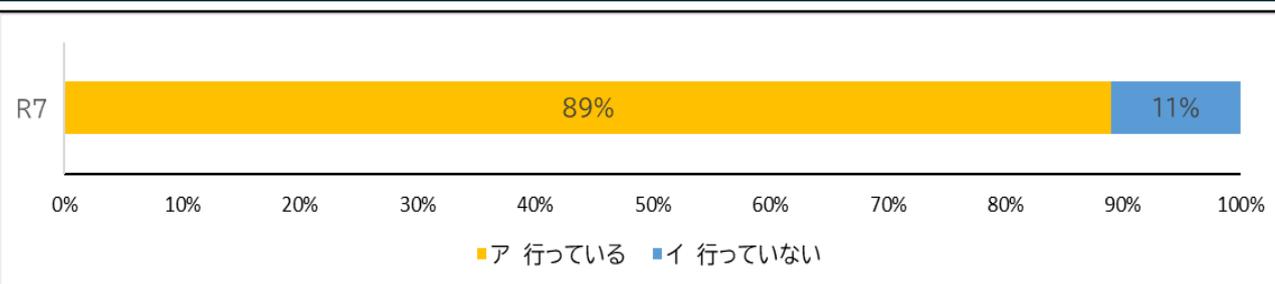
1 園・所における教育・保育

1-1 (全員回答) 貴幼児教育施設で、乳幼児に対して重視して取り組んでいることを3つまで選んでください。



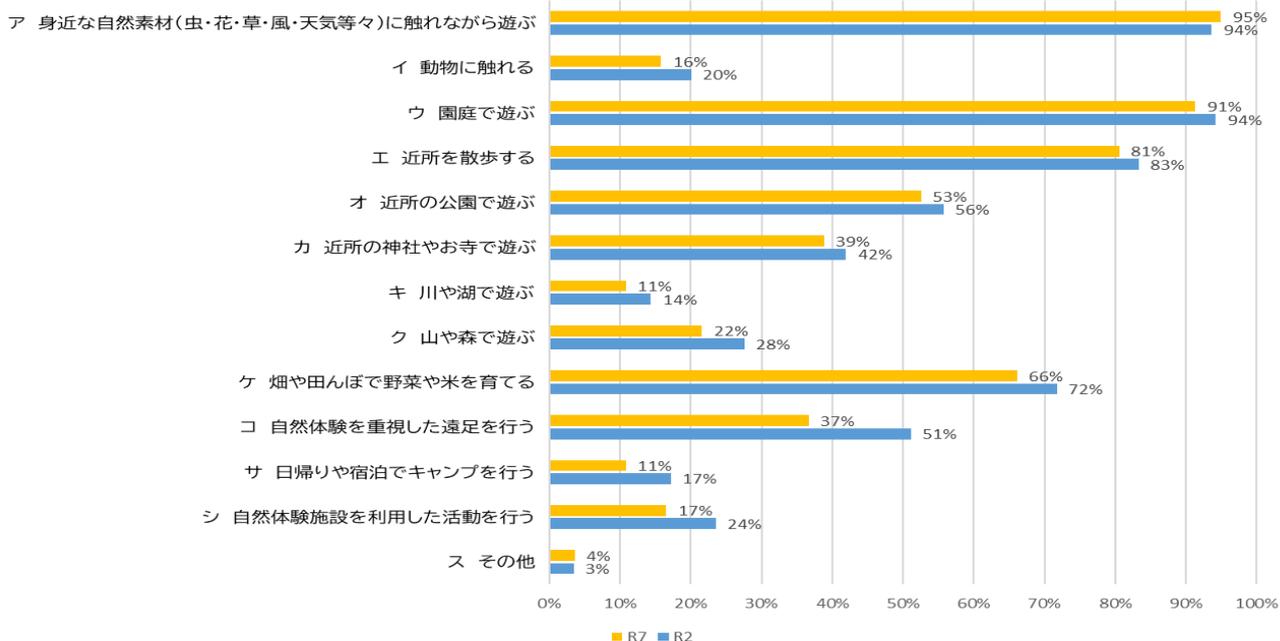
上位2項目「自分を発揮して伸び伸び遊ぶこと」「基本的な生活習慣を身につけること」に変化はない。「自然と触れ合うこと」「感じたことを自分なりに表現すること」を選択する園長・所長が増えた一方で、「人への思いやりをもつこと」を選択する割合が大きく減っている。

1-2-1【全員回答】貴幼児教育施設では、身近な自然で遊ぶ「自然体験活動」を保育に取り入れていますか。



89%の園・所が自然体験活動を行っている。

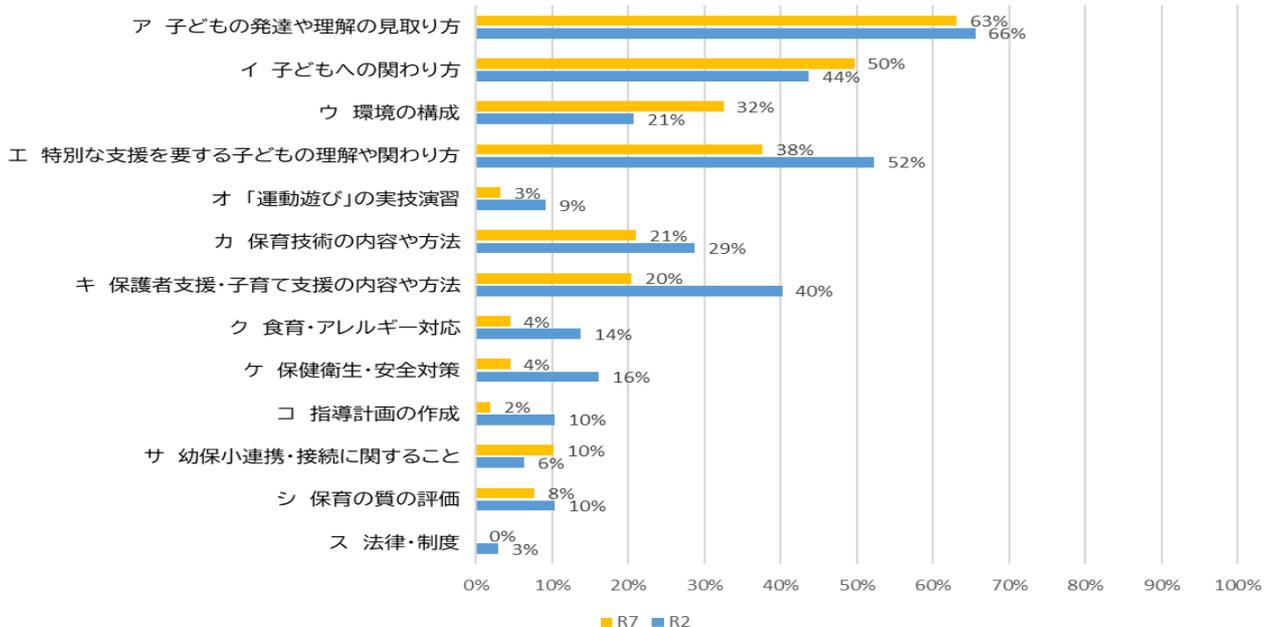
1-2-2 【「行っている」回答者のみ回答】 取組の内容を選んでください。（複数回答可）



取組内容の上位3項目は、「身近な自然素材（虫・花・草・風・天気等々）に触れながら遊ぶ」「園庭で遊ぶ」「近所を散歩する」である。

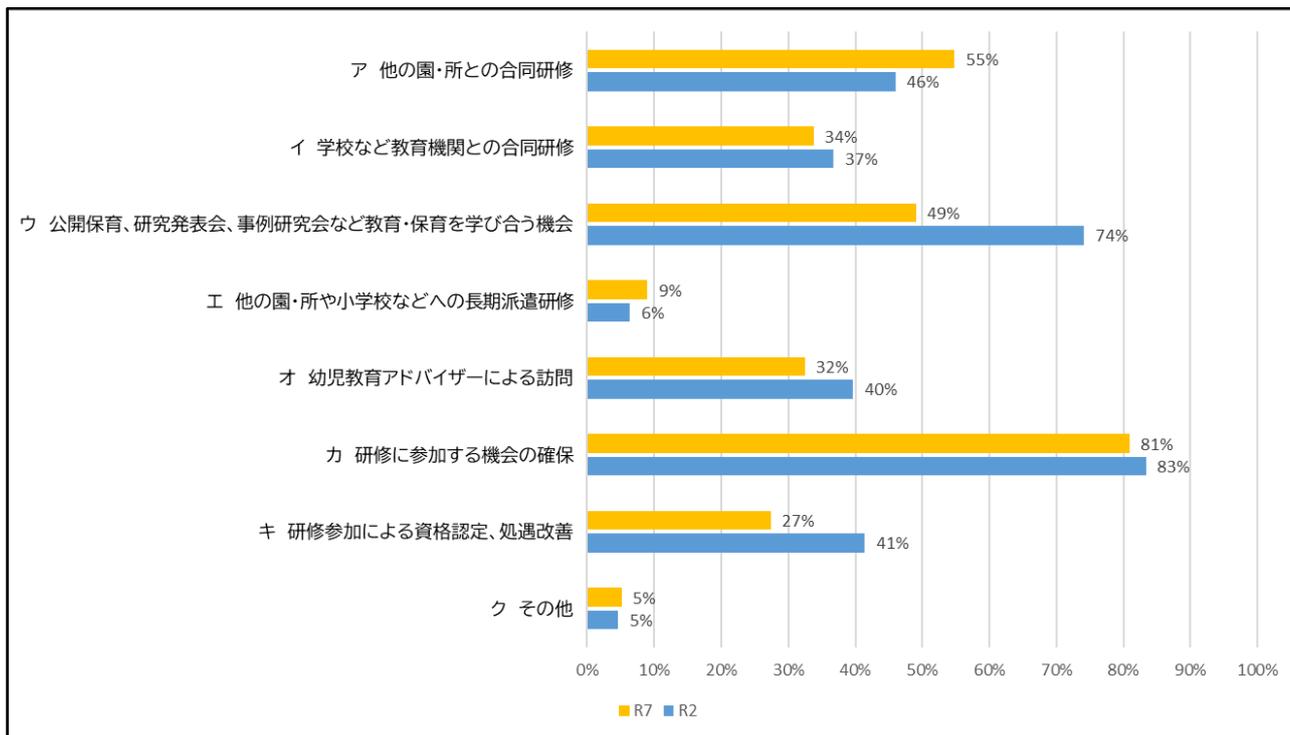
2 保育者の資質向上

2-1 【全員回答】 教員・保育士等の資質向上のために必要だと思う研修内容を3つまで選んでください。



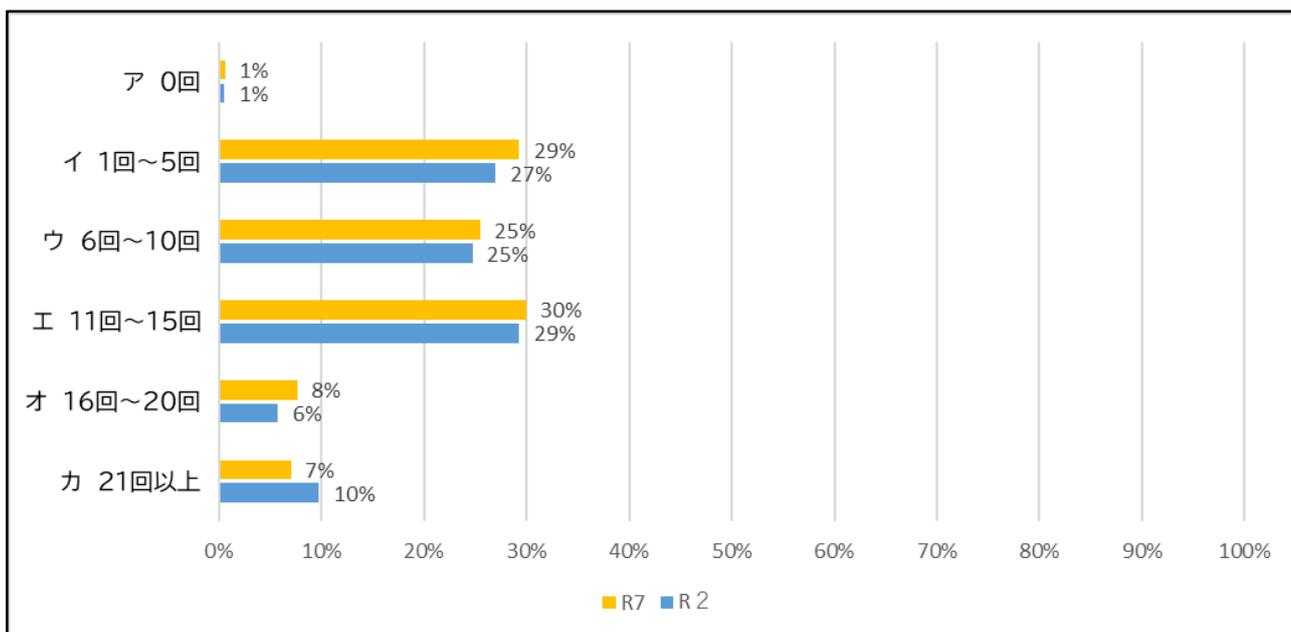
最上位項目は「子どもの発達や理解の見取り方」で、変化はない。「特別な支援を要する子どもの理解や関わり方」「保護者支援・子育て支援の内容や方法」の割合は減り、「子どもへの関わり方」「環境の構成」の割合は増えた。

2-2【全員回答】 教員・保育士等の資質向上のために必要な研修などの仕組みについて、あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



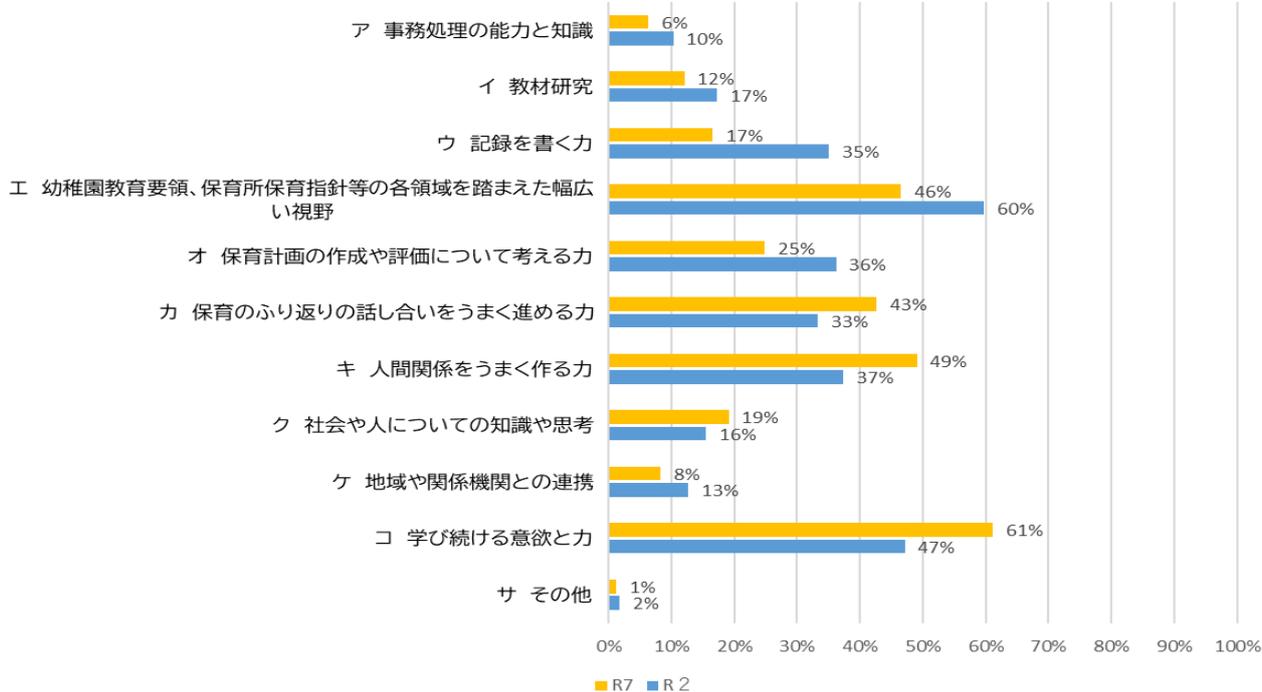
最上位項目は「研修に参加する機会の確保」で、変化はない。「公開保育、研究発表会、事例研究会など教育・保育を学び合う機会」の割合は減り、「他の園・所との合同研修」の割合が増えて、順位が逆転した。

2-3【全員回答】 前年度に行った園内研修の回数を回答してください。



上位3項目に変化はなく、園内研修を行った園・所が増えた。

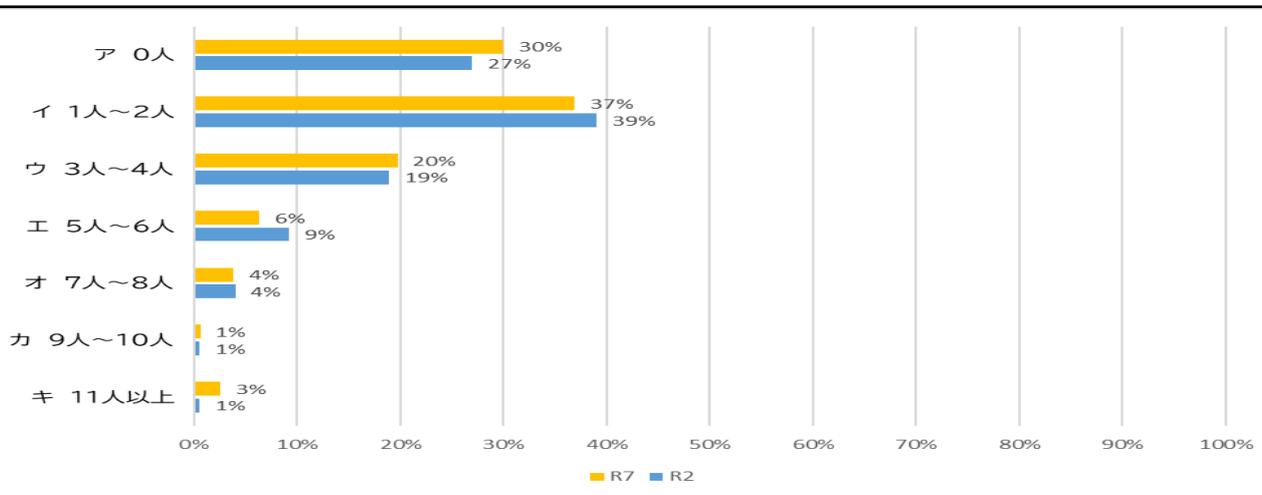
2-4【全員回答】貴幼児教育施設の職員に身につけさせたいと思う資質・能力を3つまで選んでください。



上位3項目において「幼稚園教育要領、保育所保育指針等の各領域を踏まえた幅広い視野」の割合は減り、「学び続ける意欲と力」「人間関係をうまく作る力」の割合が増えた。また、「記録を書く力」「保育計画の作成や評価について考える力」の割合は減り、「保育のふり返りの話し合いをうまく進める力」の割合が増えた。

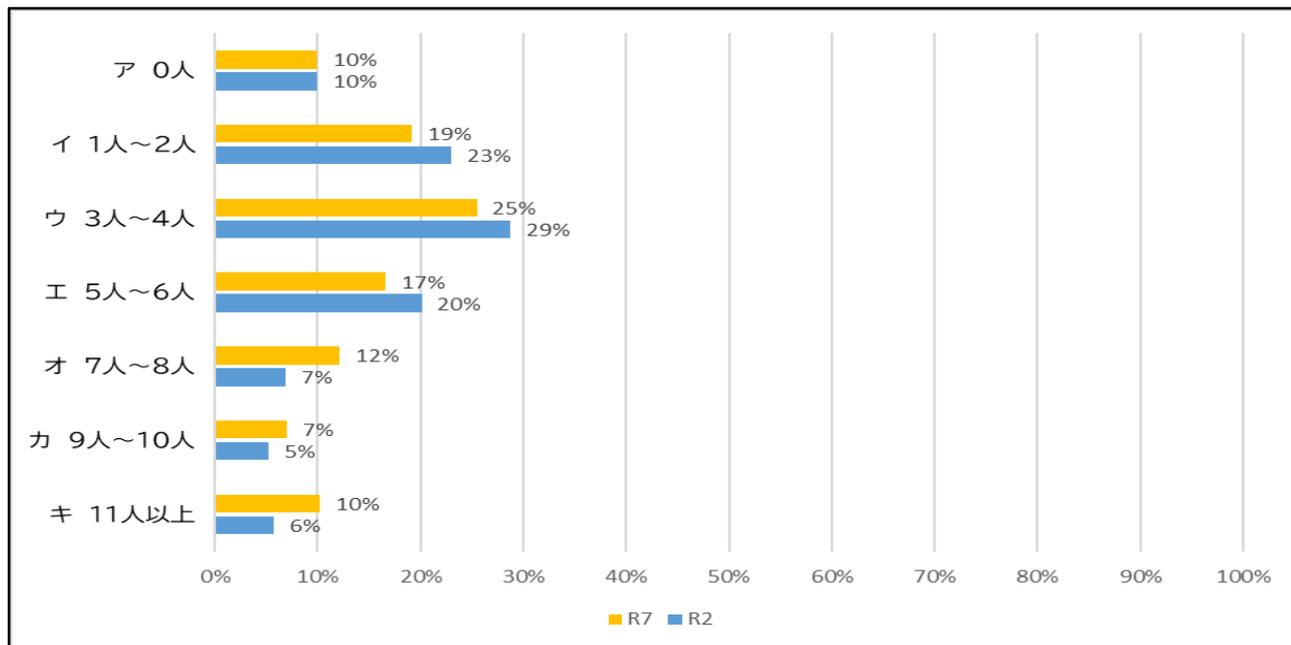
3 特別な配慮を必要とする乳幼児への保育・教育

3-1【全員回答】貴幼児教育施設において、発達障害等の診断を受けた、特別な支援の必要な乳幼児の在籍数を回答してください。



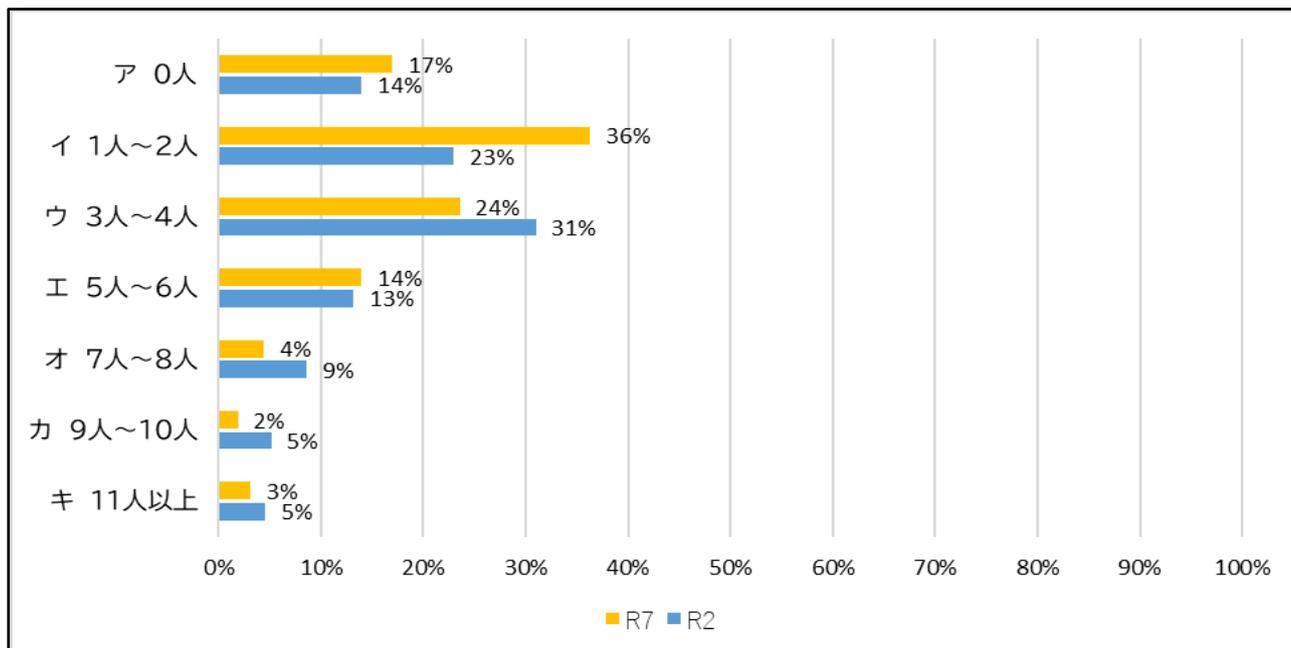
発達障害等の診断を受けた配慮が必要な乳幼児が「1人～2人」在籍する園・所が最も多く、園・所の半数以上に1～4人在籍している。また、「0人」「11人以上」の割合が増えた。

3-2【全員回答】貴幼児教育施設において、発達障害等の診断を受けてはいないが、特別な支援が必要と感じている乳幼児の在籍数を回答してください。



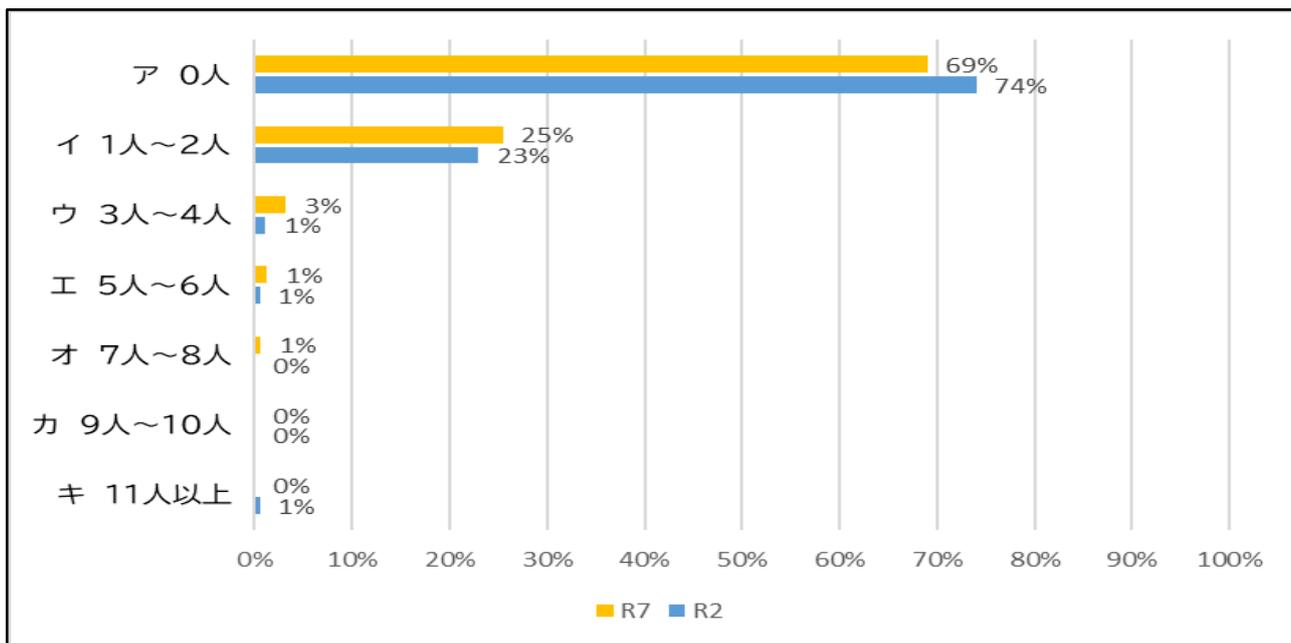
発達障害の診断を受けていないが配慮が必要と感じる乳幼児が「3人～4人」在籍する園・所が最も多く、園・所の6割以上に1～6人在籍している。また、「7～8人」「9人～10人」「11人以上」のいずれの割合も増えた。

3-3【全員回答】貴幼児教育施設において、食物アレルギーによる特別な配慮が必要な乳幼児の在籍数を回答してください。



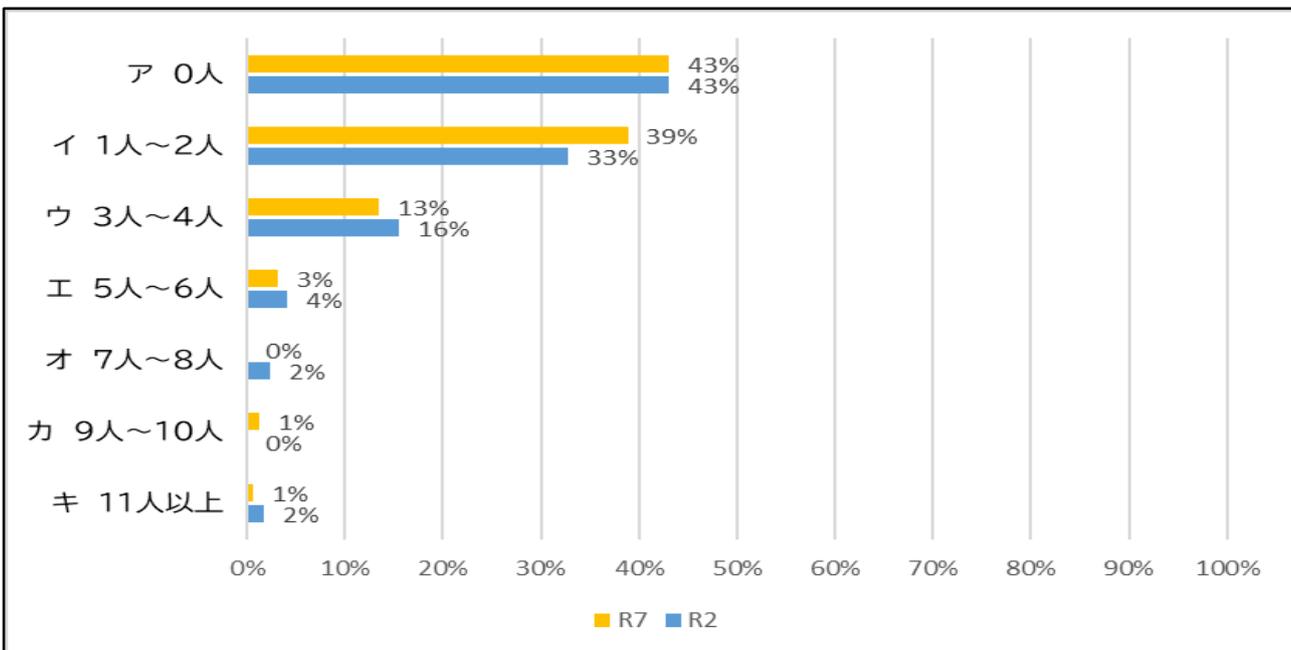
食物アレルギーによる配慮が必要な乳幼児が「1人～2人」在籍する園・所の割合が比較的大きく増えて最上位となり、園・所の半数以上に1～4人在籍している。また、「3人～4人」「7人～8人」などの割合が減った。

3-4【全員回答】貴幼児教育施設において、海外から帰国または外国籍で日本語の使用が困難な乳幼児の在籍数を回答してください。



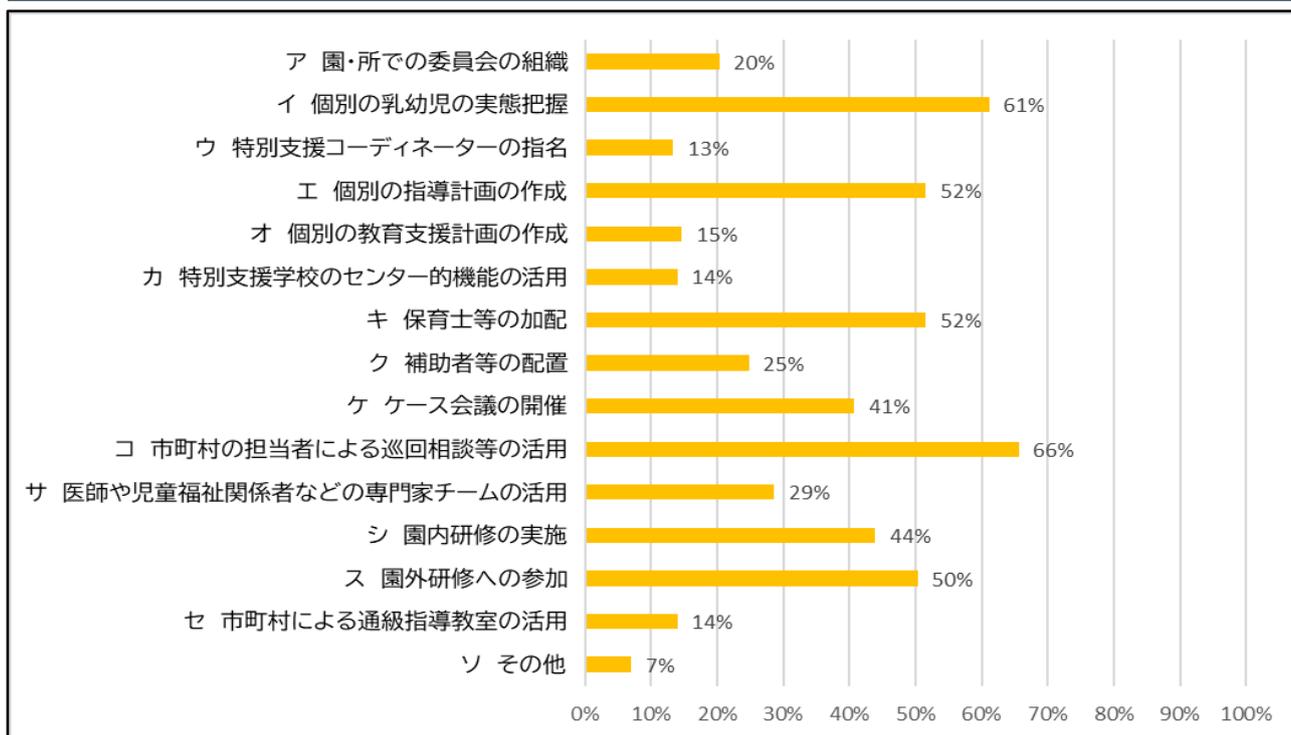
外国籍等による配慮が必要な乳幼児は、約7割の園・所に在籍しないが、その割合は減った。また、「1人～2人」「3人～4人」在籍する園・所の割合は増えた。

3-5【全員回答】貴幼児教育施設における保護者の養育により特別な配慮が必要な乳幼児の在籍数を回答してください。



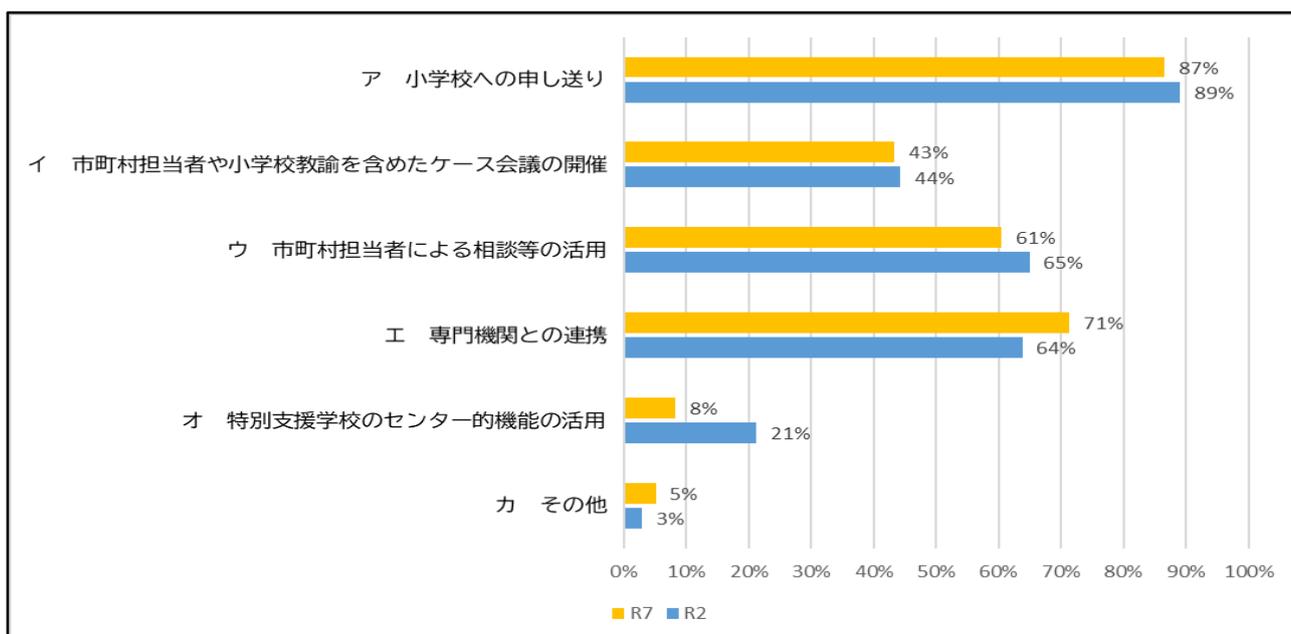
保護者の養育による配慮が必要な乳幼児は、43%の園・所に在籍しないが、「1人～2人」在籍する園・所の割合は増え、約半数の園・所に1～4人在籍している。

3-6【全員回答】特別な支援が必要な乳幼児に対応するため、現在、貴幼児教育施設で行っている体制や取組をすべて選んでください。（複数回答可）



上位3項目は、「市町村の担当者による巡回相談等の活用」「個別の乳幼児の実態把握」「個別の指導計画の作成」(同率)「保育士等の加配」(同率)である。

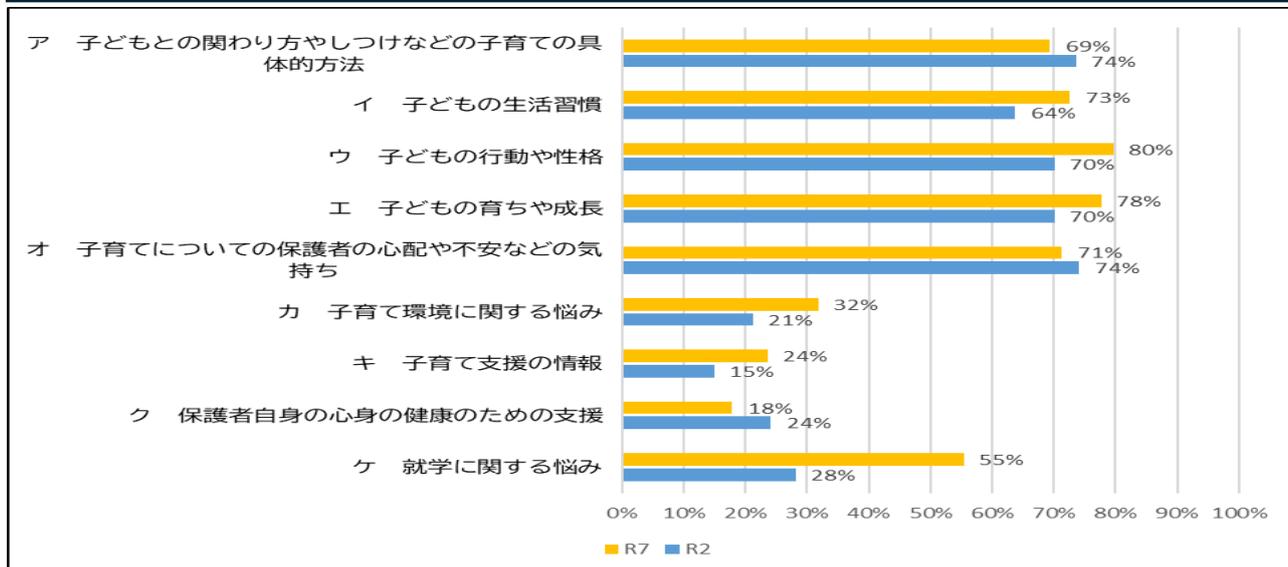
3-7【全員回答】特別な支援が必要な幼児の就学にあたり、貴幼児教育施設で行っている支援をすべて選んでください。（複数回答可）



最上位項目は「小学校への申し送り」で、変化はない。「市町村担当者による相談等の活用」の割合が減り、「専門機関との連携」の割合が増えて、順位が逆転した。

4 子育て支援

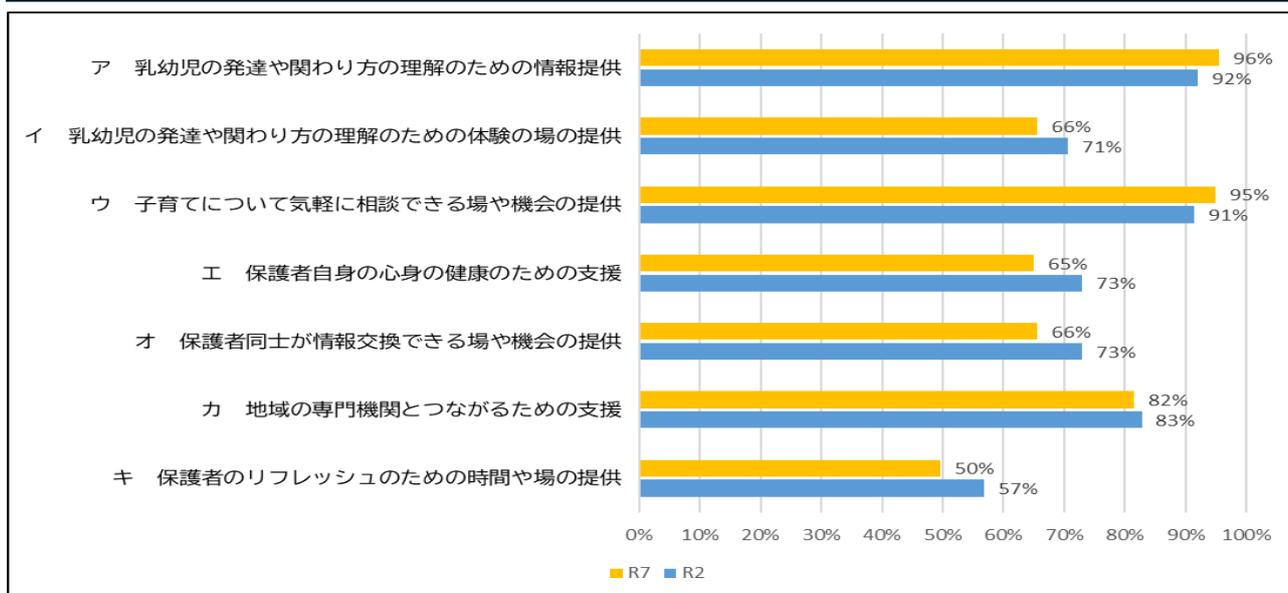
4-1【全員回答】貴幼児教育施設では、保護者からどのような相談を受けますか。過去のものを含め「①とてもある」から「④まったくない」の中であてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。ださい。（複数回答可）



* 「①とてもある」「②わりとある」の回答を集計

保護者からの相談として、「子どもとの関わり方やしつけなどの子育ての具体的方法」の割合が減り、令和7年度の上位3項目は、「子どもの行動や性格」「子どもの育ちや成長」「子どもの生活習慣」だった。また、「就学に関する悩み」が大きく増えた。

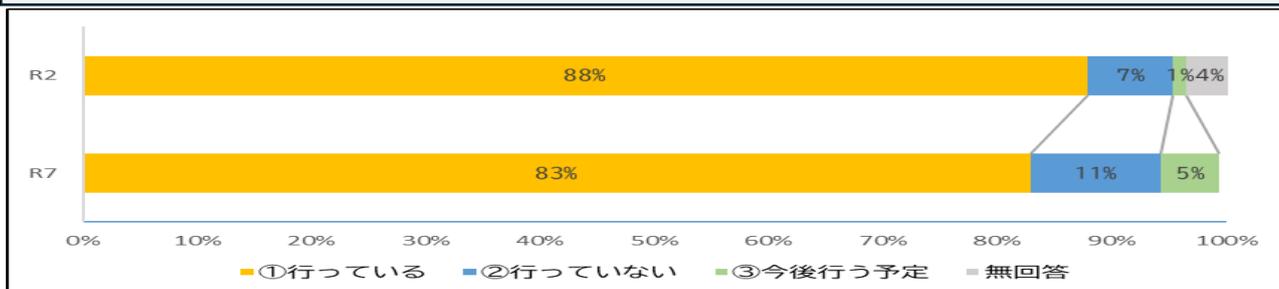
4-2【全員回答】乳幼児の保護者に対して、どのような支援が必要か、「①とてもあてはまる」から「④まったくあてはまらない」からそれぞれ1つ選んでください。



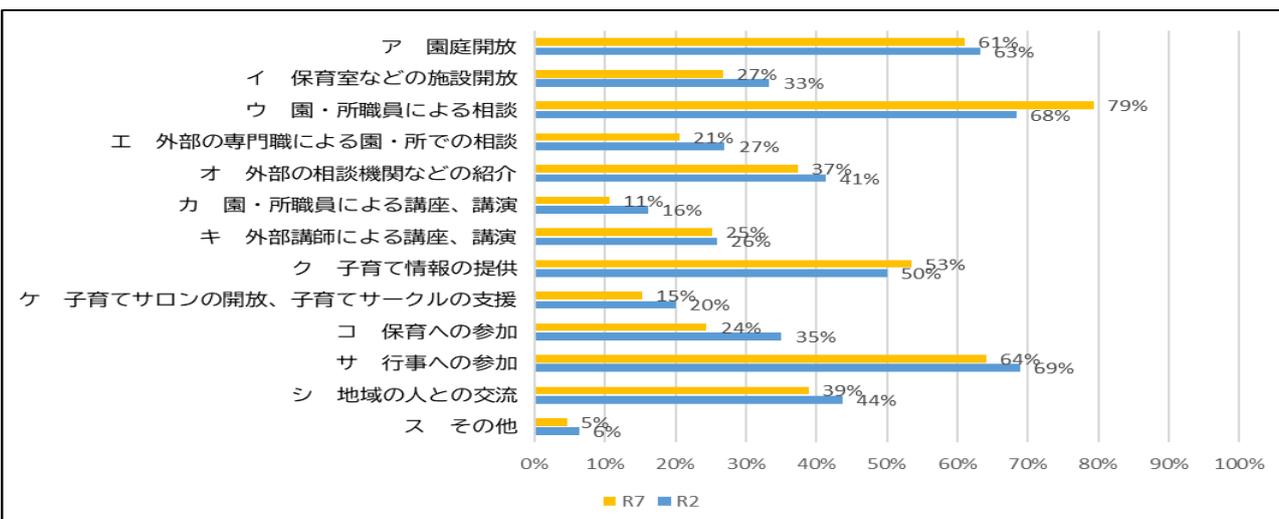
* 「①とてもあてはまる」「②わりとあてはまる」の回答を集計

上位3項目は「乳幼児の発達や関わり方の理解のための情報提供」「子育てについて気軽に相談できる場や機会の提供」「地域の専門機関とつながるための支援」であり、変化はなかった。

4-3-1【全員回答】貴幼児教育施設では、子育て支援を行っていますか。

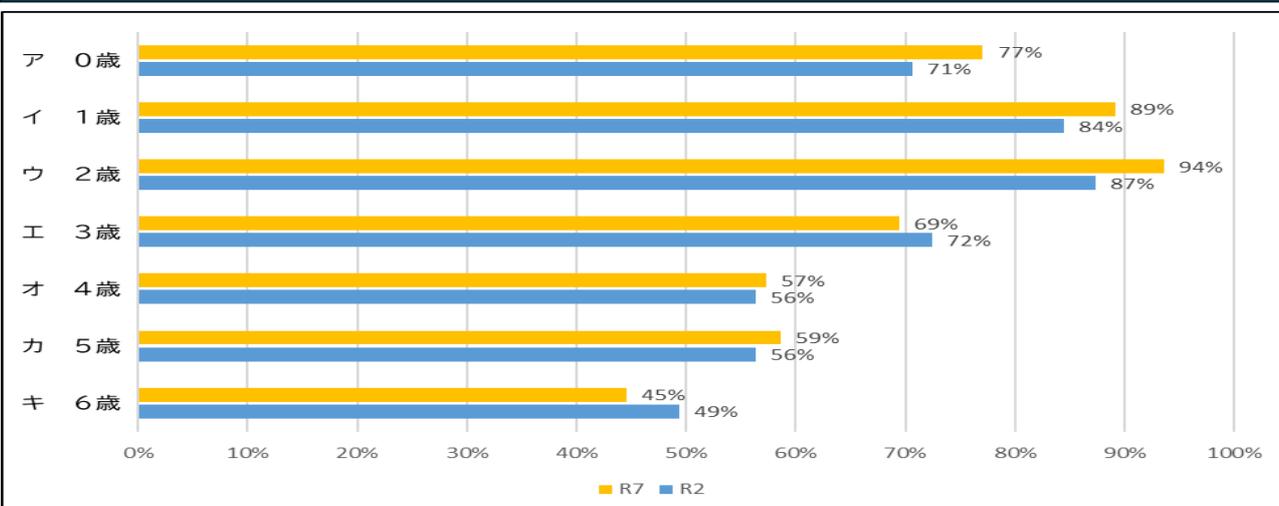


4-3-2【「行っている」回答者のみ回答】取り組み項目に当てはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



83%の園・所が子育て支援を行っているが、その割合は減り、「今後行う予定」が増えた。子育て支援の内容の上位3項目は、「園・所職員による相談」「行事への参加」「園庭開放」であり、変化はなかったが、特に「園・所職員による相談」の割合が比較的増えた。

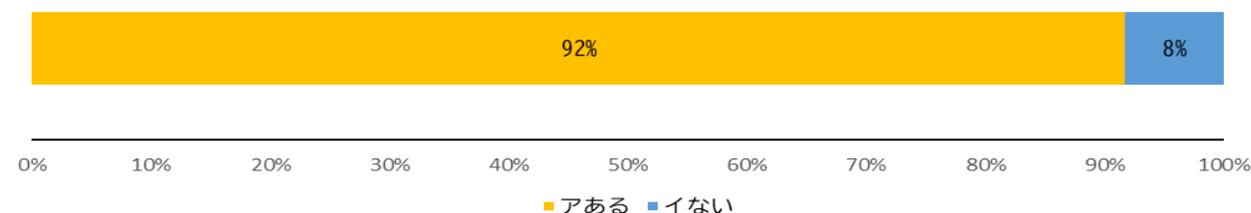
4-4【全員回答】子育て支援を行っている場合、その対象年齢は何歳か、該当する年齢をすべて選んでください。（複数回答可）



「2歳」「1歳」「0歳」の順に、子育て支援の対象年齢とする園・所が多く、それぞれ割合が増えた。「3歳」「6歳」を対象とする園・所は減った。

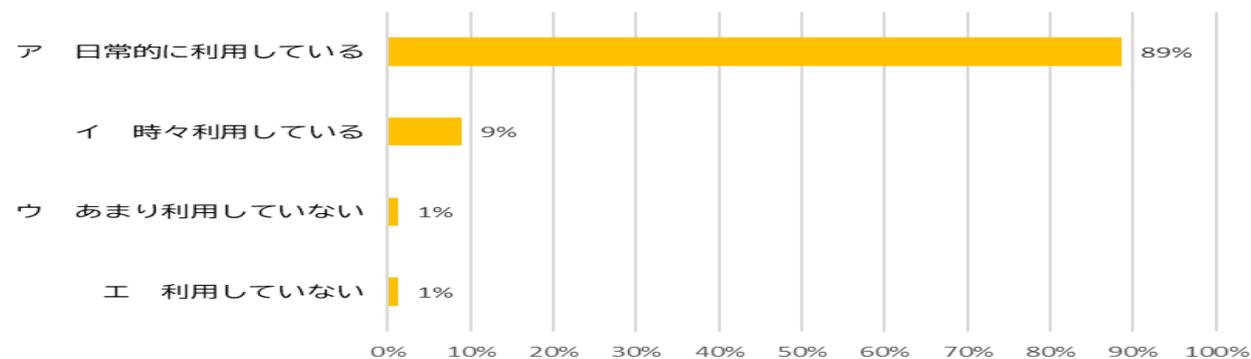
5 情報機器の活用（R7年度新たに加えた調査項目）

5-1【全員回答】貴幼児教育施設には無線のインターネット（Wi-Fi）を利用できる環境や設備がありますか。



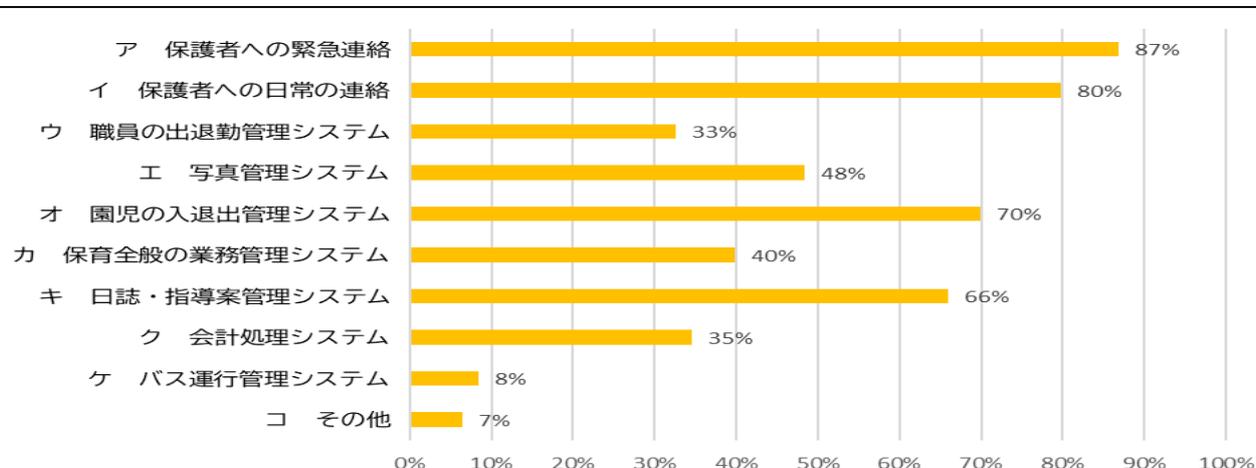
92%の園・所でWi-Fiを利用できる環境が整備されている。

5-2-1【全員回答】貴幼児教育施設の保育者は、業務でタブレットやパソコン（個人用・共用）を利用していますか。あてはまる項目を選んでください。



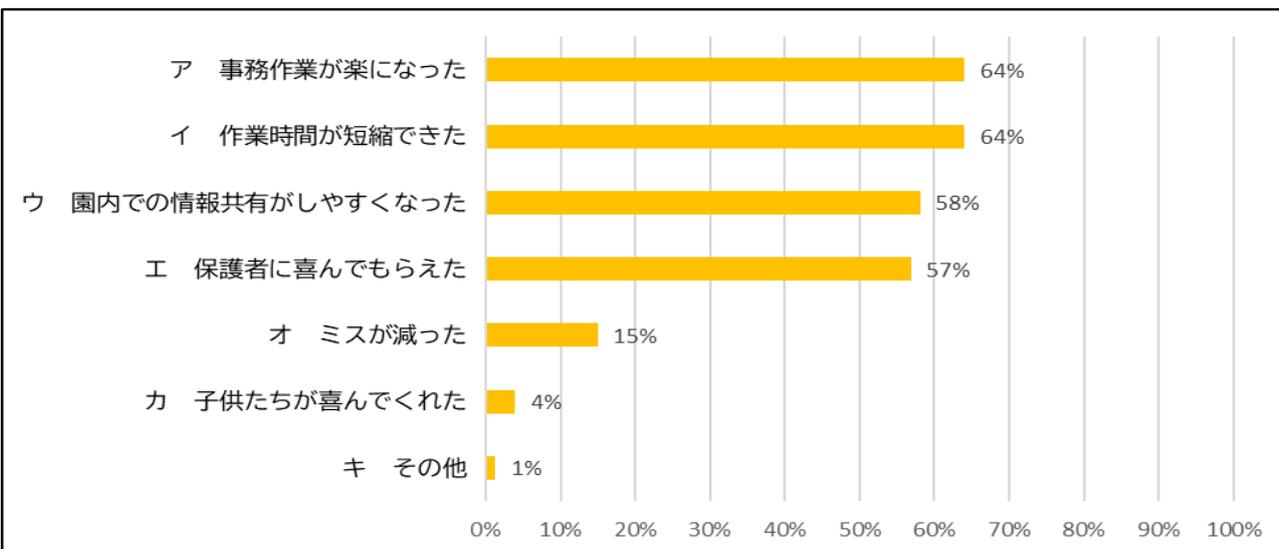
89%の園・所で、タブレットやパソコンを「日常的に利用している」。

5-2-2【「日常的に利用している」「時々利用している」回答者のみ回答】貴幼児教育施設では、ICTをどのようなことに活用していますか。当てはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



上位3項目は「保護者への緊急連絡」「保護者への日常の連絡」「園児の入退出管理システム」であり、主に保護者対象の業務に活用する割合が多い。

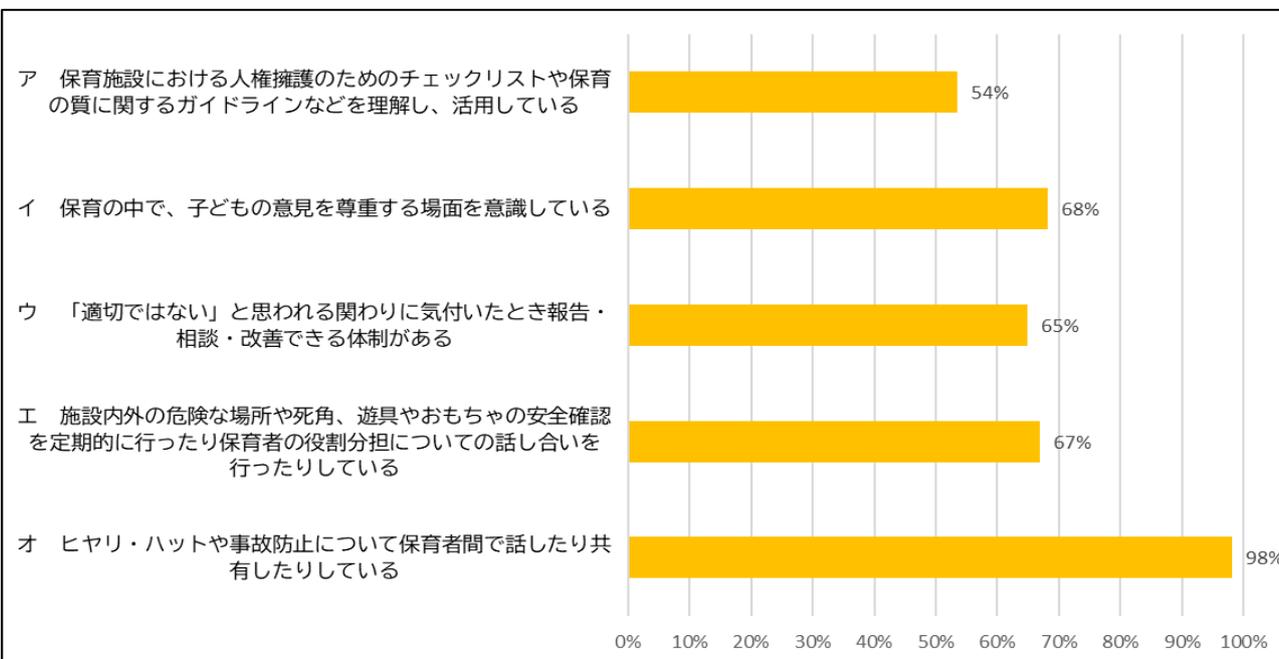
5-2-3【「日常的に利用している」「時々利用している」回答者のみ回答】ICTを導入したことでよかったと思うのは、どのようなことですか。当てはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



ICTを導入して良かったことの上位3項目は、「事務作業が楽になった」「作業時間が短縮できた」「園内での情報共有がしやすくなった」だった。

6 保育における人権・安全管理（R7年度新たに加えた調査項目）

6-1【全員回答】貴幼児教育施設の保育における子どもの人権や施設・設備の安全管理に関する次の項目について、「①とてもあてはまる」から「④まったくあてはまらない」からあてはまるものをそれぞれ一つ選んでください。

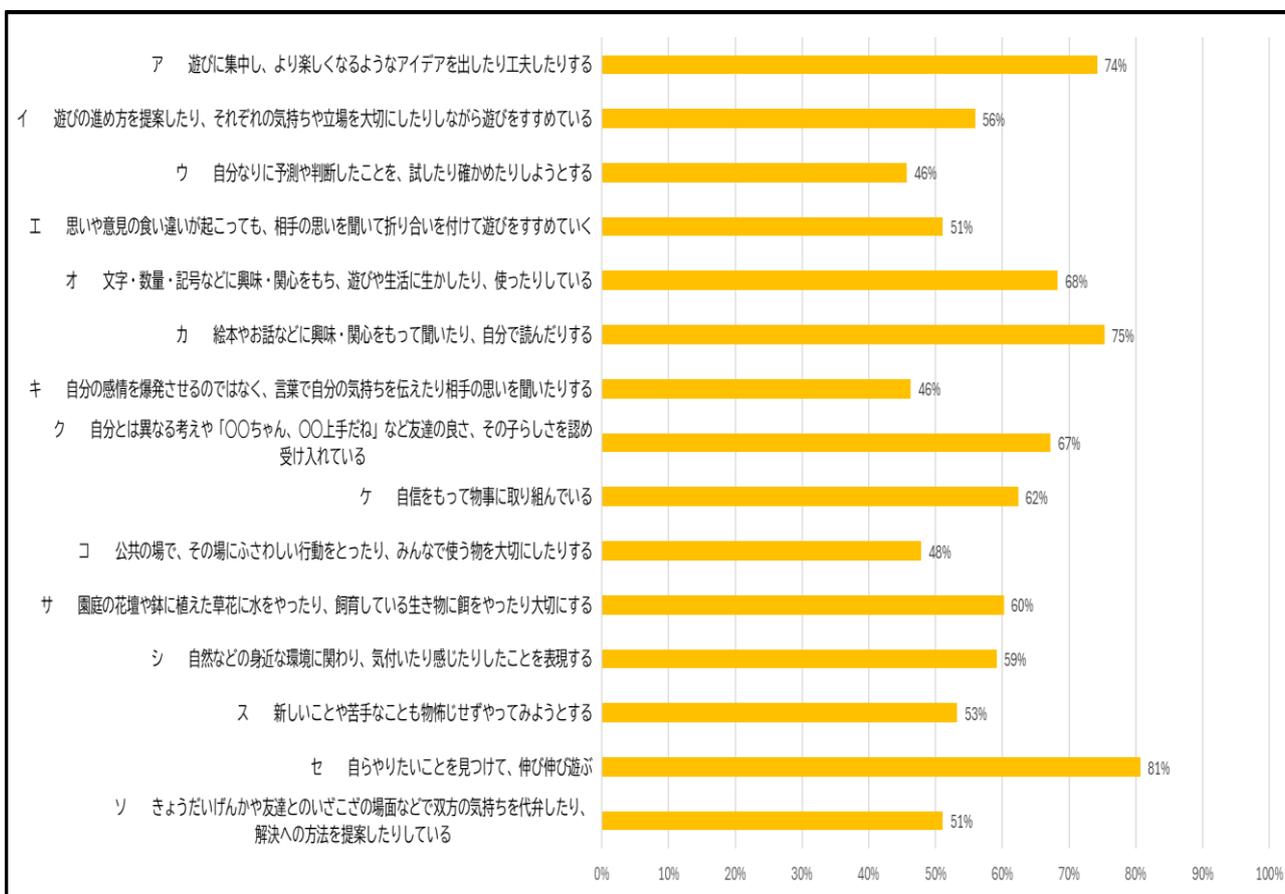


* 「①とてもあてはまる」「②わりとあてはまる」の回答を集計

「ヒヤリ・ハットや事故防止について保育者間で話したり共有したりしている」が最上位であり、どの項目にも半数以上の園・所が取り組んでいる。「保育施設における人権擁護のためのチェックリストや保育の質に関するガイドラインなどを理解し、活用している」の割合が最も低い。

1 幼児の育ち

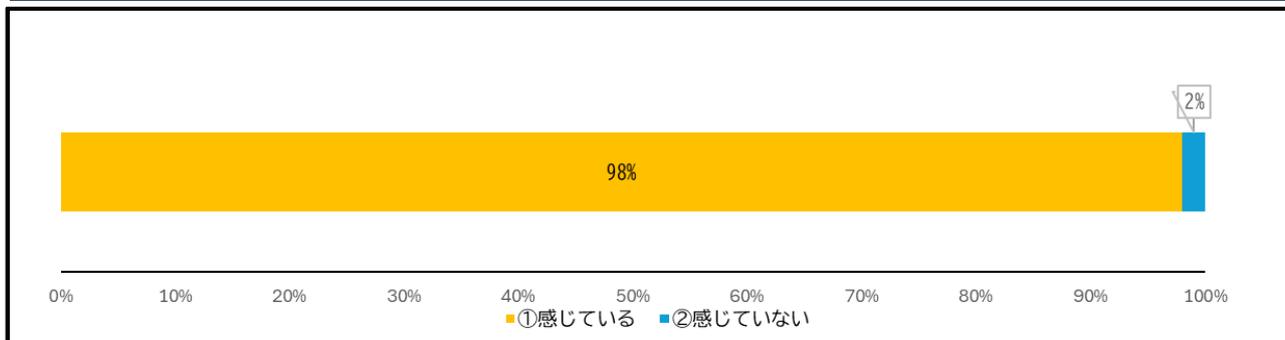
1-1【全員回答】担任しているクラスの幼児について、どのような育ちの姿が見られますか。あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



上位3項目は、「自らやりたいことを見つけて、伸び伸び遊ぶ」「絵本やお話などに興味・関心をもって聞いたり、自分で読んだりする」「遊びに集中し、より楽しくなるようなアイデアを出したり工夫したりする」だった。

2 保育者の資質向上

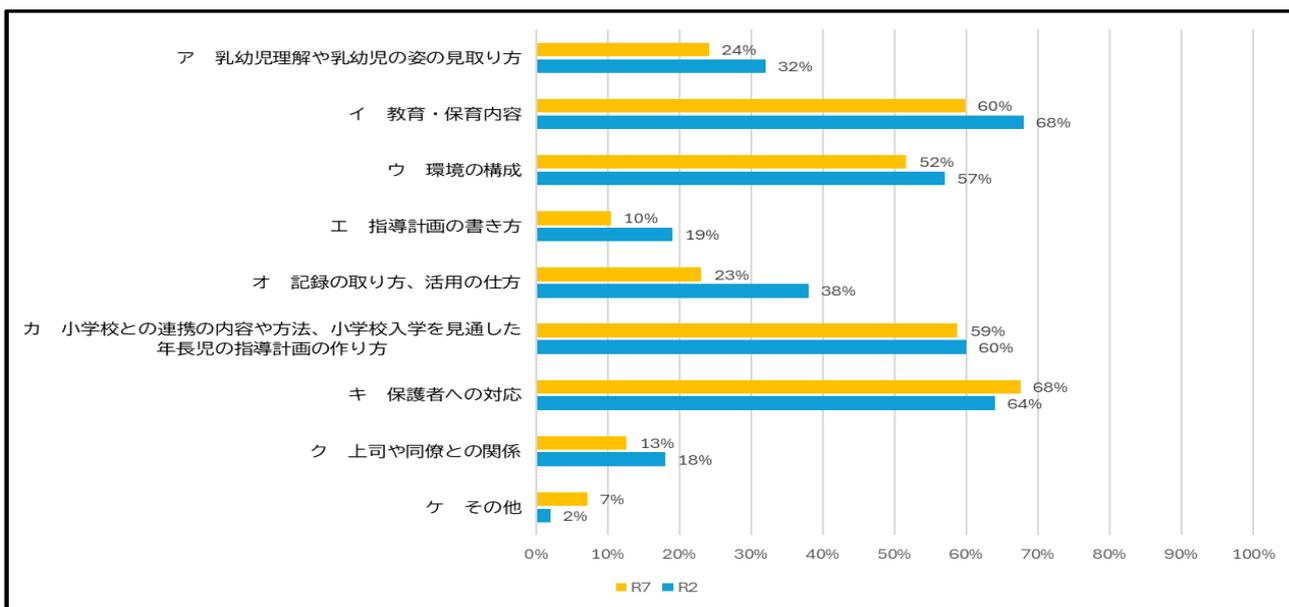
2-1【全員回答】あなたは、日々の教育・保育の実践において、課題を感じていますか。



年長児担任の98%が、日々の教育・保育実践で課題を感じている。

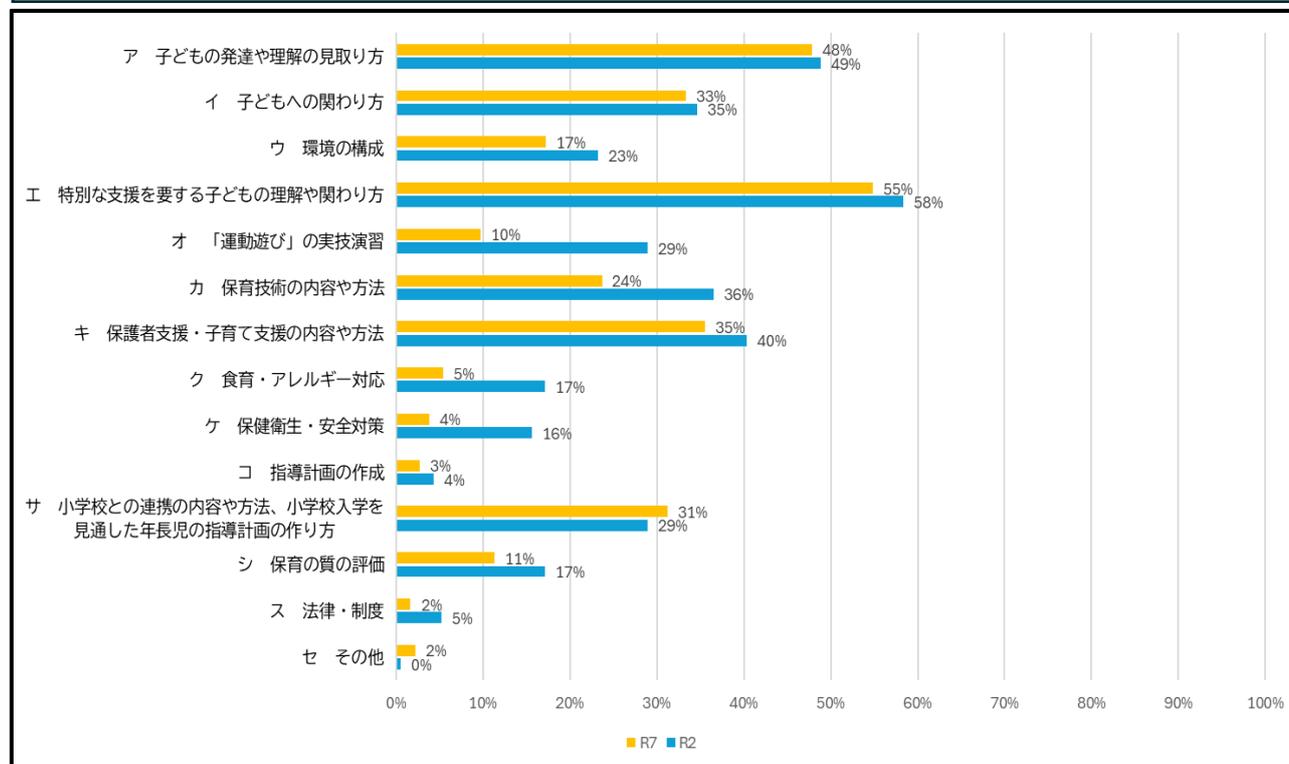
2-2【「感じている」回答者のみ回答】課題として、あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答可)



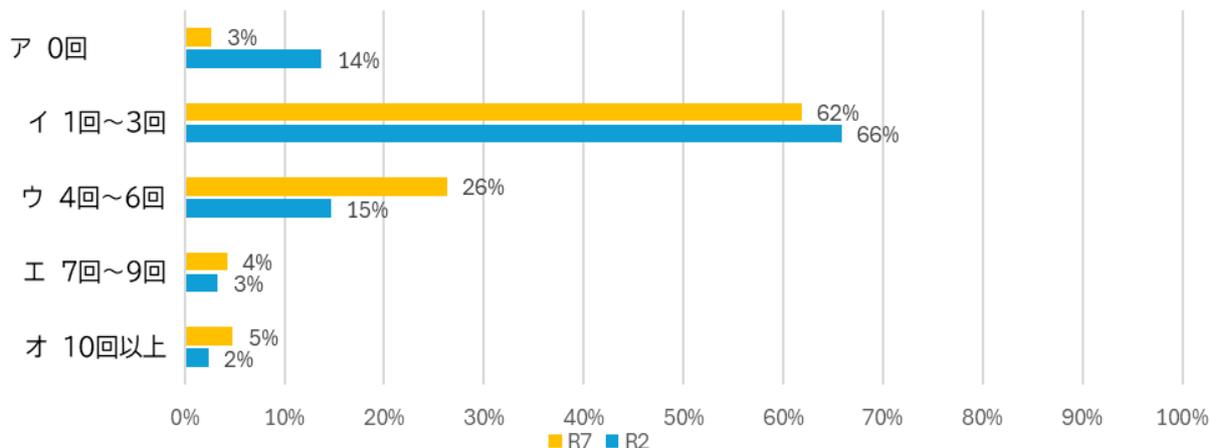
年長児担任が感じている課題は、「保護者への対応」の割合が増え、「教育・保育内容」の割合が減って、順位が逆転した。また、「小学校との連携の内容や方法、小学校入学を見通した年長児の指導計画の作り方」「環境の構成」も微減したものの半数以上の年長児担任が課題と感じている。

2-3【全員回答】教員・保育士等の資質向上のために、必要だと思う研修内容を3つ選んでください。



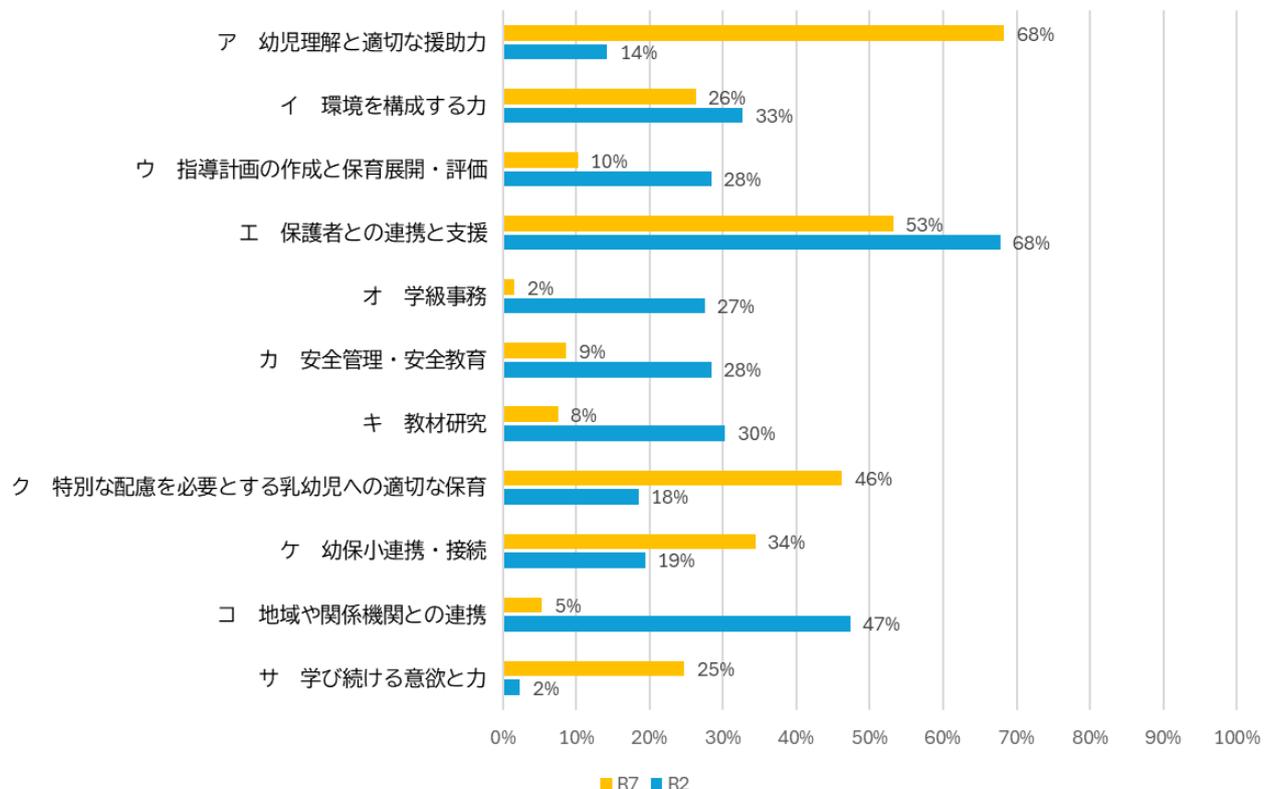
年長児担任が必要だと思う研修内容の上位3項目は、「特別な支援を要する子供の理解や関わり方」「子供の発達や理解の見取り方」「保護者支援・子育て支援の内容や方法」であり、変化はない。「小学校との連携の内容や方法、小学校入学を見通した年長児の指導計画の作り方」の割合は微増した。

2-4【全員回答】前年度に受講した園外研修の回数を選んでください。



年長児担任が前年度に参加した研修会は「1回～3回」の割合が最も多く、8割以上の年長児担任が1～6回の研修に参加した。特に、「4回～6回」参加した割合が比較的増えた。

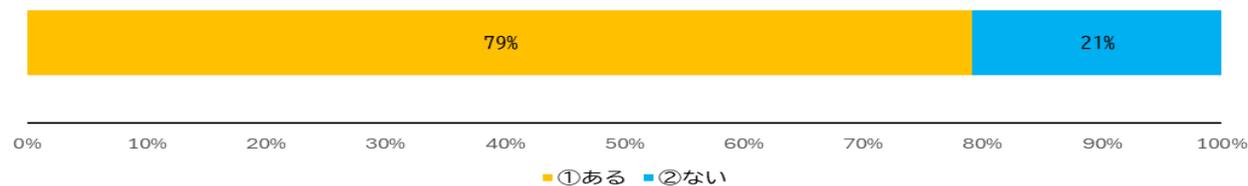
2-5【全員回答】今後、保育者として身につけたいと思う資質・能力を3つまで選んでください。



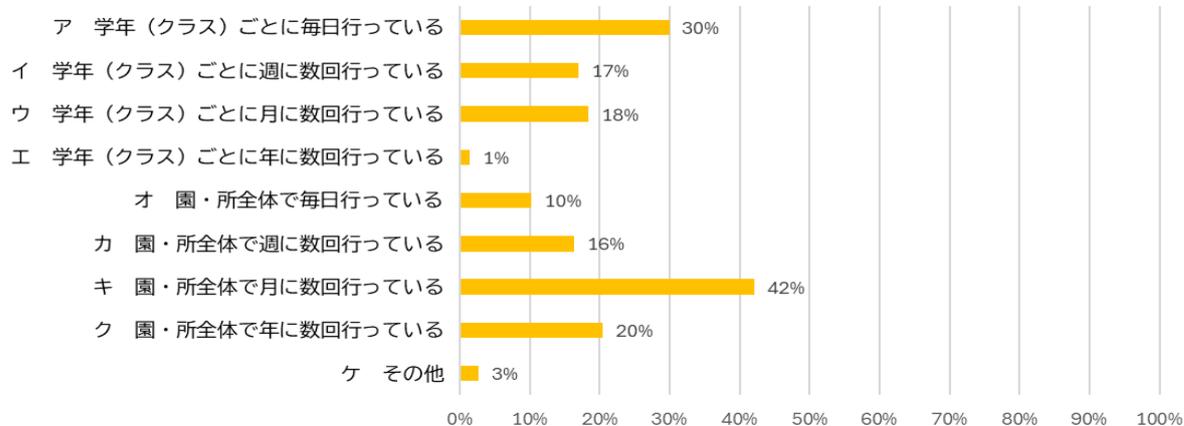
保育者として身につけたい資質・能力の上位3項目において「幼児理解と適切な援助力」「特別な配慮を必要とする乳幼児への適切な保育」の割合が大きく増え、「保護者との連携と支援」の割合は減った。また、「地域や関係機関との連携」の割合は、特に大きく減った。

3 保育の振り返り

3-1【全員回答】貴幼児教育施設において、保育者が集まって保育の振り返りをする機会がありますか。

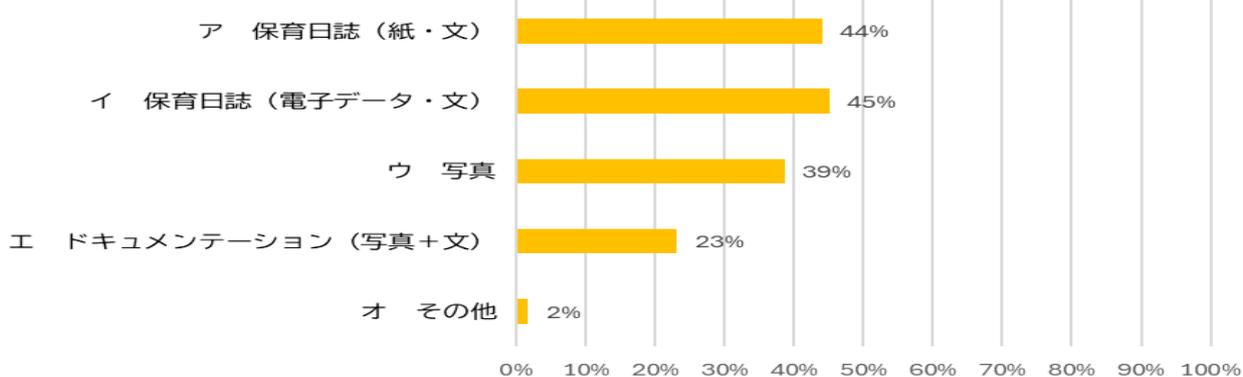


3-2【「振り返りをする機会がある」回答者のみ回答】どのくらいの頻度で行いますか。あてはまるものを選んでください。（複数回答可）



79%の園・所で保育の振り返りをする機会がある。振り返りの頻度は、「園・所全体で月に数回行っている」「学年（クラス）ごとに毎日行っている」割合が多い。

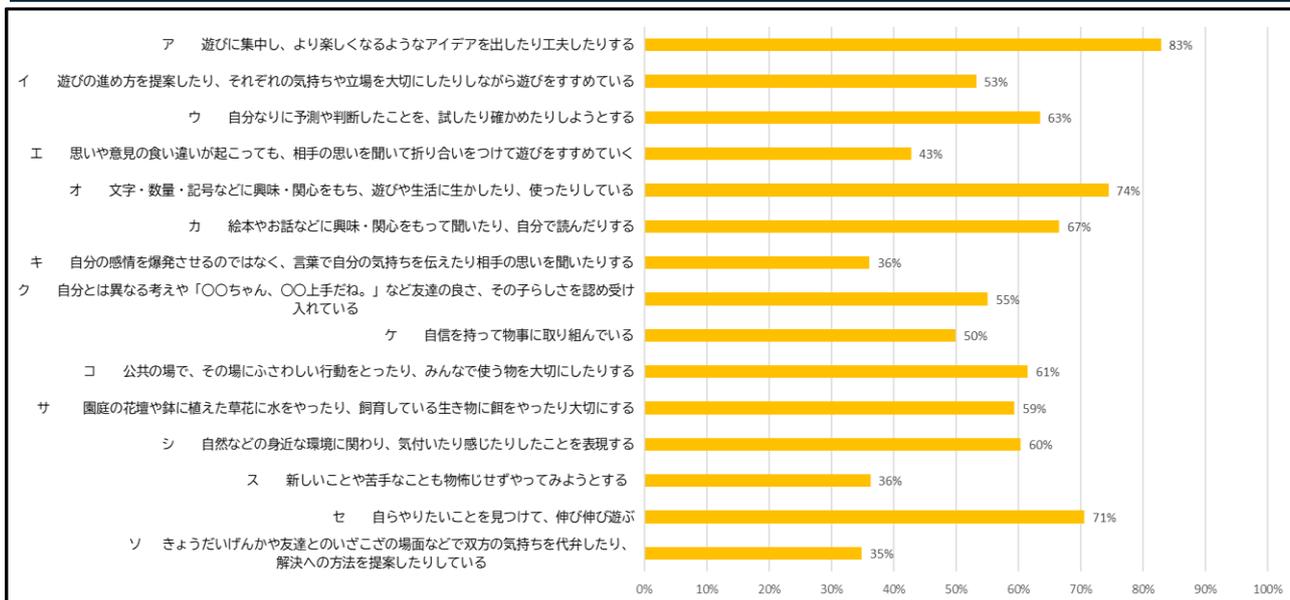
3-3【全員回答】子どもの姿や成長の様子の記録方法について、あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



子どもの姿や成長の記録は、約半数が保育日誌で記録しており、紙と電子データの利用が同程度である。

1 幼児の育ち

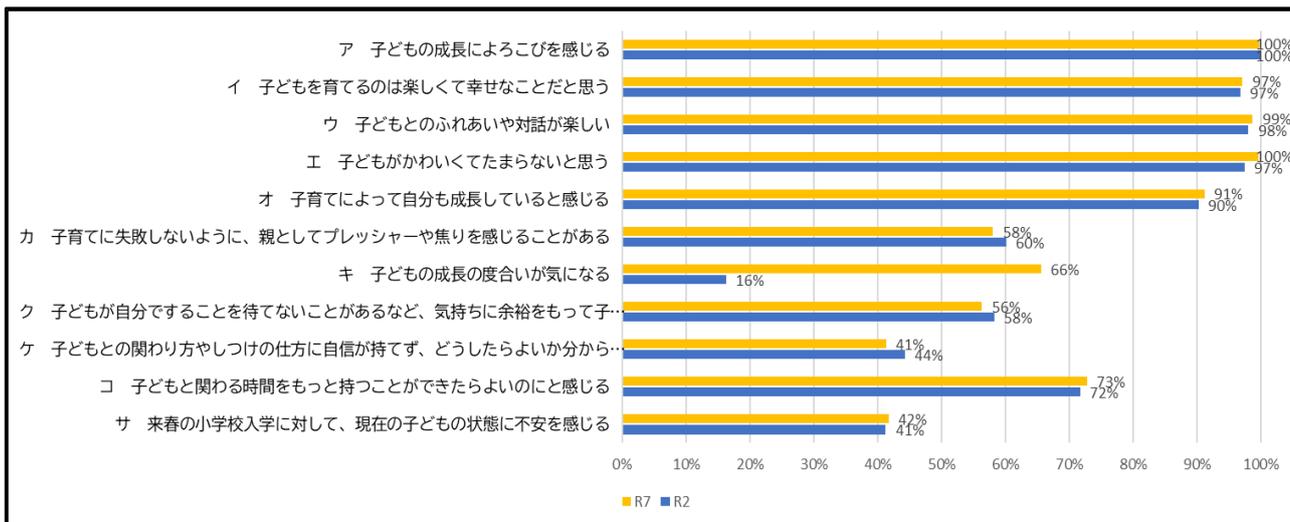
1-1【全員回答】現在年長児のお子様について、どのような姿が見られますか。あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



年長児の保護者が捉えている子どもの姿の上位3項目は、「遊びに集中し、より楽しくなるようなアイデアを出したり工夫したりする」「文字・数量・記号などに興味・関心を持ち、遊びや生活に生かしたり、使ったりしている」「自らやりたいことを見つけて、伸び伸び遊ぶ」である。

2 子育て・家庭教育

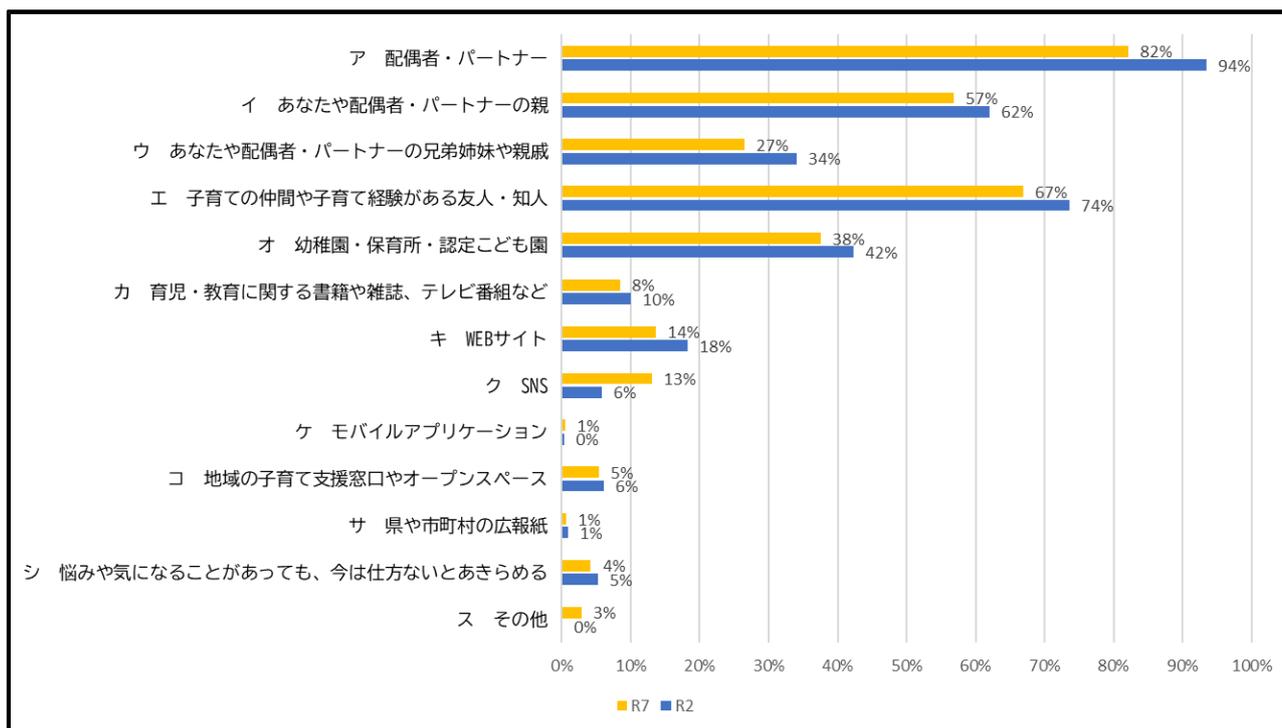
2-1【全員回答】子どもを育てていてよかったと思うこと、負担に思うことや悩みに関する項目について、「①とてもあてはまる」から「④まったくあてはまらない」の中からそれぞれ1つ選んでください。



* 「①とてもあてはまる」「②わりとあてはまる」の回答

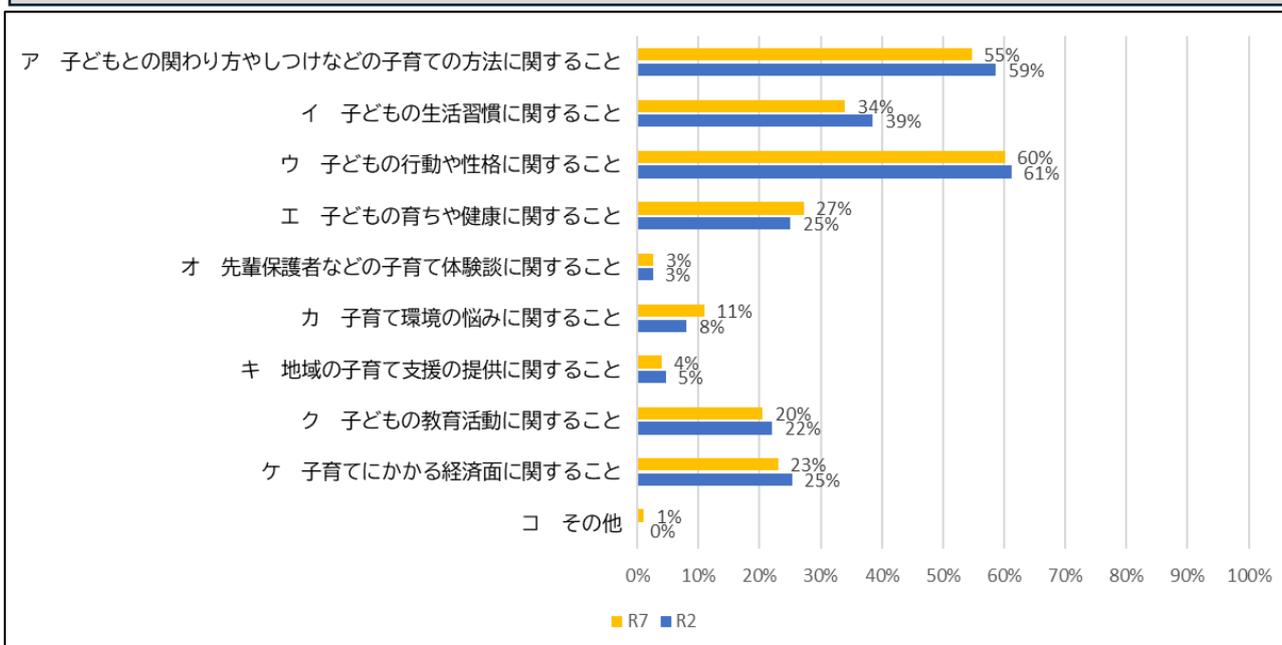
『子どもを育てていてよかったと思うこと』の4項目は、すべて90%以上であり、変化はない。
『負担に思うことや悩み』は、「子どもと関わる時間をもっと持つことができればよいのにと感じる」が最上位であり、「子どもの成長の度合いが気になる」の割合が大きく増えた。

2-2【全員回答】子育てや家庭教育に関する悩みや気になることについて誰に、あるいはどこに、相談していますか。また、参考にしていますか。あてはまるものを5つまで選んでください。



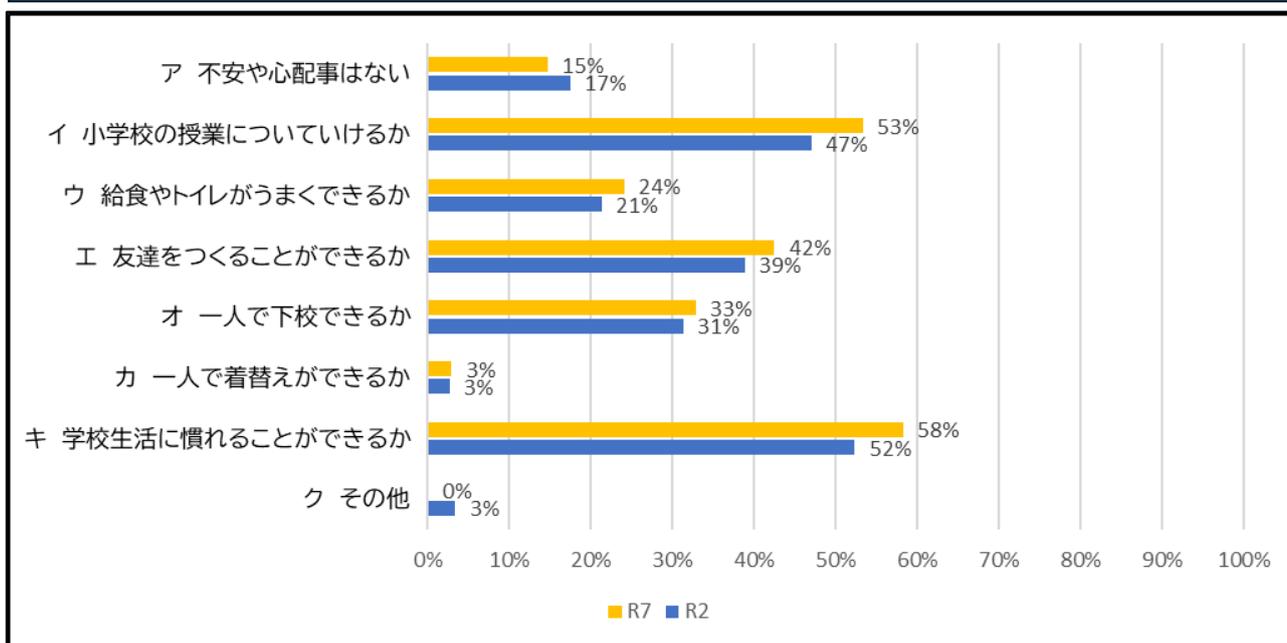
上位3項目は、「配偶者・パートナー」「子育ての仲間や子育て経験がある友人・知人」「あなたや配偶者・パートナーの親」であり、変化はない。また、「SNS」の割合が比較的大きく増えた。

2-3【全員回答】子育てや家庭教育に関する悩みや気になることは主にどのようなことですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



上位3項目は、「子どもの行動や性格に関すること」「子どもとの関わり方やしつけなどの子育ての方法に関すること」「子どもの生活習慣に関すること」であり、変化はない。「子育て環境の悩みに関すること」「子どもの育ちや健康に関すること」の割合が増えた。

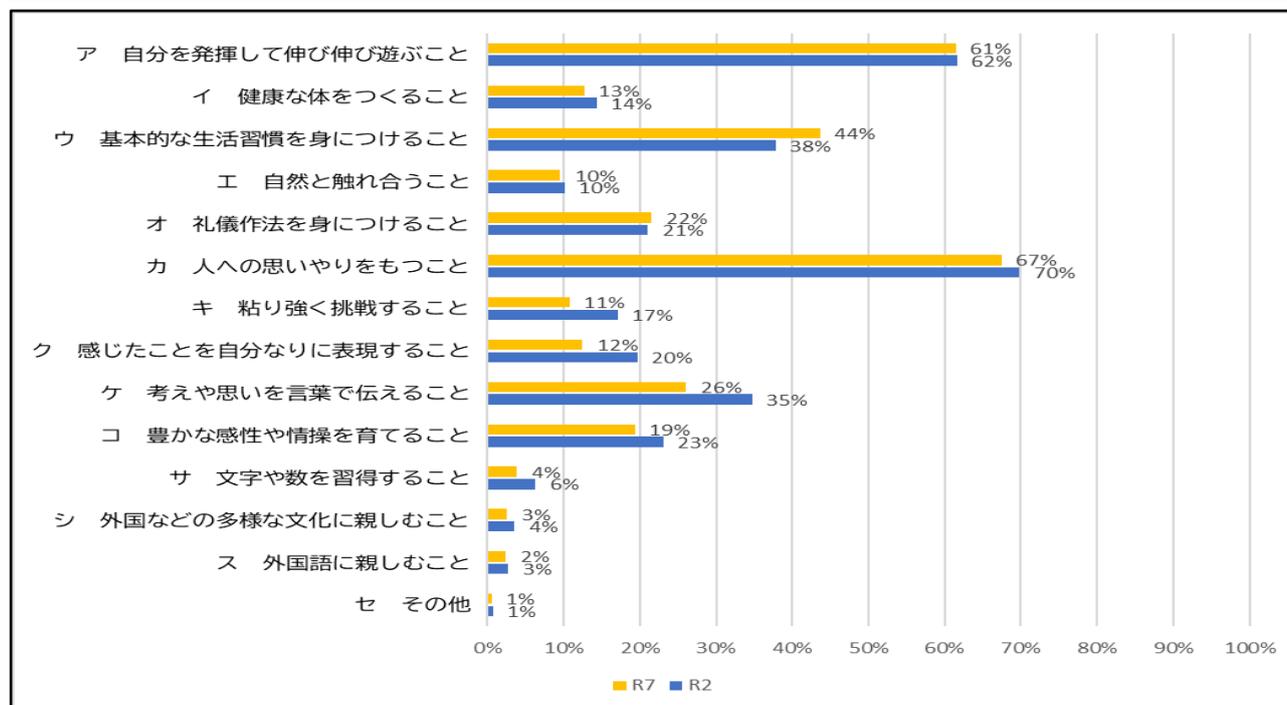
2-4【全員回答】小学校入学に際し、不安や心配なことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



上位3項目は、「学校生活に慣れることができるか」「小学校の授業についていけるか」「友達をつくることができるか」であり、変化はない。

3 園・所における教育・保育

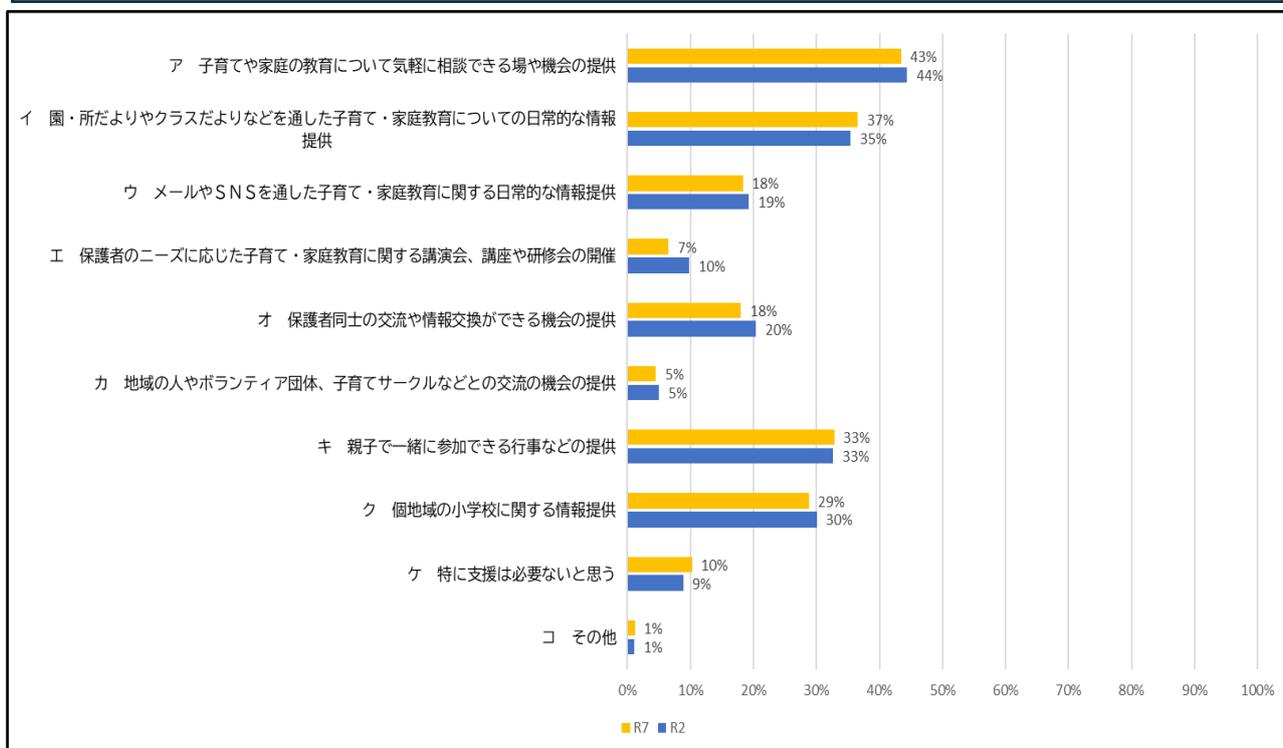
3-1【全員回答】幼稚園・保育所・こども園での保育について、望んでいる内容を3つまで選んでください。



上位3項目は、「人への思いやりをもつこと」「自分を発揮して伸び伸び遊ぶこと」「基本的な生活習慣を身につけること」であり、変化はない。

4 子育て支援

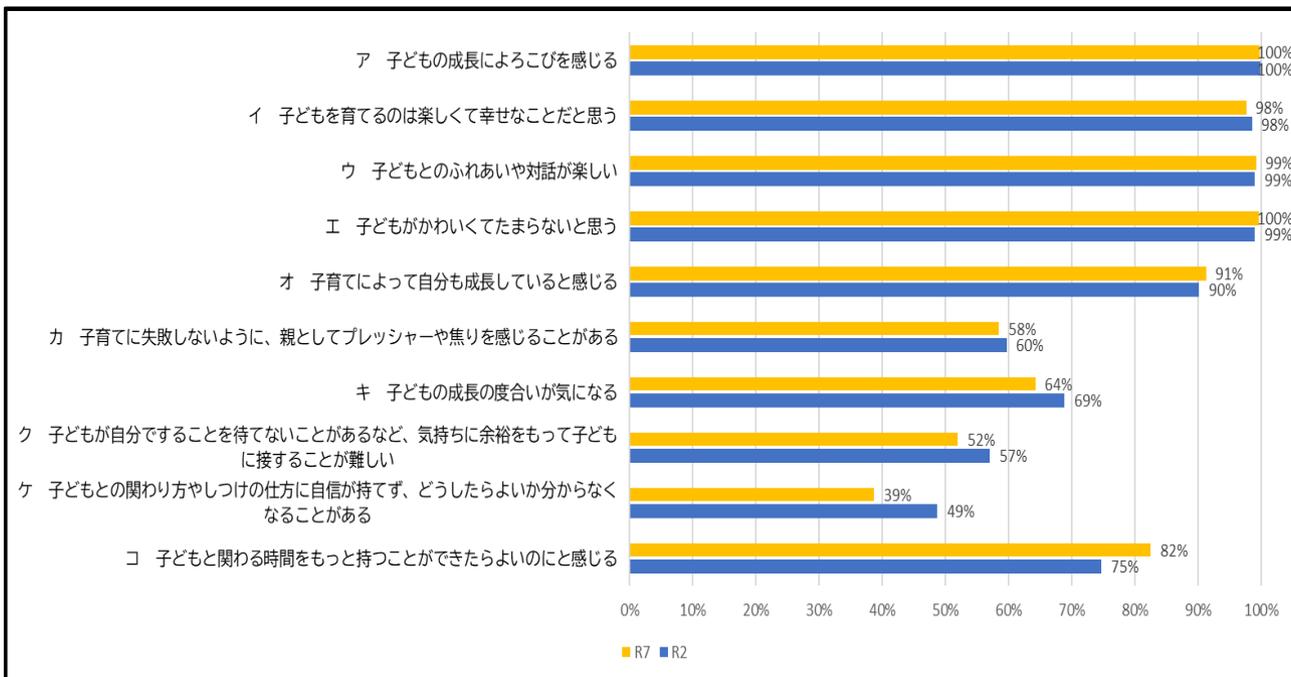
4-1【全員回答】家庭での子育てや家庭教育に対して、園・所からどのような支援があるとよいと思いますか。特にあてはまるものを3つまで選んでください。



上位3項目は、「子育てや家庭の教育について気軽に相談できる場や機会の提供」「園・所だよりやクラスだよりなどを通じた子育て・家庭教育についての日常的な情報提供」「親子で一緒に参加できる行事などの提供」であり、変化はない。

1 子育て・家庭教育

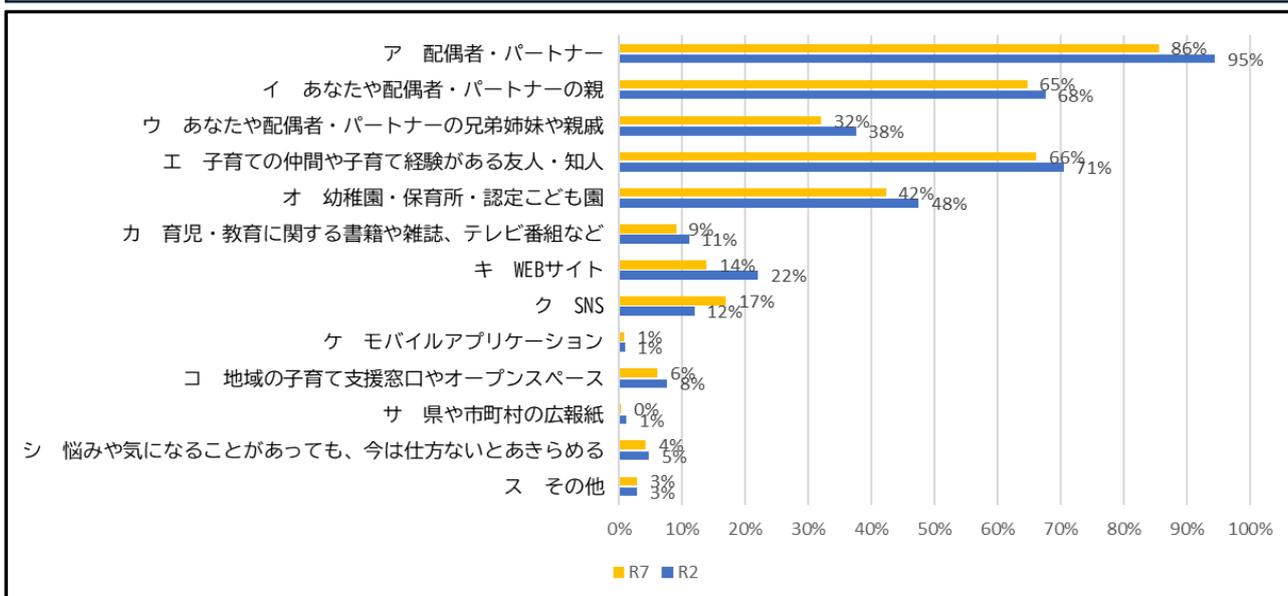
1-1【全員回答】子どもを育てていてよかったと思うこと、負担に思うことや悩みに関する項目について、「①とてもあてはまる」から「④まったくあてはまらない」からそれぞれ一つ選んでください。



* 「①とてもあてはまる」「②わりとあてはまる」の回答を集計

「子どもを育てていてよかったと思うこと」の4項目は、すべて90%以上であり、変化はない。「負担に思うことや悩み」の最上位は「子どもと関わる時間をもっと持つことができたらよいのと感じる」であり、この項目のみ割合が増えた。

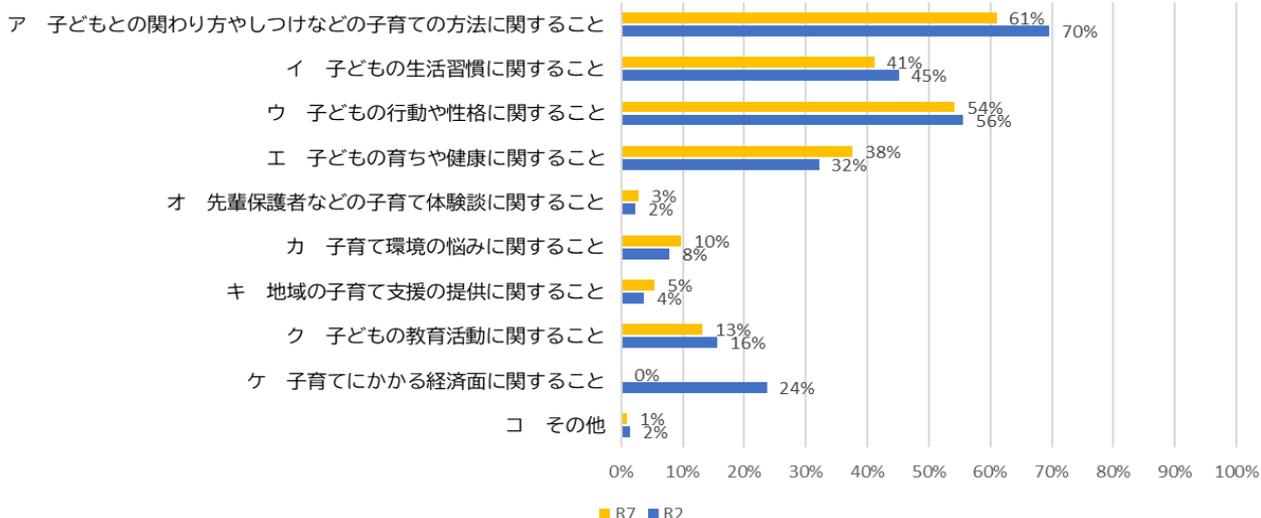
1-2【全員回答】子育てや家庭教育に関する悩みや気になることについて誰に、あるいはどこに、相談していますか。また、参考にしていますか。あてはまるものを5つまで選んでください。



上位3項目は、「配偶者・パートナー」「子育ての仲間や子育て経験がある友人・知人」「あなたや配偶者・パートナーの親」であり、変化はない。また、「SNS」の割合が増えた。

I 幼児の教育・保育に関する実態調査【3歳未満児保護者】

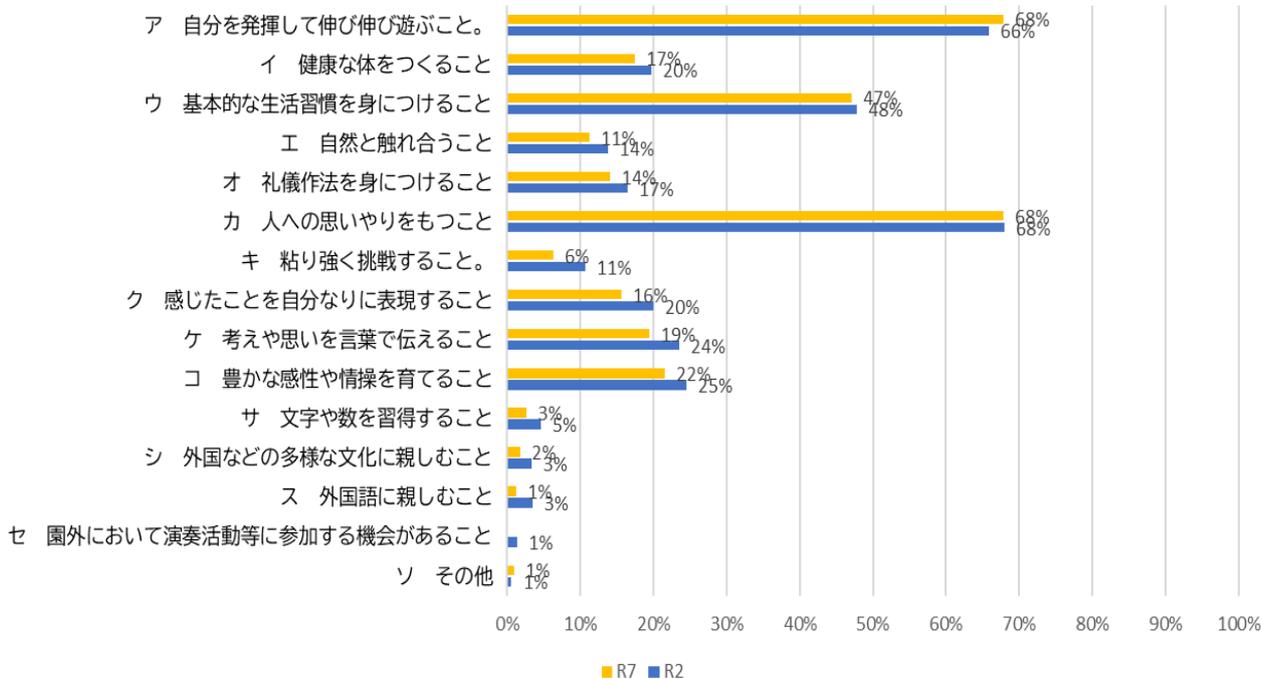
1-3【全員回答】子育てや家庭教育に関する悩みや気になることは主にどのようなことですか。てはまるものを3つまで選んでください。



上位3項目は、「子どもとの関わり方やしつけなどの子育ての方法に関すること」「子どもの行動や性格に関すること」「子どもの生活習慣に関すること」であり、変化はない。また、「子どもの育ちや健康に関すること」の割合が増え、「子育てにかかる経済面に関すること」はなかった。

2 園・所における教育・保育

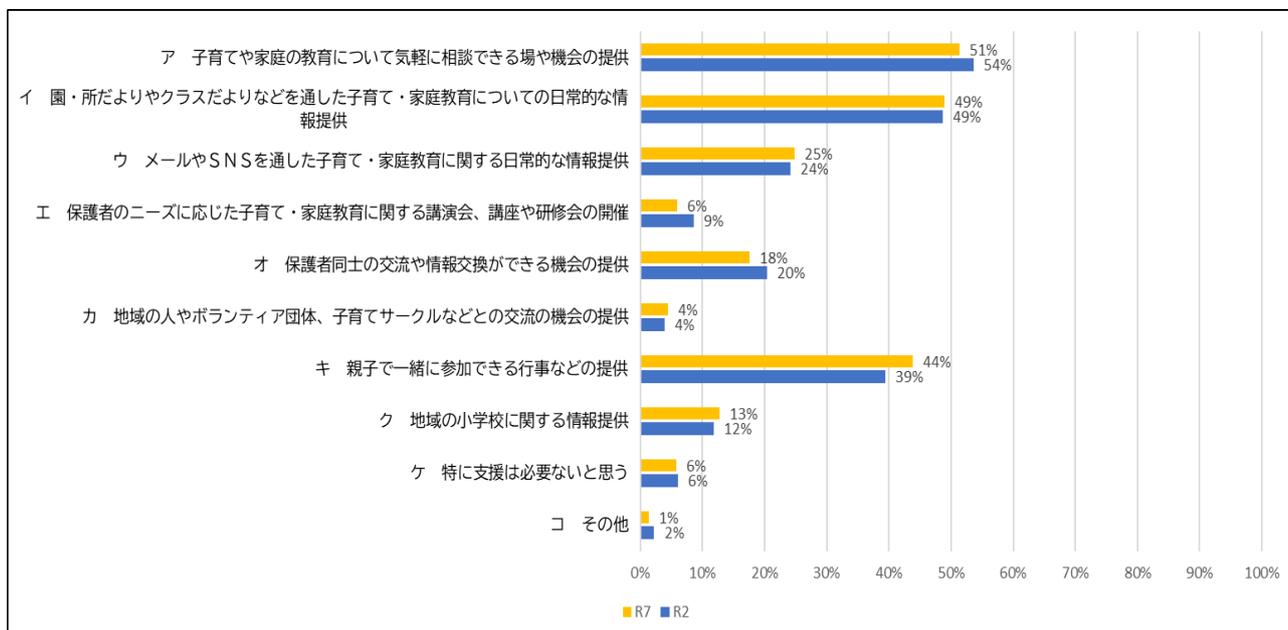
2-1【全員回答】幼稚園・保育所・こども園での保育について、望んでいる内容を3つまで選んでください。



上位3項目は、「人への思いやりをもつこと」「自分を発揮して伸び伸び遊ぶこと」「基本的な生活習慣を身につけること」であり、それぞれの割合についても変化はない。

3 子育て支援

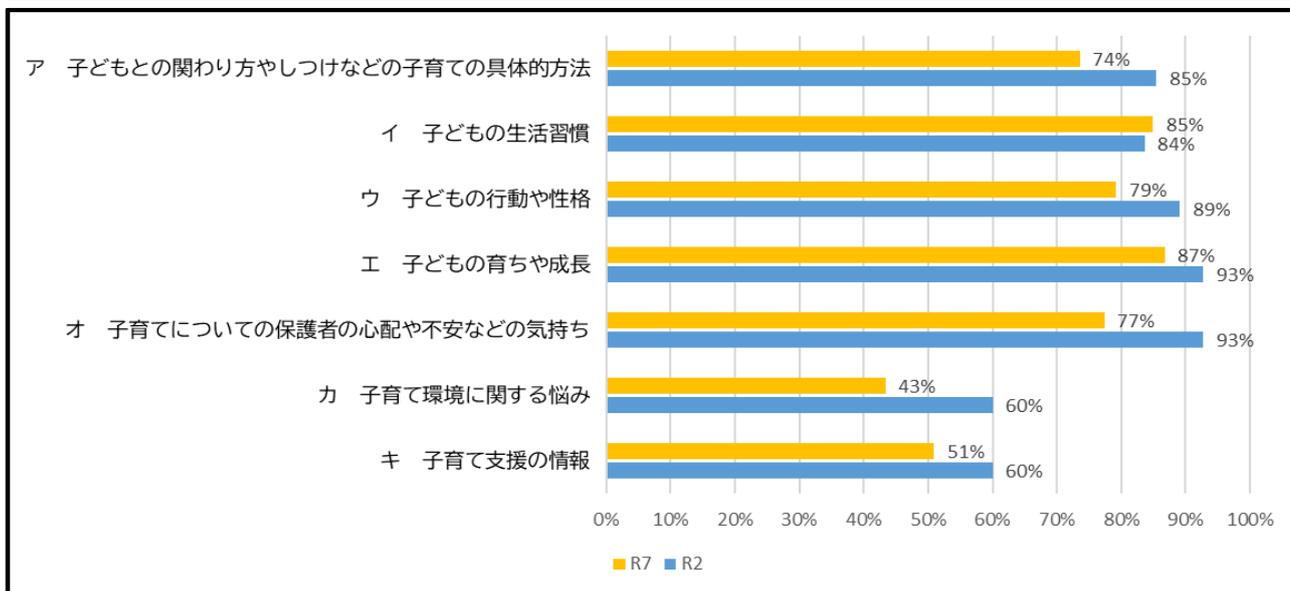
3-1【全員回答】家庭での子育てや家庭教育に対して、園・所からどのような支援があるとよいと思いますか。特にあてはまるものを3つまで選んでください。



上位3項目は、「子育てや家庭の教育について気軽に相談できる場や機会の提供」「園・所だよりやクラスだよりなどを通した子育て・家庭教育についての日常的な情報提供」「親子で一緒に参加できる行事などの提供」であり、変化はない。

1 子育て支援

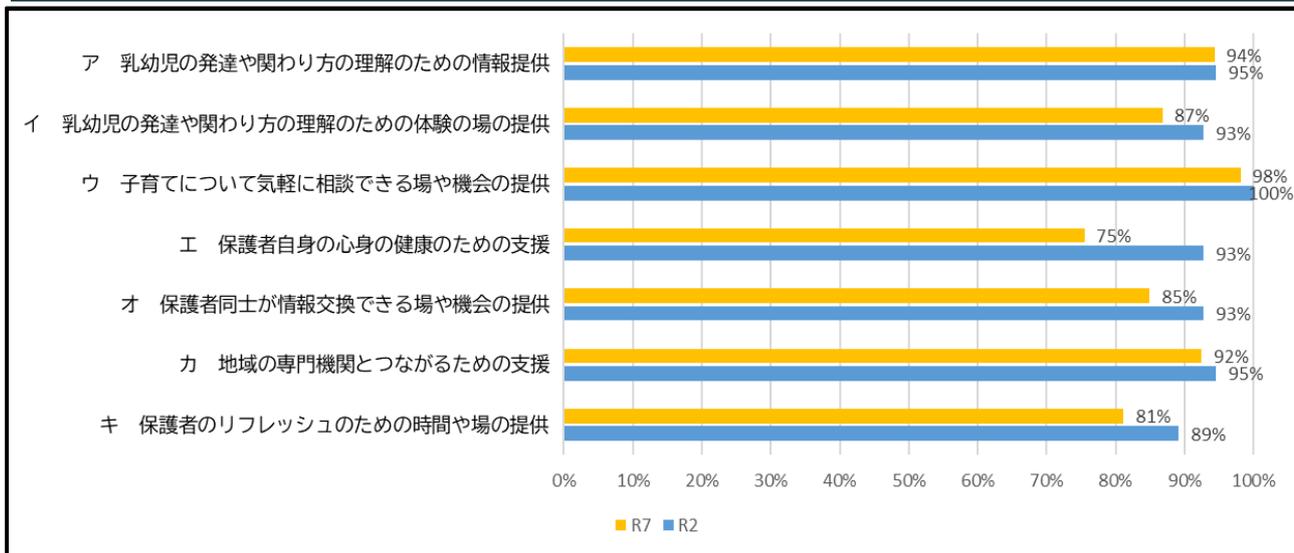
1-1【全員回答】貴所では、保護者からどのような相談を受けますか。「①とてもある」から「④まったくない」の中からあてはまるものを1つ選んでください。



* 「①とてもあてはまる」「②わりとあてはまる」の回答を集計

令和7度の上位3項目は「子どもの育ちや成長」「子どもの生活習慣」「子どもの行動や性格」であり、「子育てについての保護者の心配や不安などの気持ち」の割合が大きく減った。

1-2【全員回答】乳幼児を育てている保護者に対して必要だと思う支援について、「①とてもあてはまる」から「④まったくあてはまらない」の中からあてはまるものを1つ選んでください。



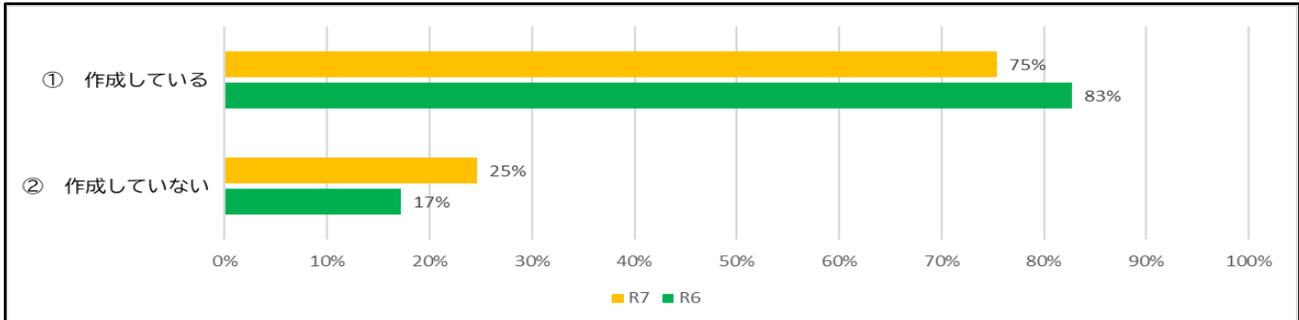
* 「①とてもあてはまる」「②わりとあてはまる」の回答を集計

上位3項目は、「子育てについて気軽に相談できる場や機会の提供」「乳幼児の発達や関わり方の理解のための情報提供」「地域の専門機関とつながるための支援」で、どれも90%以上であり、変化はない。「保護者自身の心身の健康のための支援」の割合が大きく減った。

Ⅱ 幼保小の連携・接続に関する実態調査

1 カリキュラム

1-1【全員回答】 5歳児カリキュラムを作成していますか。



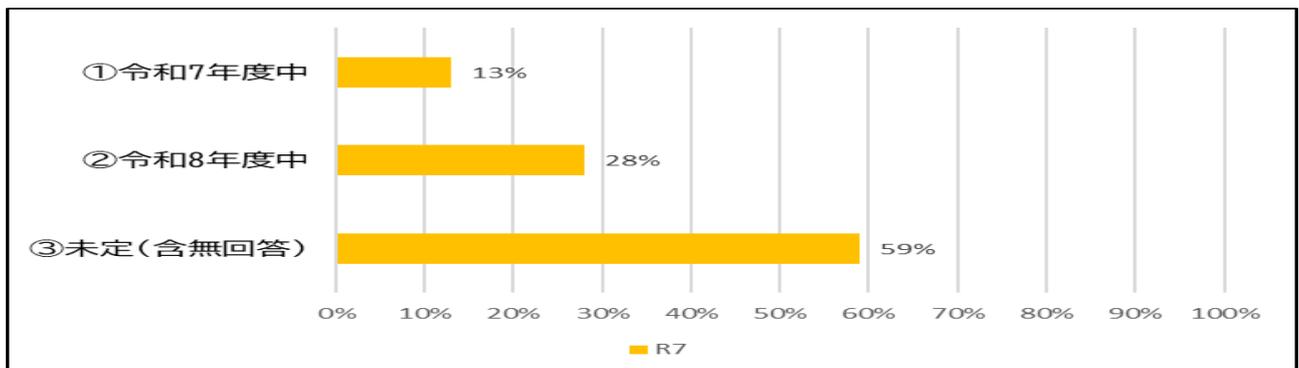
「作成している」園・所は減ったものの、75%が5歳児カリキュラムを「作成している」。

1-2【設問 1-1 で②を選択した方のみ回答】 「作成していない」理由を書ってください。

- (1) 既存の計画で対応
これまで使用してきた5歳児の計画を見直して使用している。
年間・月間計画等に取り入れている。
現行のカリキュラムが小学校接続を視野に編成されている。
保育計画に組み込まれており、特別に作成していない。
- (2) 人的・時間的リソース不足
日々の保育で手一杯。
教員の負担を減らすため、シンプルな対応を検討している。
- (3) 小学校との連携不足
小学校側が忙しく、連携を断られている。
- (4) 制度・地域の課題
市でまだ取り組みが始まっていない。
地域行政との連携を望んでいる。
- (5) 施設の特徴
未満児保育園のため対象年齢児がいない。あるいは、現在5歳児が不在。
- (6) その他の理由
一方的な内容になる懸念があるため作成していない。

1-3【設問 1-1 で②を選択した方のみ回答】

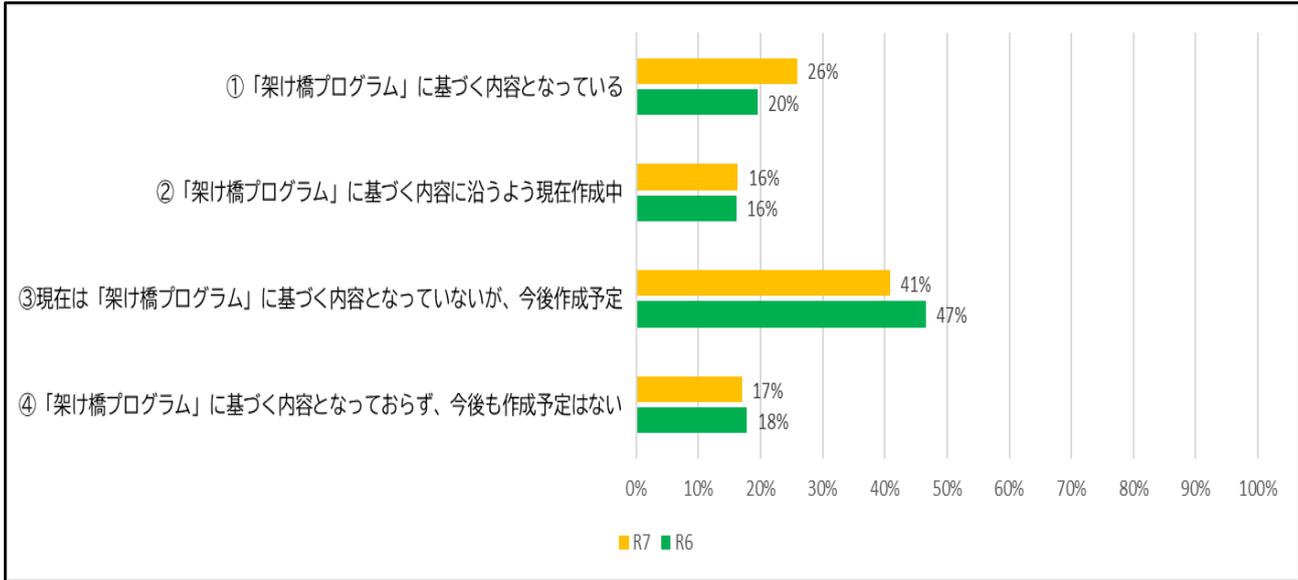
カリキュラム作成作業が完了するのは、いつ頃の予定ですか。(R6 未実施項目)



R7年度中を含め、R8年度までに41%が作成する予定である。「未定」が最も多く、約60%を占めている。

1-4 【1-1 で①を選択した方のみ回答】

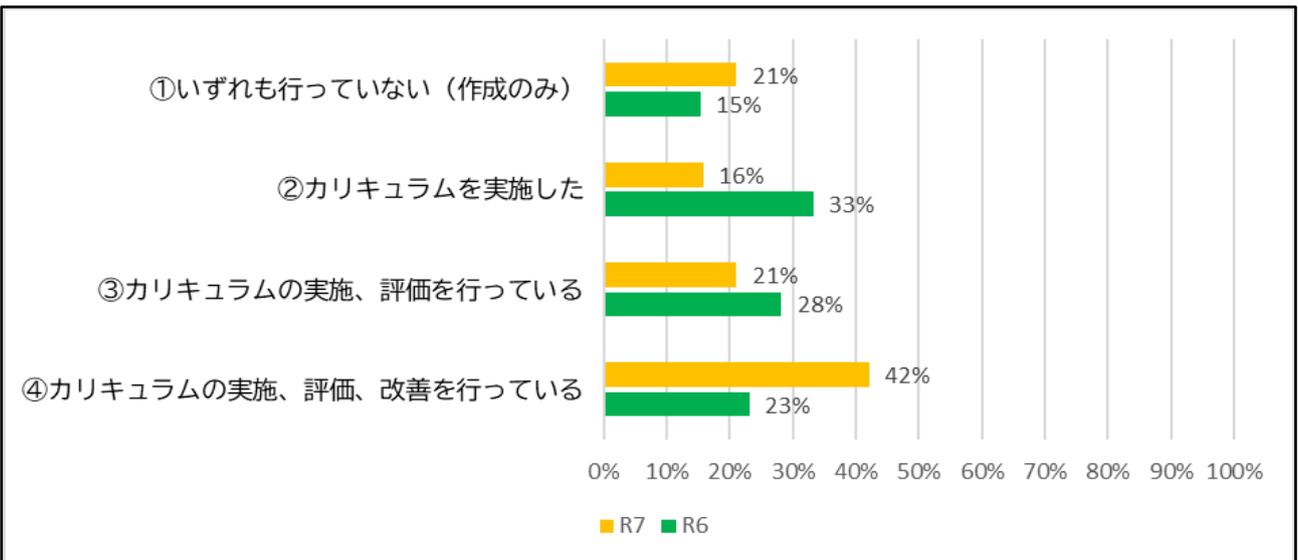
5歳児カリキュラムは「**幼保小の架け橋プログラム**」に基づく内容となっていますか。



上位2項目は、「現在は『架け橋プログラム』に基づく内容となっていないが、今後作成予定」「『架け橋プログラム』に基づく内容となっている」であり変化はない。
特に「『架け橋プログラム』に基づく内容となっている」が増えた。

1-5 【問 1-4 で①を選択した方のみ回答】

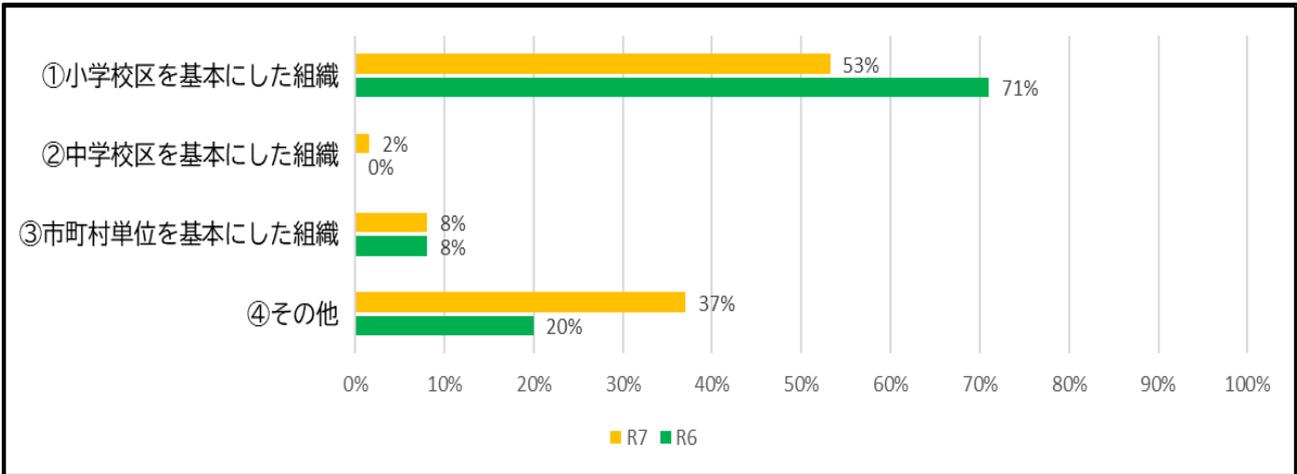
幼保小の連携・協働に基づいて作成した5歳児カリキュラムについて実施、評価、改善を行っていますか。



R6の最上位「カリキュラムを実施した」が大きく減って、「カリキュラムの実施、評価、改善を行っている」が大きく増えて、最上位となった。

1-6 【問 1-4 で①または②を選択した方のみ回答】

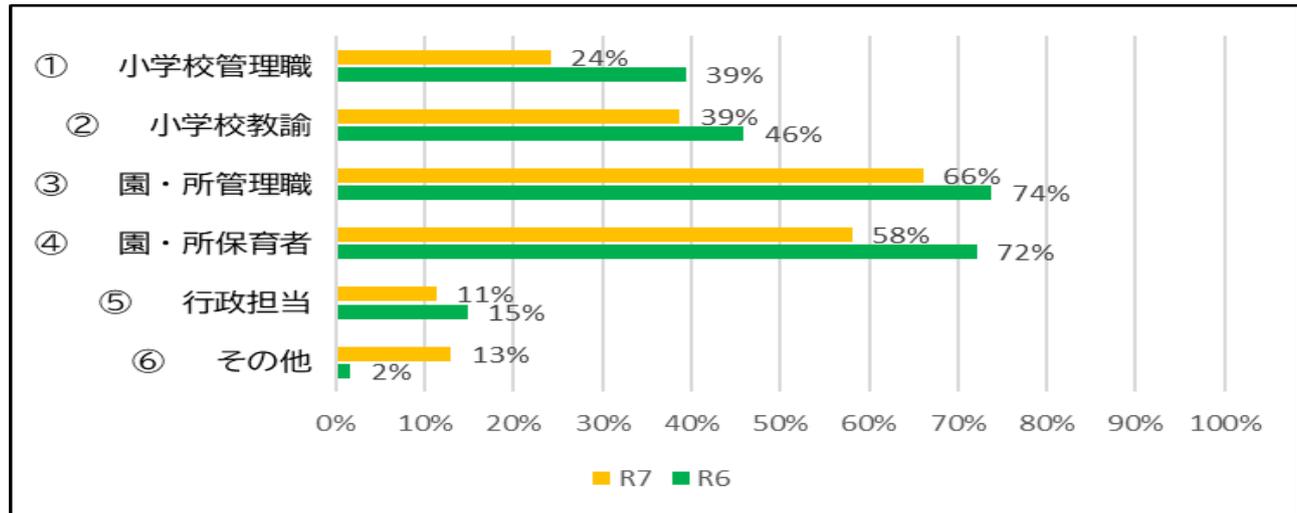
幼保小の連携・協働に基づいて作成した5歳児カリキュラムの作成においては、どのような組織で協議を行いましたか。



最上位は、「小学校区を基本にした組織」であり、変化はない。

1-7 【問 1-4 で①または②を選択した方のみ回答】

問 1-6 の組織に関わった（関わっている）人は誰ですか。（複数回答可）



最上位3項目は、「園・所管理職」「園・所保育者」「小学校教諭」で、変化はない。

1-8 【1-7 で⑤と回答した方のみ回答】

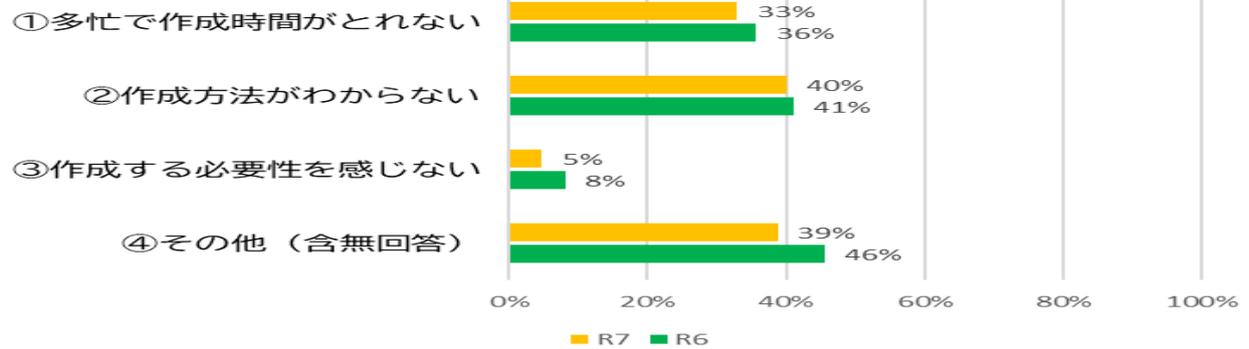
担当課を記入してください。

	R6	R7
教育委員会	3件	5件
保育課	2件	3件
教育総務課と子育て支援課	1件	0件
やまなし幼児教育センター	1件	0件

教育委員会、保育課が、わずかではあるが増えた。

1-9【問1-4で③または④を選択した方のみ回答】

架け橋プログラムに基づく内容となっていない理由をお答えください。（複数回答可）

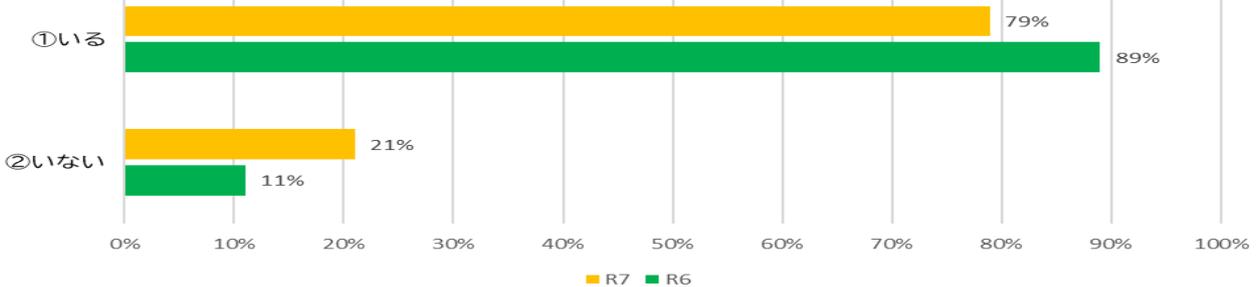


「作成方法がわからない」「多忙で作成時間がとれない」「その他」が多く、変化はない。

2 幼保小の連携・接続担当者

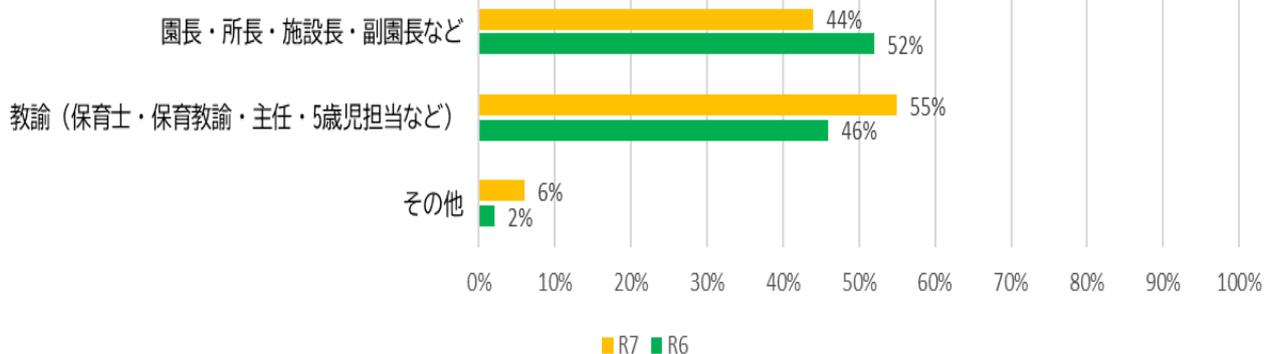
2-1【全員回答】

幼保小の連携・接続を進めるにあたり、窓口となる担当者はいますか。



わずかに減ったが、79%の園・所に担当者がある。

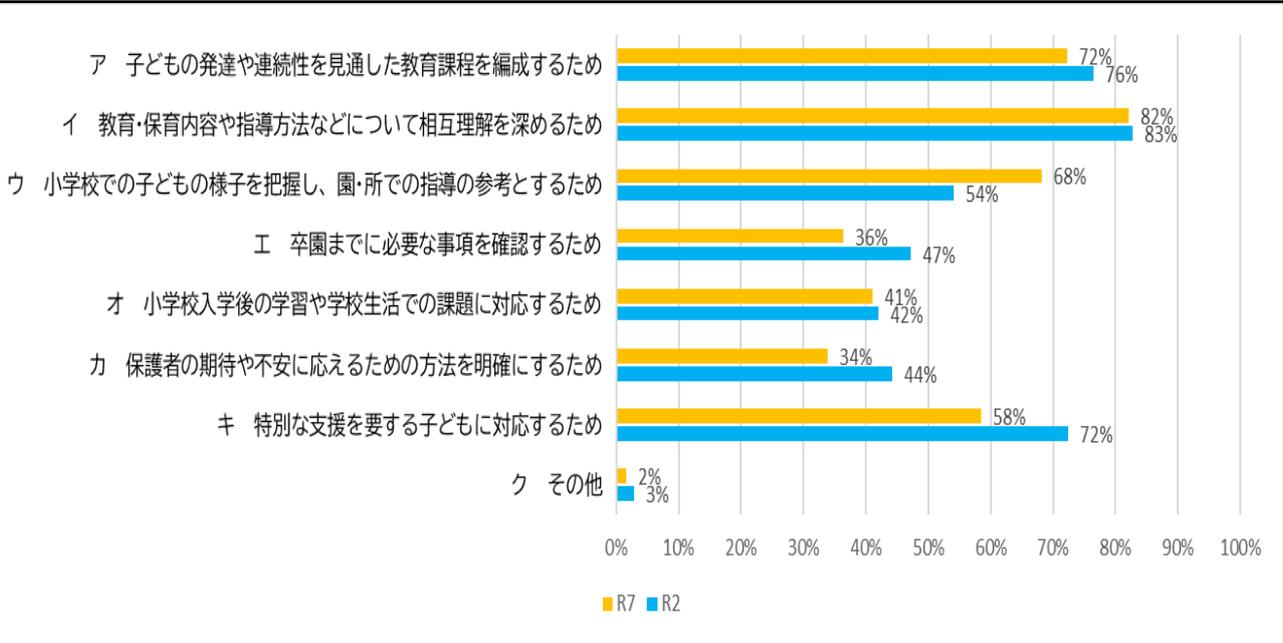
2-2【設問2-1で①を選択した方のみ回答】担当者の職名を記入してください。



「園長・所長・施設長・副園長など」が減って、「教諭（保育士・保育教諭・主任・5歳児担当など）」が増えて最上位となった。

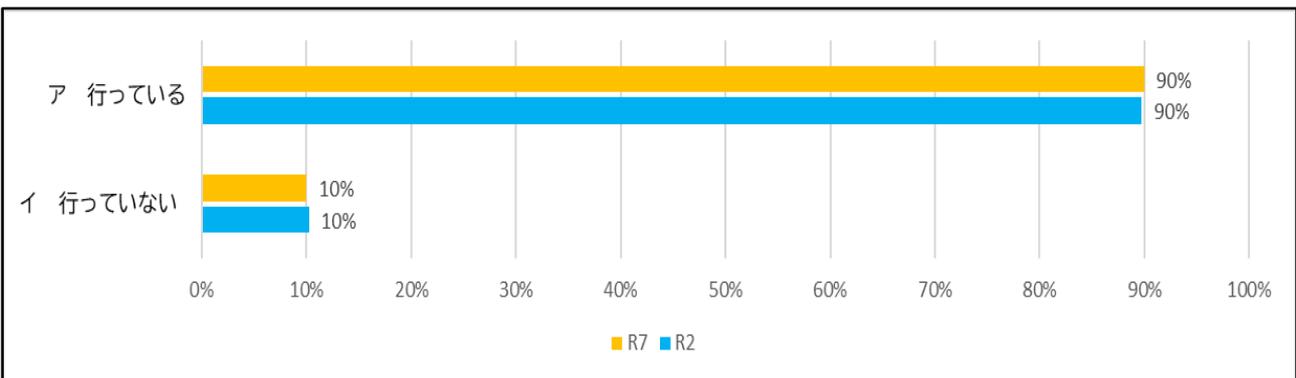
3 幼保小の連携・接続の取組（令和7年度実施 幼児教育実態調査）

3-1【全員回答】 貴園・所では幼保小連携・接続について、どのような意義があると思いますか。（複数回答可）



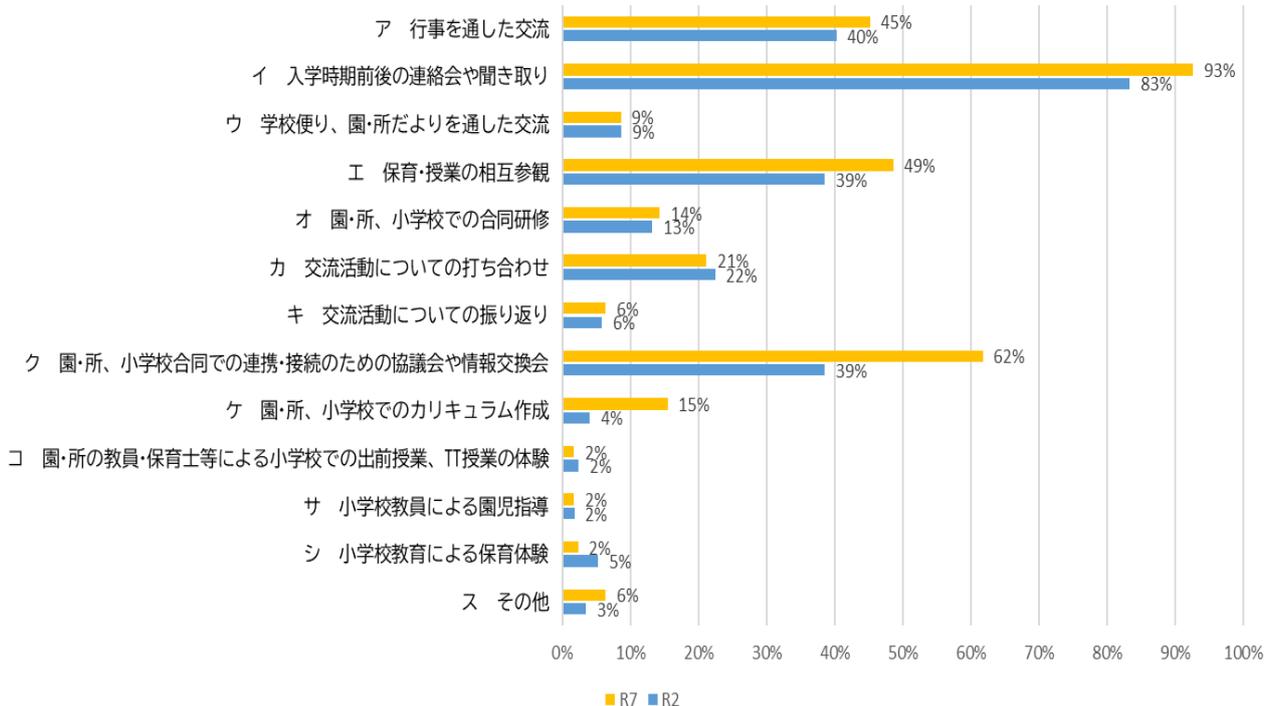
上位2項目は「教育・保育内容や指導方法などについて相互理解を深めるため」「子どもの発達や連続性を見通した教育課程を編成するため」であり、変化はない。「特別な支援を要する子どもに対応するため」の割合が減って、「小学校での子どもの様子を把握し、園・所での指導の参考とするため」の割合が増えた。

3-2【全員回答】 貴園・所では幼保小の連携・接続の取組を行っていますか。



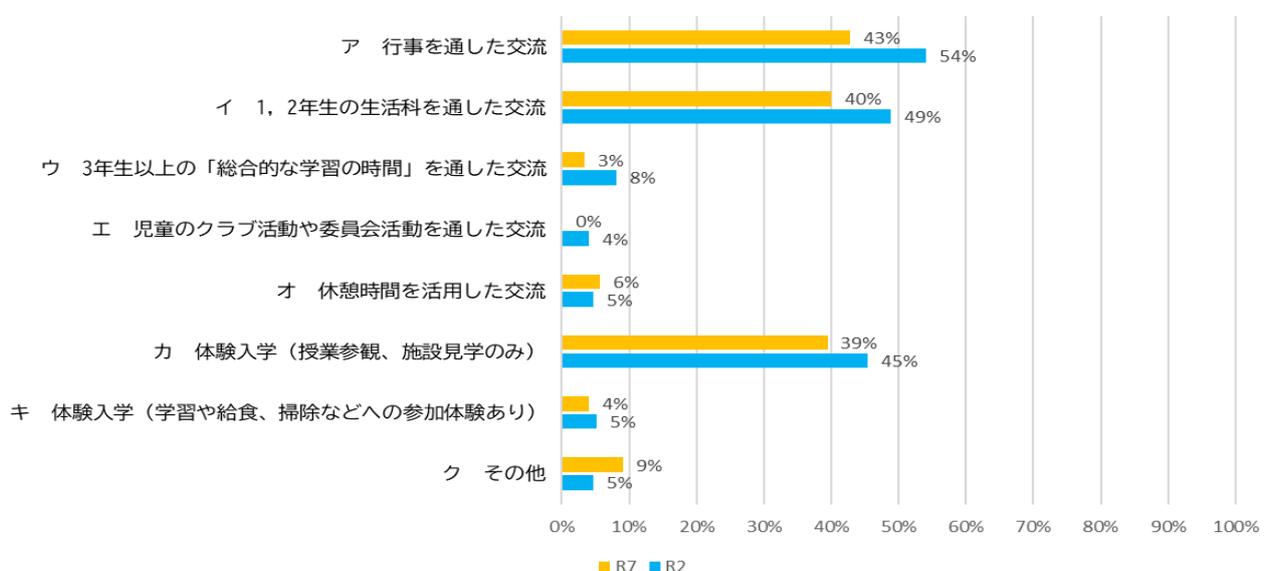
90%の園・所が幼保小の連携・接続の取組を行っており、変化はない。

3-3【設問 3-2 で①を選択した方のみ回答】 貴園・所と小学校との連携・接続の取組における「教職員の関わり」についてお答えください。(複数回答可)



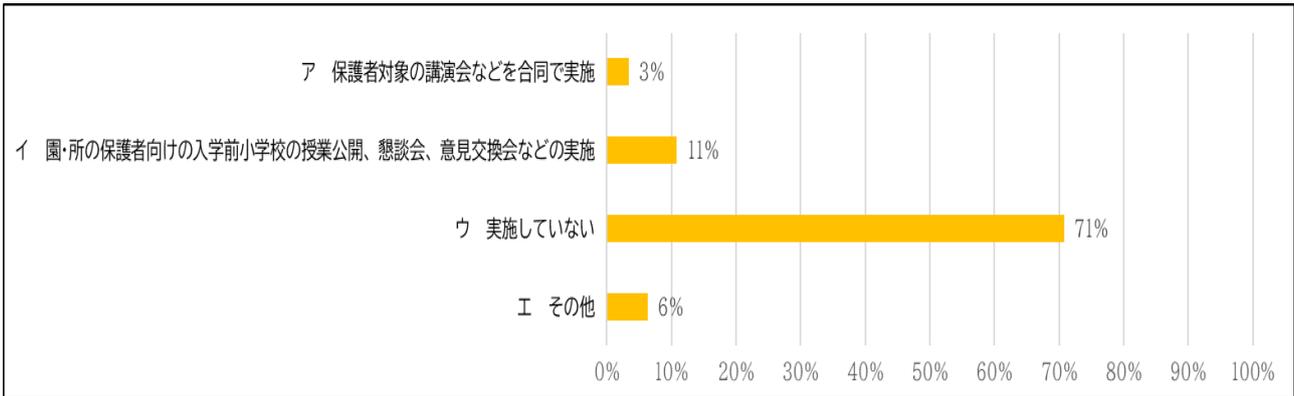
最上位項目は、「入学時期前後の連絡会や聞き取り」で変化はないが、「園・所、小学校合同での連携・接続のための協議会や情報交換会」「保育・授業の相互参観」の割合が大きく増えて、その他の項目の順位が変化した。また、「園・所、小学校でのカリキュラム作成」の割合も大きく増えた。

3-4【設問 3-2 で①を選択した方のみ回答】 貴園・所と小学校との連携・接続の取組における「幼児と児童の関わり」についてお答えください。(複数回答可)



上位3項目は、「行事を通じた交流」「1, 2年生の生活科を通じた交流」「体験入学（授業参観、施設見学のみ）」であり、変化はない。

3-5【設問 3-2 で①を選択した方のみ回答】 貴園・所と小学校との連携・接続の取組における「保護者対象の取組」についてお答えください。（複数回答可）

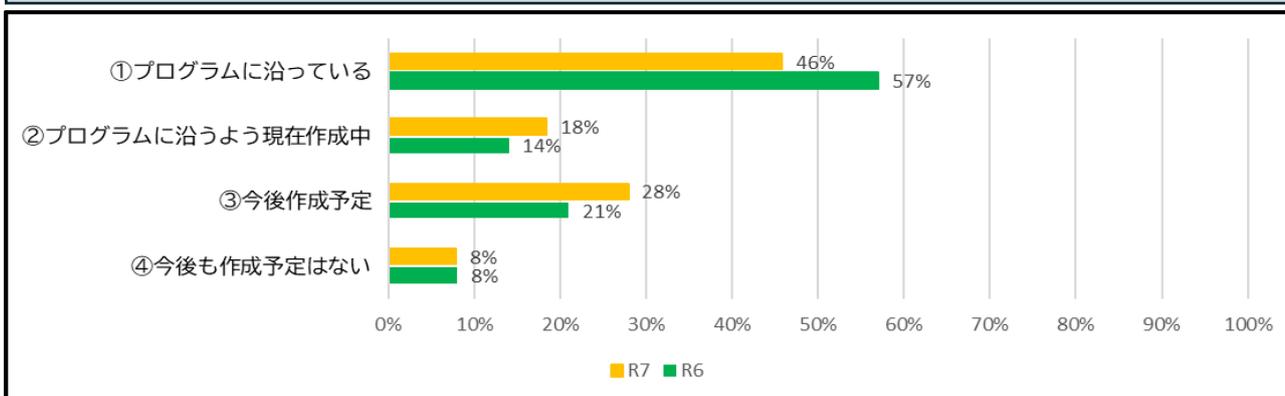


71%の園・所では、小学校との連携・接続の取組における保護者対象の取組を行っていない。

1 カリキュラム

1-1【全員回答】

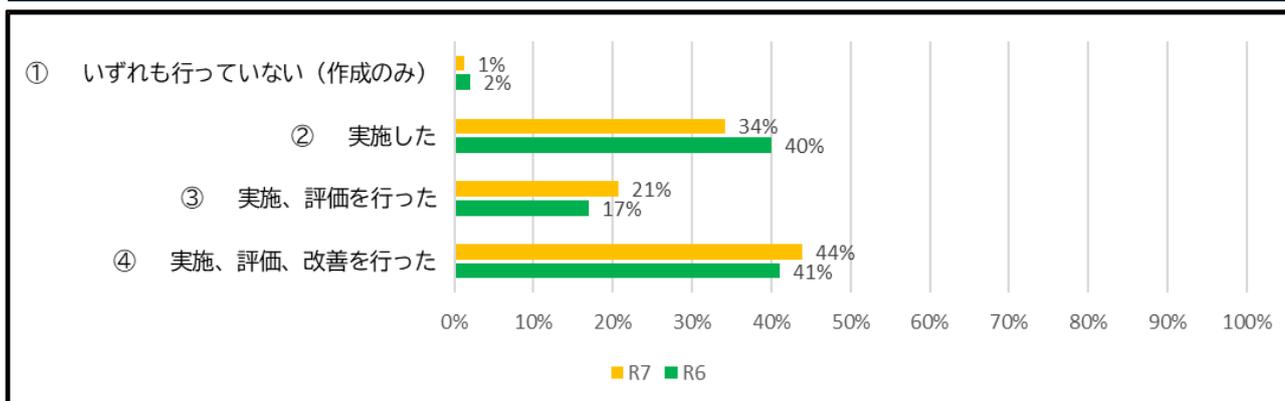
スタートカリキュラムは「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっていますか。



最上位項目は「プログラムに沿っている」であり、「プログラムに沿うよう現在作成中」「今後作成予定」が増えた。

1-2【設問 1-1 で①を選択した方のみ回答】

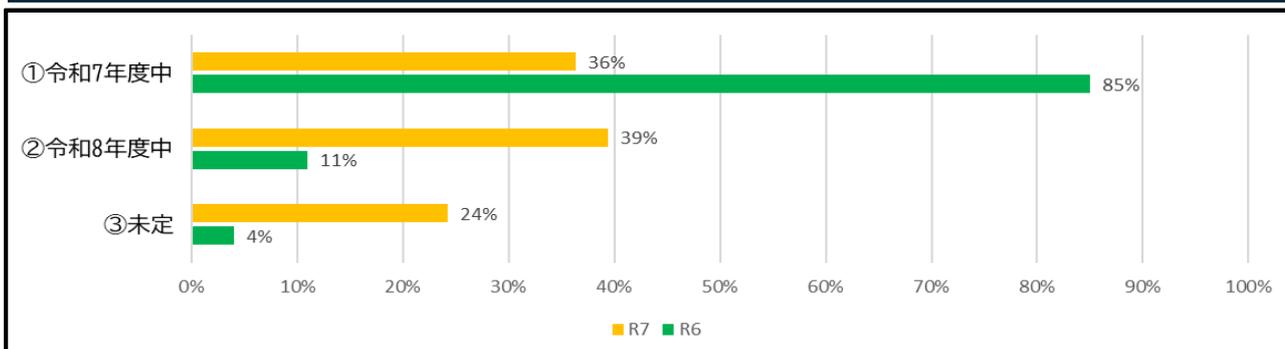
幼保小の連携・接続に基づいたスタートカリキュラムについて実施、評価、改善を行っていますか。



「実施、評価を行った」「実施、評価、改善を行った」が増えて、「行ってはいない」「実施した」は減った。

1-3【設問 1-1 で②を選択した方のみ回答】

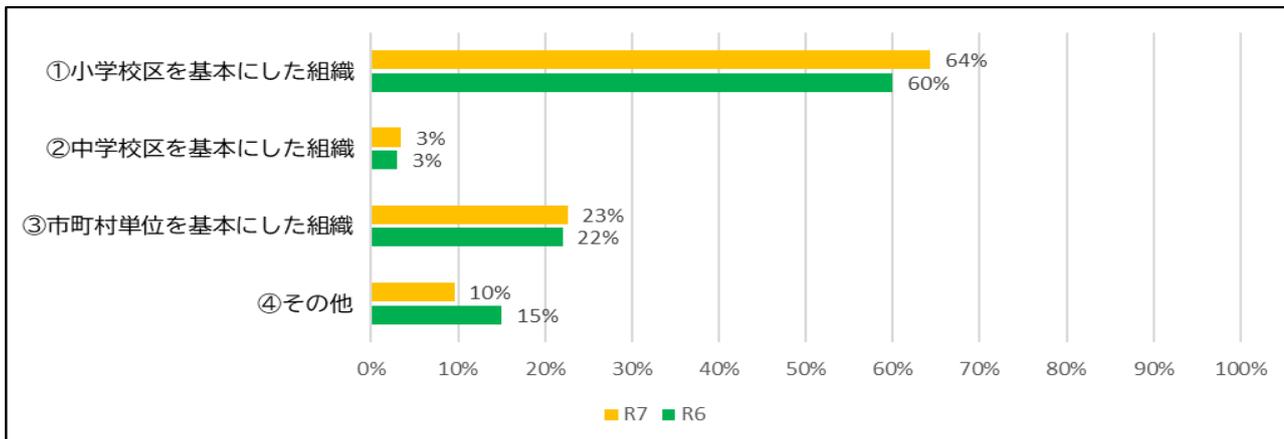
カリキュラム作成作業が完了するのは、いつ頃の予定ですか。



「令和8年度中」、「未定」が大きく増え、「令和7年度中」が大きく減った。

1-4 【設問 1-1 で①または②を選択した方のみ回答】

幼保小の連携・接続に基づいたスタートカリキュラムの作成において、どのような組織で協議を行いましたか。（協議していますか。）



最上位は、「小学校区を基本にした組織」であり、変化はない。

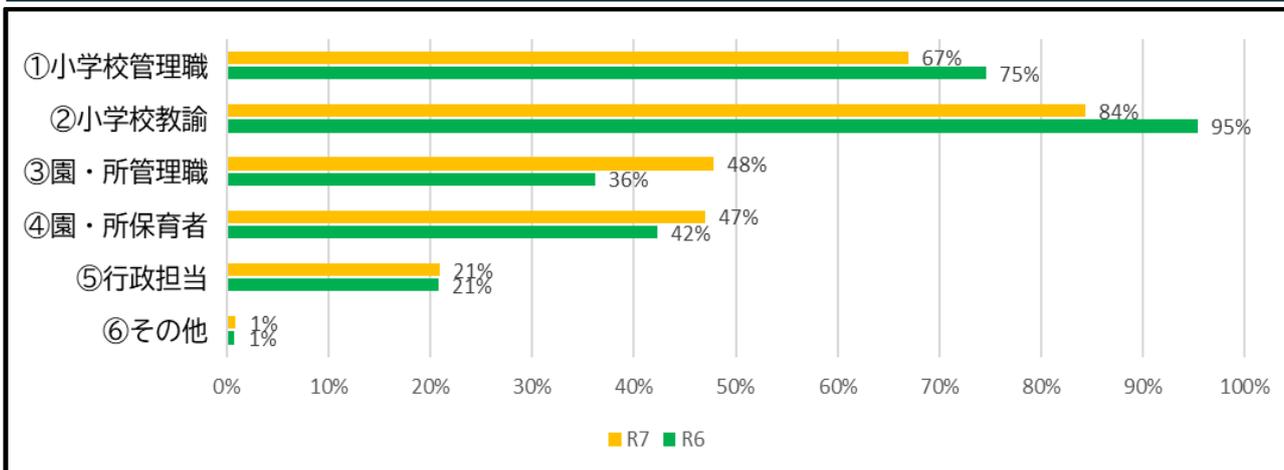
1-5 【設問 1-4 で④を選択した方のみ回答】

具体的に記述してください。

自校で作成 2校

1-6 【設問 1-1 で①または②を選択した方のみ回答】

設問 1-4 の組織に関わった（関わっている）人は誰ですか。（複数回答可）



園・所において関わる割合が増え、小学校における割合が減った。行政担当の割合は、変化ない。

1-7 【設問 1-6 で⑤を選択した方のみ回答】

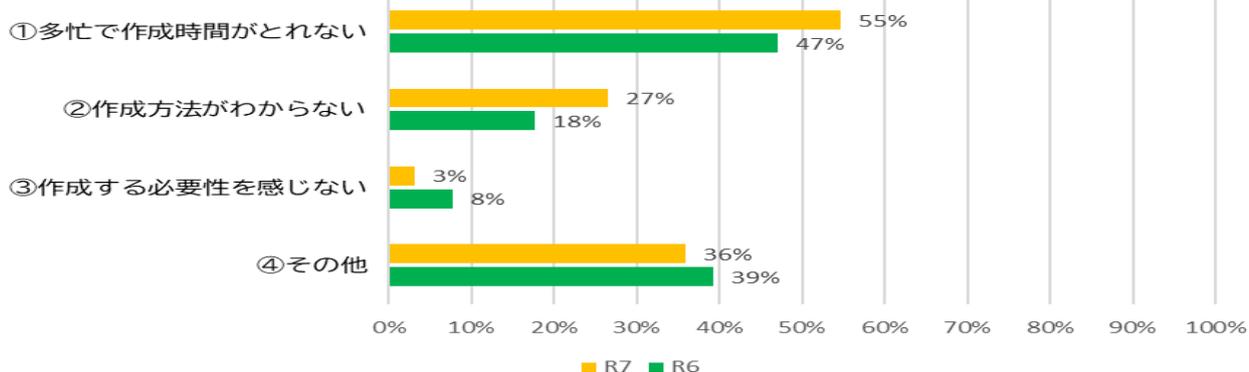
担当課を記述してください。

	令和6年度	令和7年度
子育て支援課（政策課）	2件	1件
市町村教育委員会（関連）	25件	24件
教育委員会・福祉課	2件	0件

市町村教育委員会が最も多い。

1-8【設問 1-1 で③または④を選択した方のみ回答】

「架け橋プログラム」に基づく内容となっていない理由をお答えください。（複数回答可）

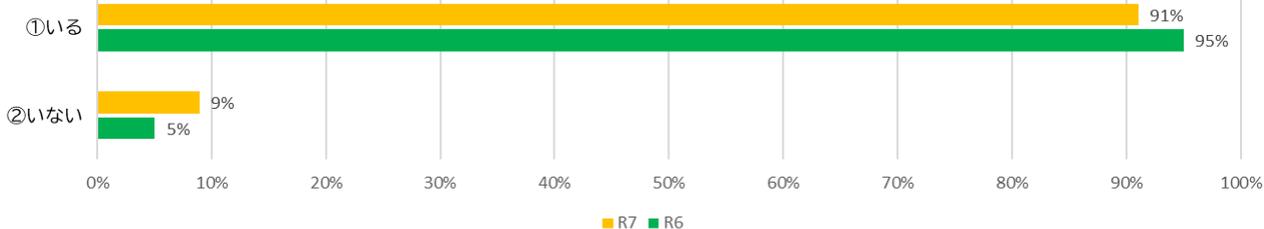


「多忙で作成時間が取れない」「作成方法がわからない」が増え、「作成する必要性を感じない」は減った。「その他」は、情報不足や連携体制・組織の未整備、等だった。

2 幼保小の連携・接続担当者

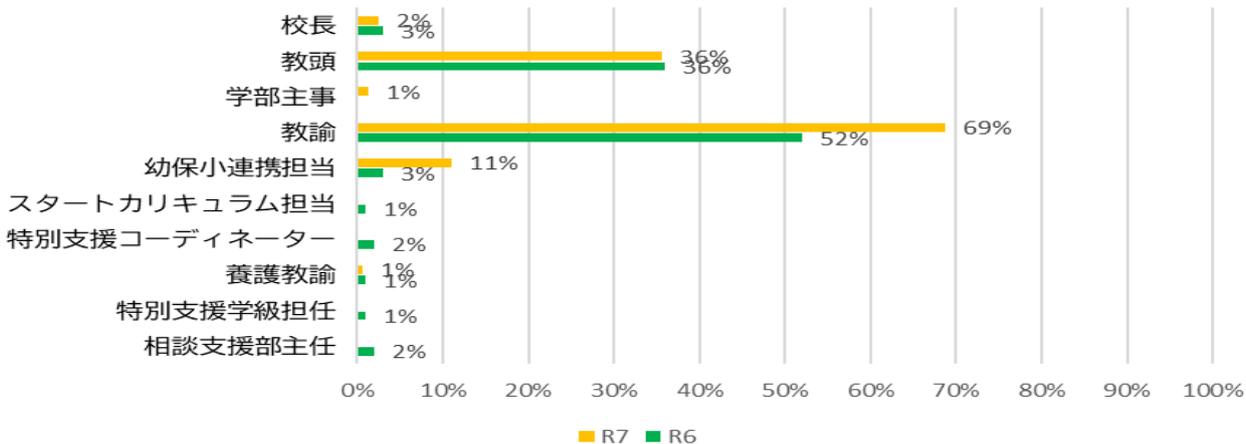
2-1【全員回答】

幼保小の連携・接続を進めるにあたり、窓口となる担当者はいますか。



わずかに減ったが、91%の小学校に担当者が「いる」。

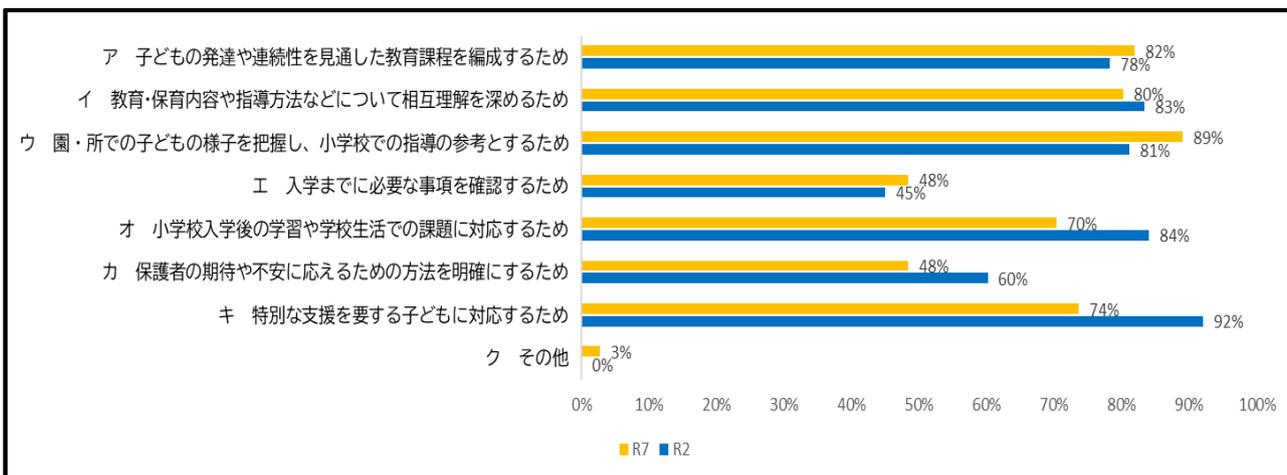
2-2【設問 2-1 で①を選択した方のみ回答】 担当者の職名を記入してください。



上位2項目は「教諭」、「教頭」であり、変わらない。「幼保小連携担当」が大きく増えた。

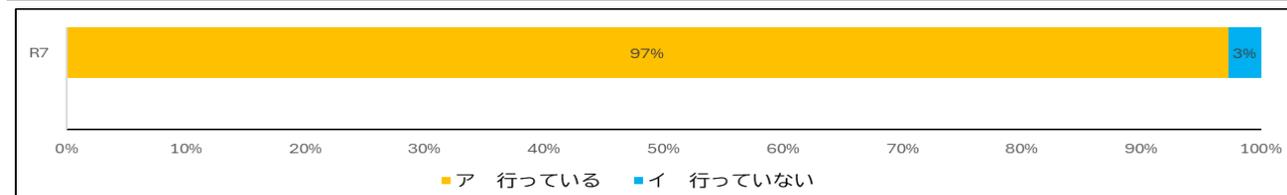
3 幼保小の連携・接続の取組（令和7年度実施 幼児教育実態調査）

3-1【全員回答】幼保小連携・接続について、どのような意義があると思いますか。（複数回答可）



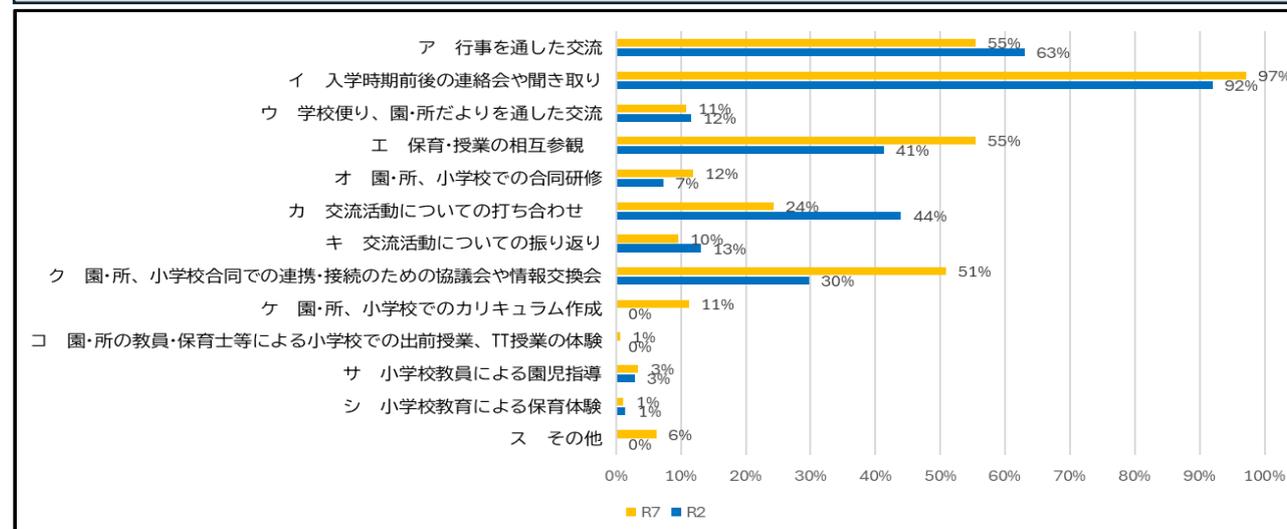
上位3項目は、「園・所での子どもの様子を把握し、小学校での指導の参考とするため」「子どもの発達や連続性を見通した教育課程を編成するため」「教育・保育内容や指導方法などについて相互理解を深めるため」だった。「特別な支援を要する子どもに対応するため」「小学校入学後の学習や学校生活での課題に対応するため」が大きく減って順位が変化した。

3-2【全員回答】貴校では幼保小の連携・接続の取組を行っていますか。



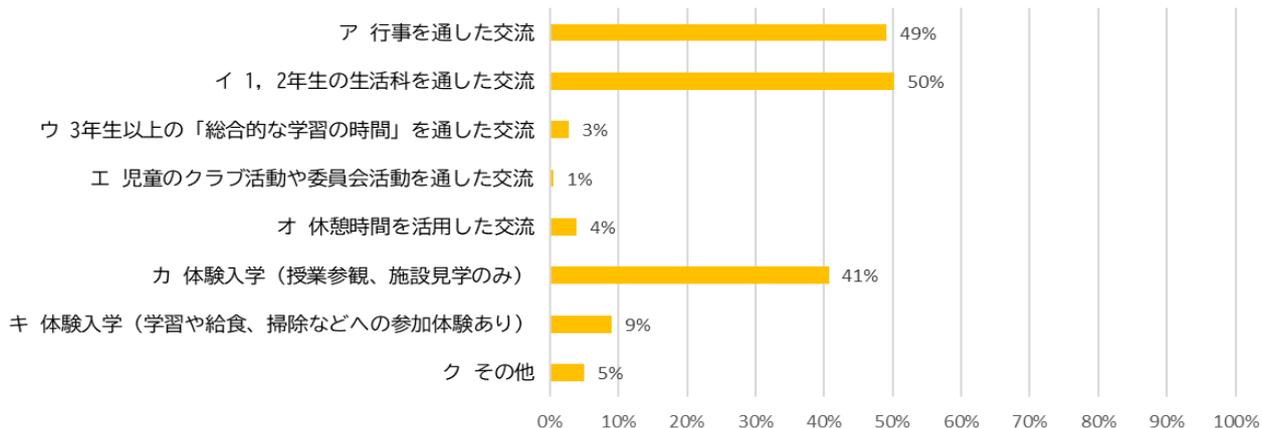
97%の小学校で幼保小の連携・接続の取組を行っている。

3-3【設問3-2で①を選択した方のみ回答】貴校と園・所との連携・接続の取組における「教職員のかかわり」についてお答えください。（複数回答可）



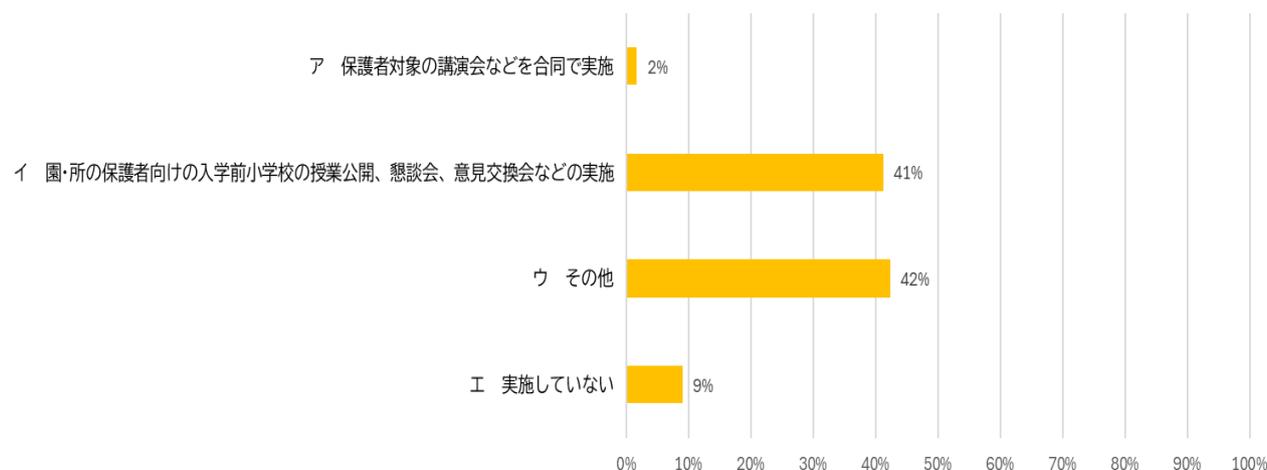
最上位項目は「入学時期前後の連絡会や聞き取り」で変化はないが、「園・所、小学校合同での連携・接続のための協議会や情報交換会」「保育・授業の相互参観」の割合が大きく増えて、その他の項目の順位が変化した。また、「園・所、小学校でのカリキュラム作成」の割合も大きく増えた。

3-4【設問 3-2 で①を選択した方のみ回答】 貴校と園・所との連携・接続の取組における「児童と幼児のかかわり」についてお答えください。（複数回答可）



上位3項目は、「行事を通じた交流」「1, 2年生の生活科を通じた交流」「体験入学（授業参観、施設見学のみ）」であり、変化はない。

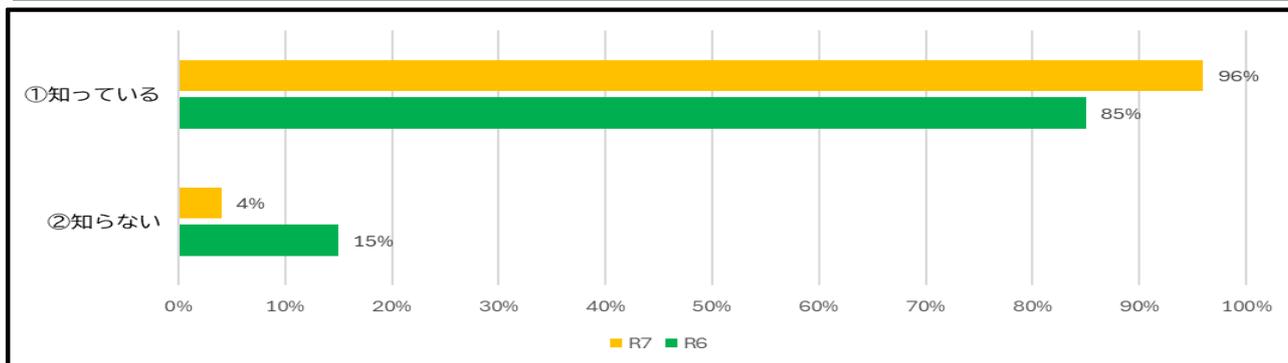
3-5【設問 3-2 で①を選択した方のみ回答】 貴校と園・所との連携・接続の取組における「保護者対象の取組」についてお答えください。（複数回答可）



「園・所の保護者向けの入学前小学校の授業公開、懇談会、意見交換会などの実施」と「その他」の割合がほぼ同じだった。「その他」は、入学説明会、就学時発達検査や保護者説明会での説明や質疑応答、希望する保護者の学校見学、などだった。

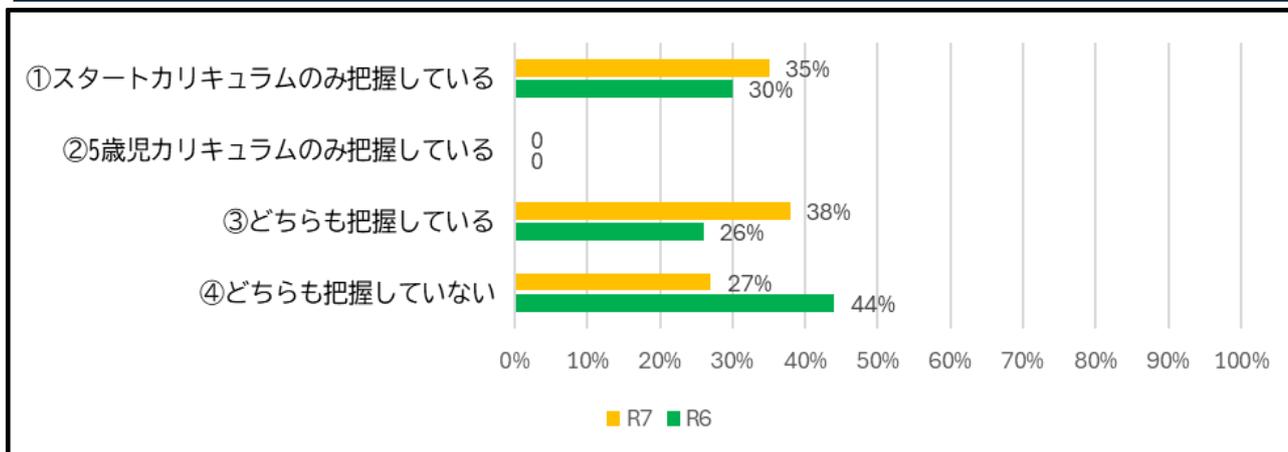
1 カリキュラム

1-1 「幼保小の架け橋プログラム」を知っていますか。



地教委の96%は「幼保小の架け橋プログラム」の存在を認知しており、昨年度より増えた。

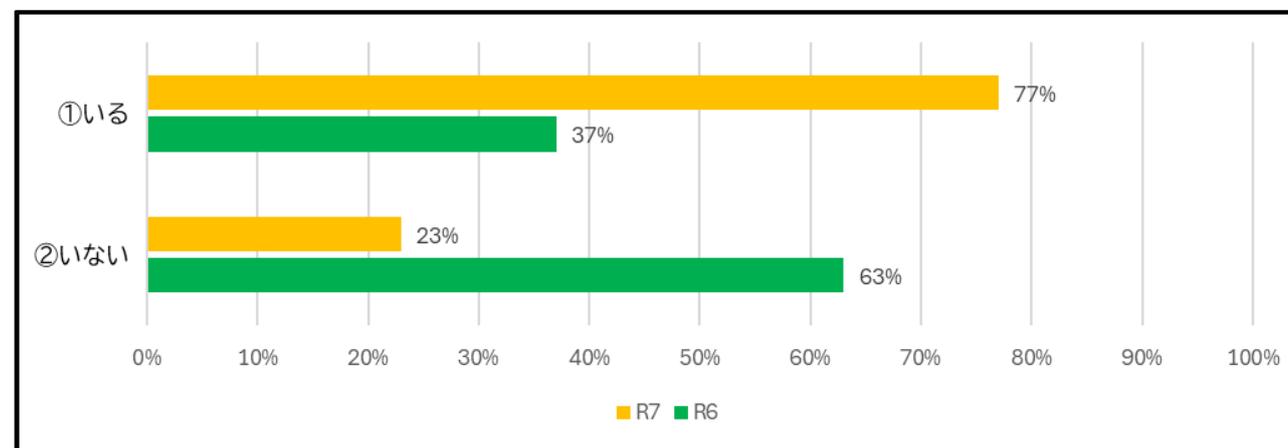
1-2 幼保小の連携・接続に基づいた小学校でのスタートカリキュラム及び教育・保育施設の5歳児カリキュラムの作成・実施状況等について把握していますか。



「どちらも把握している」地教委が大きく増え、スタートカリキュラムの認知度が高まった。

2 幼保小の連携・接続担当者

2-1 「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、窓口となる担当者はいますか。



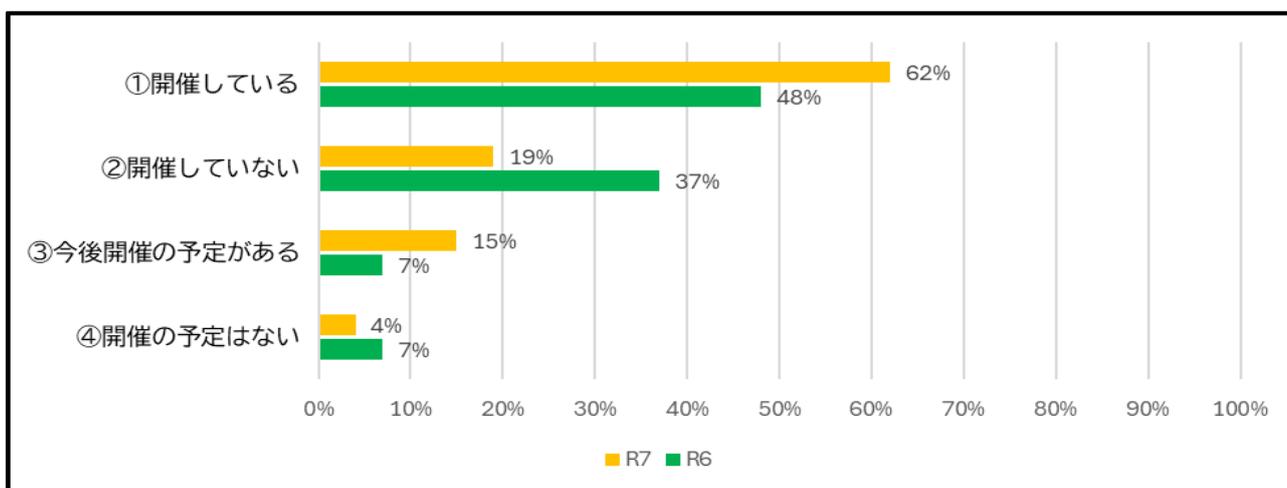
担当者がある地教委は77%であり、昨年度より大きく増えた。

2-2【設問 2-1 で①を選択した方のみ（20 教委）回答】担当者の担当課・担当名等を教えてください。

指導主事	8（教委）
学校教育担当	4
指導監	2
主幹	2
学校教育推進監	1
教育研修所所長	1
課長	1

3 幼保小の連携・接続の取組

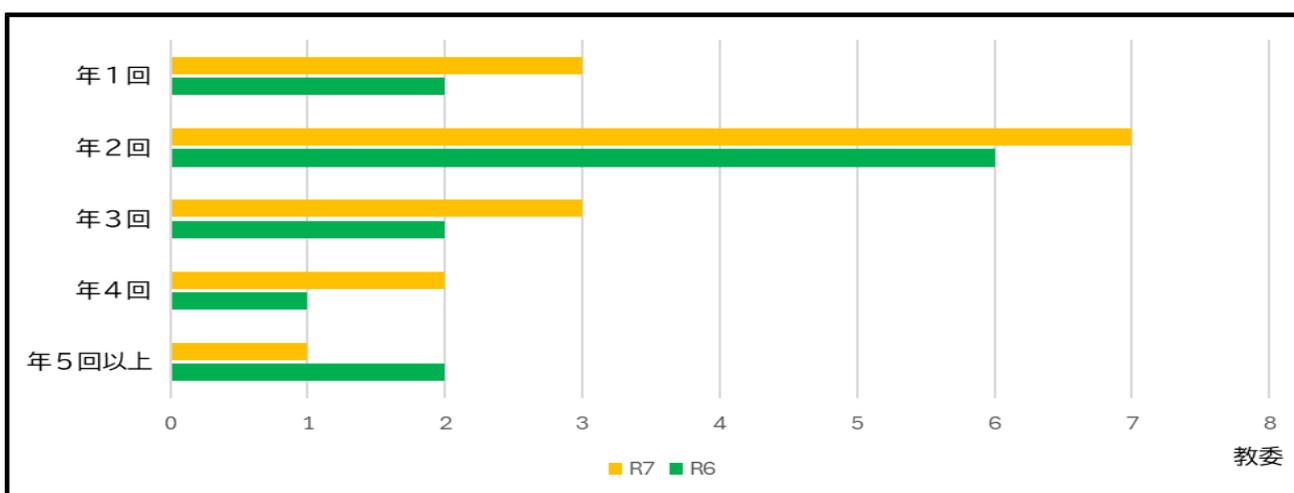
3-2 教育委員会や子育て支援関係課等の行政担当者や幼保小の関係者が参集する会議を開催していますか。



「開催している」「今後開催する予定がある」地教委が大きく増えた。

3-3【設問 3-2 で①と選択した方のみ回答】（R7-16 教委）

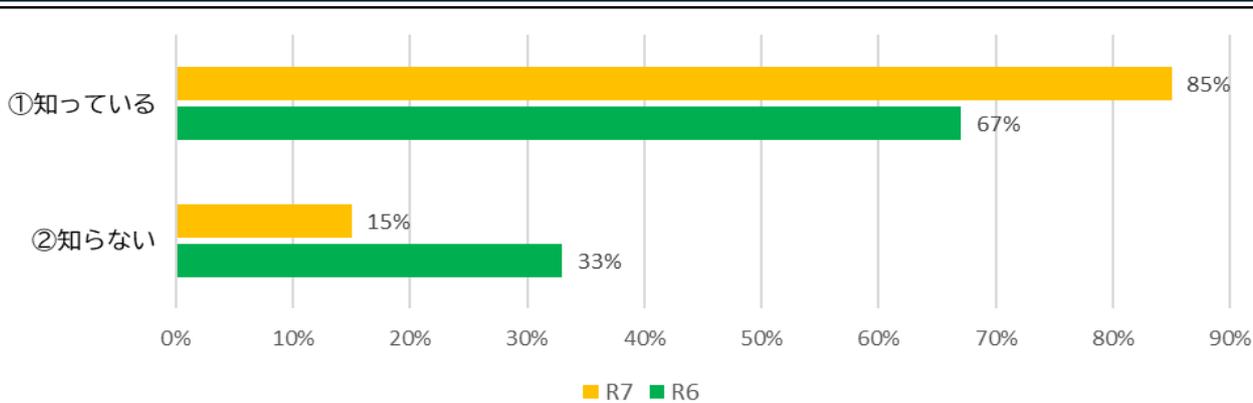
年間の開催回数を教えてください。



年1～4回開催する地教委が昨年度より増え、年2回開催する地教委が最も多い。

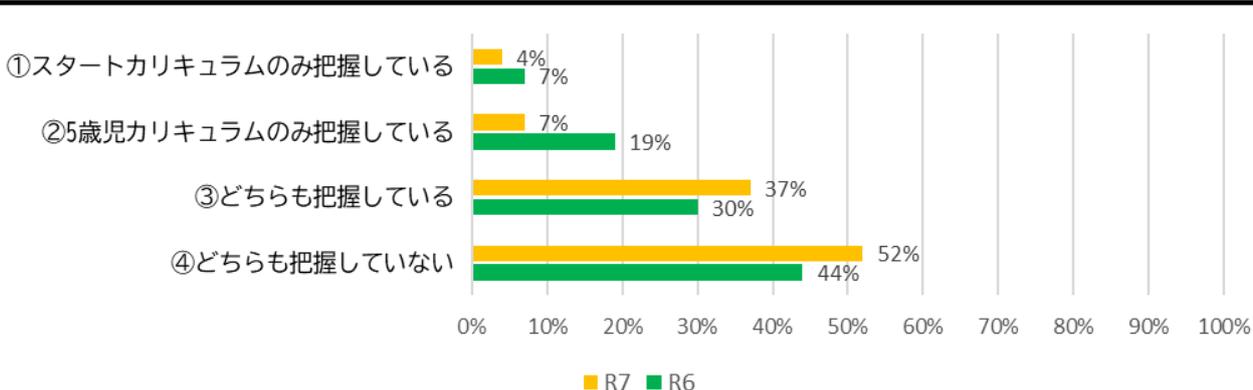
1 カリキュラム

1-1 「幼保小の架け橋プログラム」を知っていますか。



市町村の85%は「幼保小の架け橋プログラム」の存在を認知しており、昨年度より増えた。

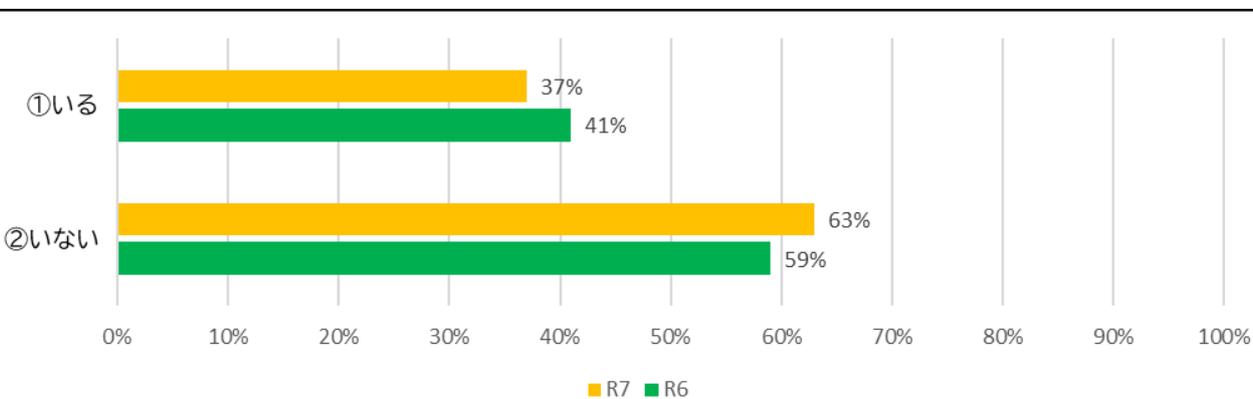
1-2 幼保小の連携・接続に基づいた小学校でのスタートカリキュラム及び教育・保育施設の5歳児カリキュラムの作成・実施状況等について把握していますか。



「どちらも把握していない」市町村が52%と半数を超えた。

2 幼保小の連携・接続担当者

2-1 「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、窓口となる担当者はいますか。



担当者がいない市町村は63%であり、昨年度より増えた。

Ⅱ 幼保小の連携・接続に関する実態調査【市町村子育て支援関係課】

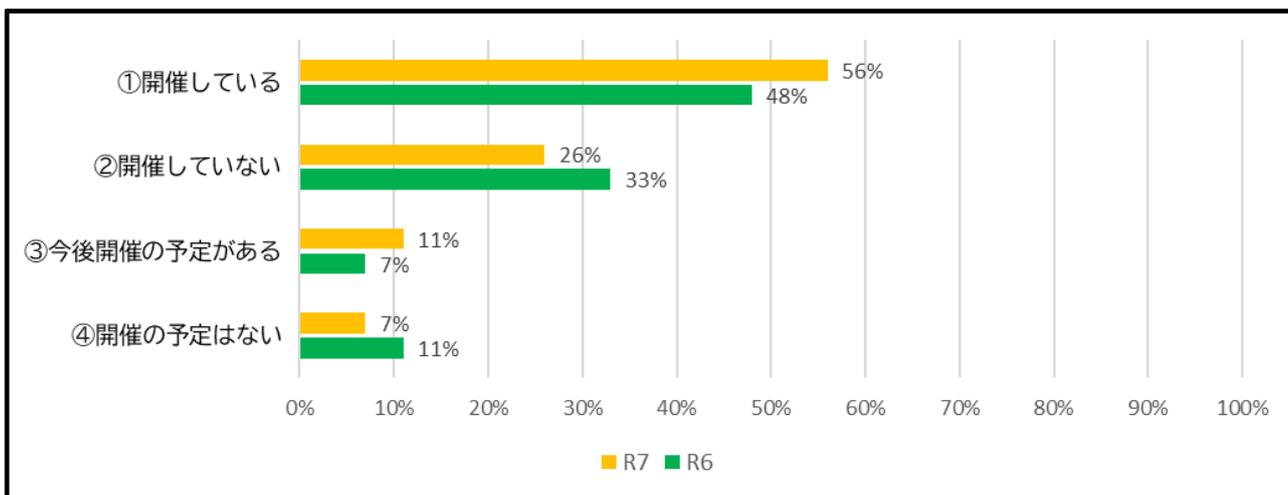
2-2【設問 2-1 で①を選択した方のみ（10 市町村） 回答】

担当者の担当課・担当名等を教えてください。

教育委員会	4（市町村）
小学校長・保育所長	2
子育て支援・保育係	1
子ども子育て課保育担当	1
住民健康課	1
教育総務課・子ども保育課・私立保育園担当保育士	1

3 幼保小の連携・接続の取組

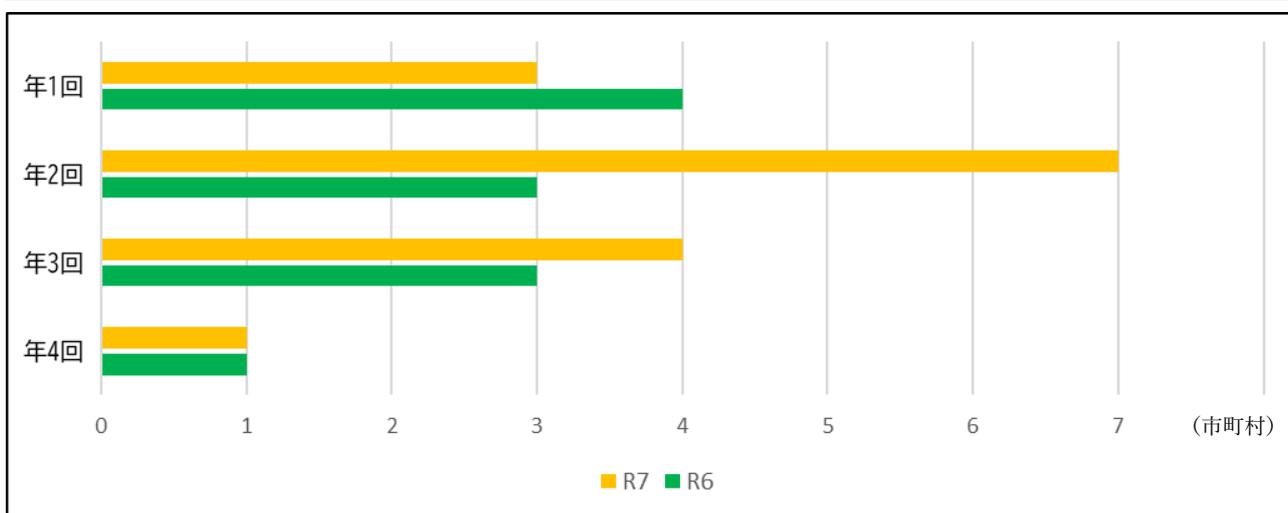
3-2 教育委員会や子育て支援関係課等の行政担当者と幼保小の関係者が参集する会議を開催していますか。



「開催している」「今後開催の予定がある」市町村が増えた。

3-3【設問 3-2 で①と選択した方のみ回答】（R7 - 15 市町村）

年間の開催回数を教えてください。



年2～3回開催する市町村が昨年度より増え、年2回開催する市町村が最も多い。